

岡崎市  
地域福祉に関する  
市民アンケート調査  
＜調査結果報告書＞

令和8年1月

岡崎市

# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収結果	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果の総括	2
III	調査結果	9
1	あなたご自身について	9
2	地域生活に関することについて	14
3	あなたの福祉への関心、意識について	33
4	地域福祉に関することについて	42
5	災害時の支援について	46
6	社会福祉協議会について	52
7	近年の福祉課題について	56
8	地域福祉全般について	77
IV	自由意見	90

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、市民の福祉に対する意識や地域活動への参加状況等の意見・要望等を把握し、本市における「第5次地域福祉計画（令和9年度～令和13年度）」の基礎資料とすることを目的とし、実施しました。

## 2 調査対象

本市在住の満18歳以上の方の中から、無作為に抽出した3,000人の方

## 3 調査期間

令和7年9月5日～令和7年9月26日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収結果

調査年	配布数	有効回答数	有効回答率
令和7年度	3,000件	1,343件	44.7%
令和2年度	3,000件	1,475件	49.2%

## 6 調査結果の表示方法

- (1) 本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。
- (2) 図表中の「令和7年度調査」はこのたび実施した調査を、「令和2年度調査」は「第4次岡崎市地域福祉計画」の策定時に実施した調査をそれぞれ指しており、適宜比較を行っています。一部、「令和2年度調査」の実施時と設問や選択肢が異なるものがあります。
- (3) 図表中の「n」は回答者数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- (4) グラフ中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つの番号に○をつけるもの）であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるすべての番号に○をつけるものなど）は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- (5) 年代別等で示しているグラフの「n」を合わせた数は、年代別や圏域別等の無回答を除いた数であるため、全体の「n」と一致しません。
- (6) 図表において、選択肢等の文字数が長い場合に簡略化している場合があります。
- (7) 表中の網掛けは、「無回答」を除き、最も割合の高い項目を表しています。なお、回答者総数（n）が10未満の場合は順位づけを省略しています。

## Ⅱ 調査結果の総括

### 1. 回答者について

#### ポイント

- 回答者の年齢は、75歳以上、50代、40代といった高齢世代や中高年が中心。
- 本庁圏域の居住者が約3割を占める。
- 親と子の世帯（2世代）が48.8%と約5割を占める。
- 居住年数は15年以上が84.2%と高い。

#### ①回答者について

回答者について（問2）は20歳未満から75歳以上まで幅広い年齢から回答がありました。回答者の多い年代は、「75歳以上」が22.7%で最も高く、次いで「50～59歳」が19.3%、「40～49歳」が14.4%となっています。

お住まいの日常生活圏域（問3）は、本庁圏域が28.6%で最も高く、額田圏域で最も低くなっていました。

世帯の家族構成（問5）は「親・子の世帯（2世代）」が48.8%で最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が28.4%、「一人暮らし世帯」が10.1%となっています。

居住年数（問6）は「15年以上」が84.2%で最も高く、次いで「10年未満」が6.3%、「5年未満」が4.6%となっています。圏域別では、東部圏域、額田圏域で「15年以上」（94.7%、98.2%）の割合が9割を超えています。

## 2. 地域生活に関することについて

### ポイント

- 近所づきあいについては、この5年間で大きな変化はなく、「あいさつをかわす程度」の人が約5割を占める。
- 近所づきあいは若い世代だけでなく、60代前半でもあいさつをかわす程度にとどまっている。
- 地域内の行事や町内活動に『参加・協力している』人は、30代から増加傾向があり、65～69歳が最も多い。
- 地域内の行事や町内活動に参加しない理由は、「興味・関心がない」、「忙しくて時間がない」

### ①近所づきあい・助け合いについて

近所づきあいについて（問7）は、「あいさつをかわす程度」の人が約5割を占める一方、「日頃から助け合っている」人は1割程度となっています。こうした近所付き合いの割合は5年前の前回調査と10年前の前々回の調査を比較しても大きく変化していません。

年代の傾向として、あいさつをかわす程度は20歳未満、20～29歳、30～39歳の若い世代だけでなく、60～64歳についても6割を超えていました。

圏域別では、額田圏域で「日頃から助け合っている」人が35.1%と多くの方が支え合っていることがうかがえます。

### ②地域活動について

地域内の行事や町内活動への参加・協力状況（問12）は、『参加・協力している』（「よくしている」と「ある程度している」の計）が55.9%と半数を超えて多くなっています。『参加・協力している』人は、30代から増加傾向があり、65～69歳がピーク（76.0%）となっています。

圏域別では、額田圏域で『参加・協力している』（77.2%）の割合が高くなっています。

地域内の行事や町内活動へ『参加・協力していない』人の理由（問14）として、「興味・関心がない」、「忙しくて時間がない」が多くなっています。前回調査からの変化として、「声がかからない」という理由は半分以下に減少しており、地域から声をかけていただいているもの、参加していないという状況がうかがえます。

### 3. 福祉への関心、意識について

#### ポイント

- 福祉への関心があると答えた割合は約6割である。この5年間で大きな変化はない。
- 支援を必要としている人に対しての考え方は、「支援したい」が約3割となっているが、「支援したいが余裕がない」も3割を超え多い。
- 「日常生活の中で私にもお手伝いできる」と思うことについては、「安否確認の声かけ」が42.9%で最も高い。
- 学区福祉委員会という言葉を知ったことがある人は、約5割、その中で活動内容まで知っている人は、1割程度。
- 地域の助け合いや福祉活動を進めるために必要なことは「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」

#### ①福祉への関心について

福祉への関心（問18）は、『関心がある』人は約6割、『関心がない』人は約3割となっています。この結果は、前回調査と比較して大きく変化していません。

『関心がある』人の福祉について関心があること（問19）は、「高齢者支援」が52.0%で最も高く、次いで「健康・生きがいづくり」が35.9%、「子育て支援」が33.3%となっています。

年代別で見ると、20歳未満～40代の若い世代では「子育て支援」、50歳以降では「高齢者支援」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

近所のひとり暮らし高齢者等の支援を必要としている人に対しての考えについて（問20）は、「近所に住むものとして、できる範囲で支援したい」が16.6%、「支援したいが、何をすればよいかかわからない」が16.2%となっています。このように約3割が支援に前向きであることが分かります。また、「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」も35.8%と最も高くなっており、支援したいという思いがあるができていないという実態がうかがえます。

「日常生活の中で私にもお手伝いできる」と思うことについて（問21）は、「安否確認の声かけ」が42.9%で最も高くなっています。このように多くの市民に支援の意思があることが分かりました。

#### ②地域福祉の取り組みについて

小学校区ごとに設けられた住民主体の地域福祉活動組織である「学区福祉委員会」について（問45）は、言葉を知ったことがある割合は約5割ですが、その中で活動内容まで知っている人は、13.3%と1割程度にとどまっています。

地域の助け合いや福祉活動を進めるために必要なこと（問46）として、「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」が41.3%で最も高く、周知啓発の充実が求められているとうかがえます。

## 4. 地域福祉に関することについて

### ポイント

- 多くの市民は、家族や友人などへ相談できる環境にあるが、相談していない人も1割程度みられる。
- 相談していない理由として、前回調査から、「他人に頼らずに、自分で解決したい」が13ポイント上昇し、「どこに（誰に）相談したらよいのか分からない」が16ポイント低くなっている。
- 「福祉に関する総合相談窓口の充実」が約3割の人が回答しており、相談へのニーズがうかがえる。

### ① 相談の現状とニーズについて

相談について（問 9・10・11）は、「相談している」が 79.9%と約8割を占め、家族・親戚、友人・知人など多くの市民が相談できる環境にいることが分かります。一方、相談していない人も 10.6%と約1割おり、相談していない理由としては、「他人に頼らずに、自分で解決したい」が 39.2%で最も高く、次いで「信頼できる人・相談できる人がいない」となっています。相談していない理由の中で、「どこに（誰に）相談したらよいのか分からない」は前回調査から 16ポイント低くなっていますが、6.3%と少数ながら存在するため、相談場所の周知とともに、受援力の啓発が必要とかがわれます。

地域福祉における市の取り組み（問 47）として、「福祉に関する総合相談窓口の充実」が 31.7%と約3割の人が回答しており、相談へのニーズがうかがえます。

## 5. 災害時の支援について

### ポイント

- 災害時避難行動要支援者制度の認知度は、約2割にとどまっている。
- 個別避難計画についても 11.8%と1割程度にとどまっている。
- 災害時の支援には、ふだんから隣近所の付き合いが重要と認識している。

### ① 災害時の支援について

災害時避難行動要支援者制度（問 24）については、「知っている」が 19.4%にとどまっており、65～69歳では約3割と認知度が高くなっています。また、個別避難計画（問 25）についても 11.8%と1割程度にとどまっており、支援の必要な人ご自身やご家族などへの制度内容の周知の必要性がうかがえます

災害時の支援（問 26）については、「ふだんから隣近所の付き合いをする」が 54.2%と約5割を占めており、日常的な地域のつながりの重要性を認識していることがうかがえます。

## II 調査結果の総括

### 6. 社会福祉協議会について

---

#### ポイント

- 社会福祉協議会の認知度は、約2割にとどまっている。
- 「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実」「福祉に関する総合相談支援」「住民が共に支え合う仕組みづくりの支援」が求められている。

#### ①社会福祉協議会について

社会福祉協議会（問 27）については、『知っている』が 17.4%、『知らない』が 82.4%となっています。認知度は前回調査と比較して大きな変化はみられません。

岡崎市社会福祉協議会に期待すること（問 28）は、「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実」が 51.5%で最も高く、次いで「福祉に関する総合相談支援」が 38.4%、「住民が共に支え合う仕組みづくりの支援」が 28.4%となっています。上位3位は前回と同様であり、福祉サービスや支援の充実や地域住民への支援する役割が求められています。

### 7. 近年の福祉課題について

---

#### ポイント

- 成年後見制度について「どのような制度か知っている」が前回調査から 12.9 ポイント上昇しており、制度の周知が進んでいるとうかがわれる。
- 財産の管理や契約等で、自分ひとりで判断することがむずかしい場合の相談先について、「相談先がわからない」が前回調査から 9.6 ポイント減少しており、相談先の周知が認識されているとうかがわれる。
- 外国人が増えることについて、好ましいと考えるより好ましくないと考える人がいる中、「どちらともいえない」という意見も多い。
- 孤独について、20代から30代の若い世代も感じており、その対策の必要性がうかがわれる。
- 子ども食堂の認知度は 53.1%と半数を超えており、関心が高く、子どもの貧困対策として期待されている。

#### ①権利擁護について

成年後見制度（問 29）は、「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」が 34.0%で最も高く、次いで「どのような制度か知っている」が 33.4%、「知らない」が 31.3%となっています。

経年比較では、「どのような制度か知っている」が前回調査から 12.9 ポイント上昇しており、制度の周知が進んでいることがうかがえます。

成年後見支援センター（問 30）の認知度は、「知らない」が 74.2%で最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、事業の内容は知らない」が 20.4%、「名前も事業の内容も知っている」

が4.1%となっています。

成年後見支援センター等の情報提供により、必要な時に支援につながるよう制度を含めたさらなる周知が必要と考えられます。

### ②外国人との関わりについて

外国人との交流機会（問37）は、『ある』（「よくある」と「たまにある」の計）が20.8%、『ない』（「あまりない」と「全くない」の計）が78.0%となっています。

お住まいの地域に外国人が増えること（問38）は、『好ましい』（「好ましい」と「どちらかといえば好ましい」の計）が10.7%、『好ましくない』（「どちらかといえば好ましくない」と「好ましくない」の計）が45.5%となっています。「どちらともいえない」は42.5%となっています。

こうした結果から、外国人が増えることについて、好ましいと考えるより好ましくないと考える人がいる中、外国人との交流機会がないため「どちらともいえない」の回答が多くなっているとうかがえます。

### ③孤独・孤立について

孤独であると感じること（問39）について、『ある』（「しばしばある、常にある」と「時々ある」と「たまにある」の計）が27.2%、『ない』（「ほとんどない」と「決してない」の計）が71.6%となっています。年齢区分別では、20～29歳、30～39歳で『ある』（37.4%、33.8%）の割合が高くなっています。

どの程度前から続いているか（問40）については、「5年以上」が44.8%と突出して多くなっています。

孤独・孤立の問題は、若い世代も含めて大きな社会的課題の1つとなっており、対策の必要性がうかがえます。

### ④生活困窮者への支援について

子ども食堂（問43）の認知度では、『知っている』（「どんな活動をしているか、よく知っている」と「どんな活動をしているか、少し知っている」の計）が53.1%、『知らない』（「聞いたことはあるが、どんな活動をしているか、あまり知らない」と「ほとんど知らない」の計）が45.4%となっており、半数以上が何らかの取り組みかを知っている結果となりました。

子ども食堂の活動している人に期待すること（問44）は、「子どもの貧困対策」が68.2%で最も高く、次いで「孤食の解消」が53.9%、「活動の継続性」が48.0%となっています。

本市のこども食堂の認知度からもその関心の高さがうかがわれる結果となりました。

### 8. 地域福祉全般について

#### ポイント

- 地域の取り組みとして「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」「災害等に備えた地域での協力体制づくり」が求められており、日常のつきあいは災害時にも生きるという認識とうかがえる。
- 市の取り組みとして「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援」「災害等に備えた協力体制づくり」「福祉に関する総合相談窓口の充実」が挙げられており、市民は地域で必要な支援や相談を受けながら、安心・安全な環境で生活することを望んでいることがうかがえる。

#### ①地域や市で取り組むべき支援について

地域に住む人が助け合い、支え合える地域づくりのために、今後地域として取り組む必要があることは、「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」が 34.0%で最も高く、次いで「災害等に備えた地域での協力体制づくり」が 33.1%、「孤立している人やひとり暮らし高齢者等の見守り活動」が 29.1%となっています。

年齢区分別の特徴として、65 歳以上の高齢世代を中心に「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」が多くなっています。また、世代横断的に 20 代、40 代、60 代前半では「災害等に備えた地域での協力体制づくり」が多くなっています。30 代の子育て世代は「子どもたちの見守りや相談等、子育てを通じた交流」、50 代では、「孤立している人ひとり暮らし高齢者等の見守り活動」がそれぞれ多くなっています。

圏域別では、「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」や「災害等に備えた地域での協力体制づくり」が多い中、大平圏域で「祭りやイベント等を通じた住民同士の交流」が多くなっています。

#### ②市で取り組むべき支援について

地域に住む人が助け合い、支え合える地域づくりのために、今後市として取り組む必要があることは、「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援」が 45.1%で最も高く、次いで「災害等に備えた協力体制づくり」が 42.0%、「福祉に関する総合相談窓口の充実」が 31.7%となっています。

年齢区分別の特徴として、20 歳未満から 40 代の若い世代を中心として「災害等に備えた協力体制づくり」が求められています。また、50 代から 75 歳以上の高齢世代を中心として「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援」が求められています。

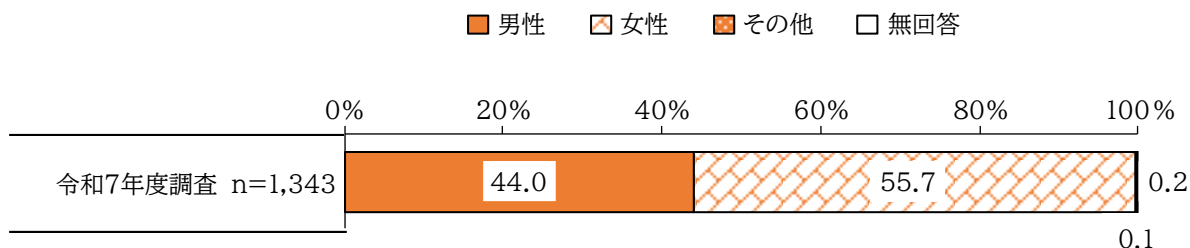
圏域別では、額田圏域で「住民が気軽に集まることのできる居場所や機会づくりの支援」が多くなっており、地域のニーズがうかがえます。

### Ⅲ 調査結果

#### 1 あなたご自身について

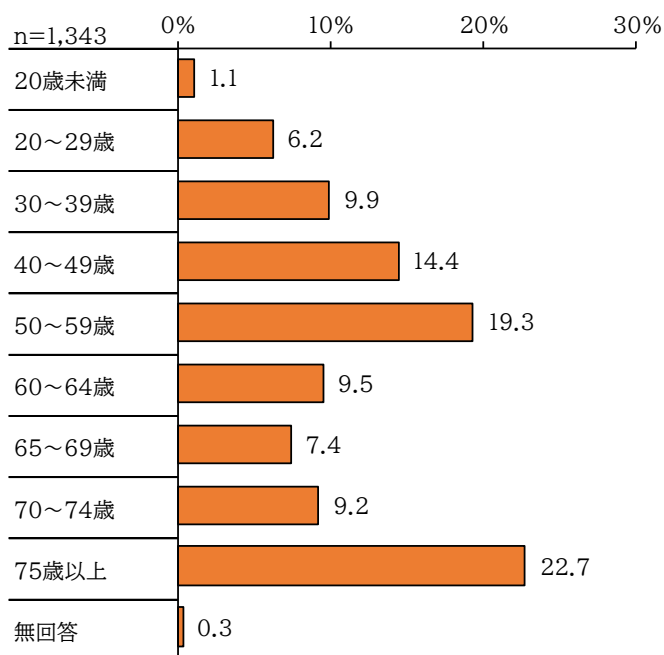
問1 あなたの性別を教えてください。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「男性」が44.0%、「女性」が55.7%、「その他」が0.1%となっています。



問2 あなたの年齢を教えてください。(令和7年8月1日現在の満年齢) (1つの番号に○)

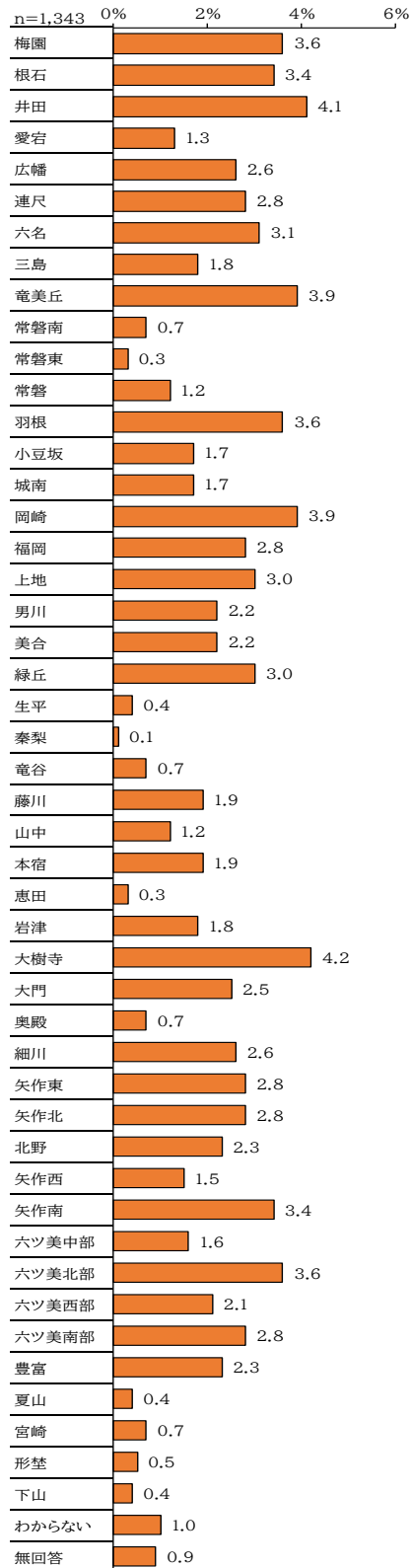
「75歳以上」が22.7%で最も高く、次いで「50～59歳」が19.3%、「40～49歳」が14.4%となっています。



### Ⅲ 調査結果

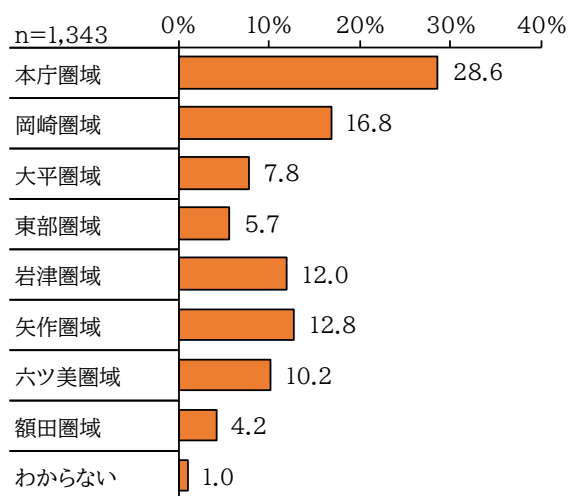
問3 あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。(1つの番号に○)  
 小学校区がわからない方は、お住まいの町名をお書きください。

令和7年度調査では、「大樹寺」が 4.2%で最も高く、次いで「井田」が 4.1%、「竜美丘」「岡崎」が 3.9%となっています。



○お住まいの日常生活圏域※の状況

お住まいの日常生活圏域の状況について、令和7年度調査では、「本庁圏域」が 28.6%で最も高く、次いで「岡崎圏域」が 16.8%、「矢作圏域」が 12.8%となっています。



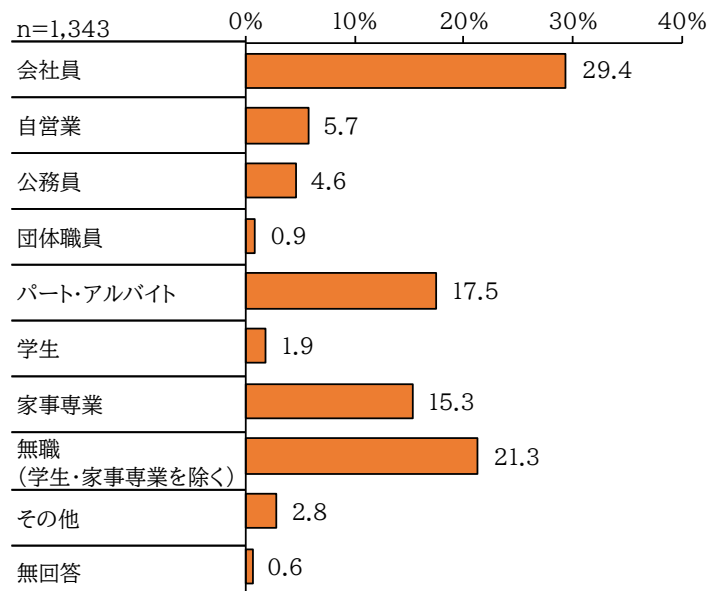
※岡崎市では、地域においてあらゆる支援を包括的、継続的に提供することができるよう、8つの日常生活圏域を設定しています。各日常生活圏域に該当する小学校区は以下のとおりです。

日常生活圏域	小学校区
本庁圏域	梅園、根石、井田、愛宕、広幡、連尺、六名、三島、竜美丘、常磐南、常磐東、常磐
岡崎圏域	羽根、小豆坂、城南、岡崎、福岡、上地
大平圏域	男川、美合、緑丘、生平、秦梨
東部圏域	竜谷、藤川、山中、本宿
岩津圏域	恵田、岩津、大樹寺、大門、奥殿、細川
矢作圏域	矢作東、矢作北、北野、矢作西、矢作南
六ツ美圏域	六ツ美中部、六ツ美北部、六ツ美西部、六ツ美南部
額田圏域	豊富、夏山、宮崎、形埜、下山

### Ⅲ 調査結果

#### 問4 あなたの職業についてお聞きします。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「会社員」が29.4%で最も高く、次いで「無職(学生・家事専業を除く)」が21.3%、「パート・アルバイト」が17.5%となっています。

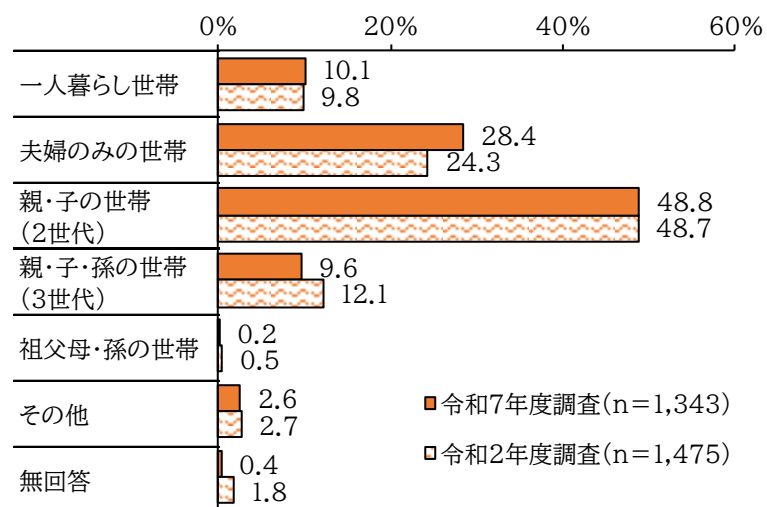


#### 問5 あなたの世帯の家族構成を教えてください。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「親・子の世帯(2世代)」が48.8%で最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が28.4%、「一人暮らし世帯」が10.1%となっています。

経年比較では、大きな変化はみられません。

圏域別では、額田圏域で「夫婦のみ世帯」(45.6%)の割合が高くなっています。また、本庁圏域、岡崎圏域、大平圏域、矢作圏域で「親・子の世帯(2世代)」(50.8%、52.2%、51.4%、53.5%)で5割を超えて高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

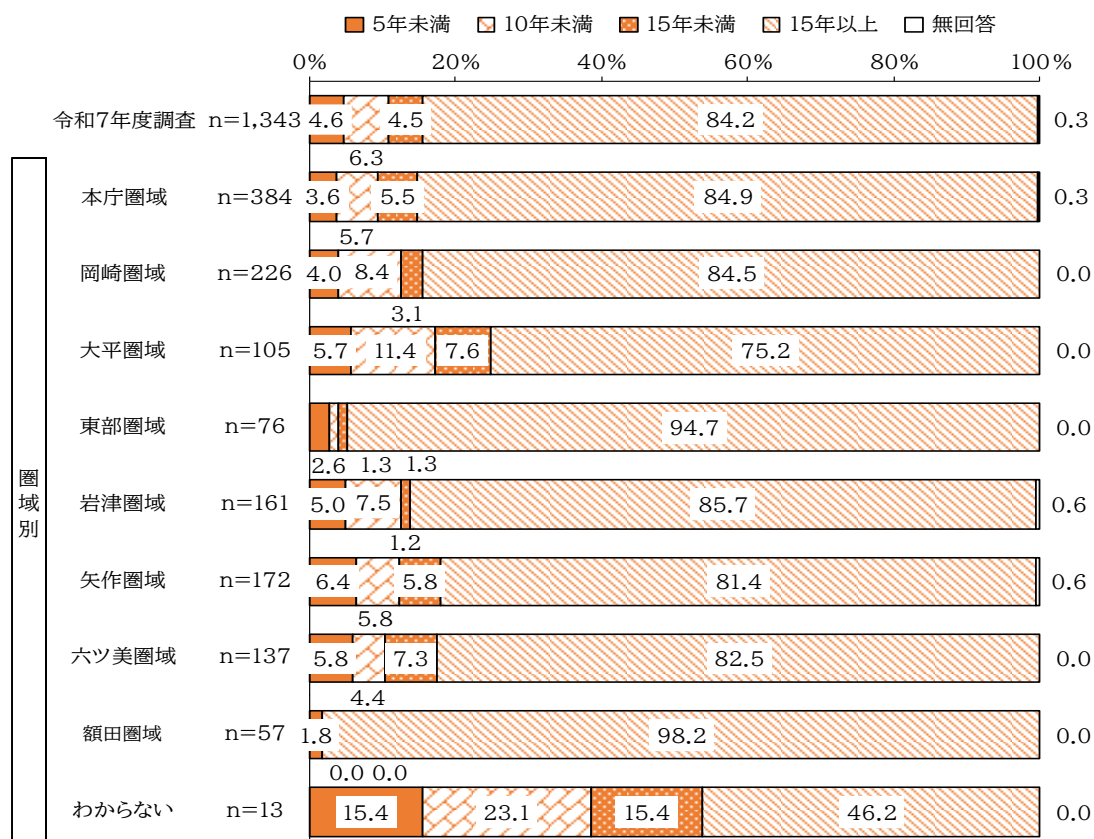
(単位：%)

区分	全体	一人暮らし世帯	夫婦のみの世帯	親・子の世帯 (2世代)	親・子・孫の世帯 (3世代)	祖父母・孫の世帯	その他	無回答	
全体	1,343	10.1	28.4	48.8	9.6	0.2	2.6	0.4	
圏域別	本庁圏域	384	9.9	27.6	50.8	8.6	0.0	2.6	0.5
	岡崎圏域	226	14.2	21.7	52.2	10.2	0.0	1.8	0.0
	大平圏域	105	11.4	27.6	51.4	8.6	0.0	1.0	0.0
	東部圏域	76	13.2	38.2	38.2	7.9	0.0	2.6	0.0
	岩津圏域	161	8.7	29.2	47.8	9.9	0.6	3.7	0.0
	矢作圏域	172	6.4	27.9	53.5	8.1	0.6	3.5	0.0
	六ツ美圏域	137	6.6	28.5	49.6	13.9	0.7	0.7	0.0
	額田圏域	57	5.3	45.6	26.3	15.8	0.0	7.0	0.0
	わからない	13	30.8	46.2	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0

#### 問6 あなたの、岡崎市での居住年数は次のどれですか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「15年以上」が84.2%で最も高く、次いで「10年未満」が6.3%、「5年未満」が4.6%となっています。

圏域別では、東部圏域、額田圏域で「15年以上」(94.7%、98.2%)の割合が9割を超えて高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

## 2 地域生活に関することについて

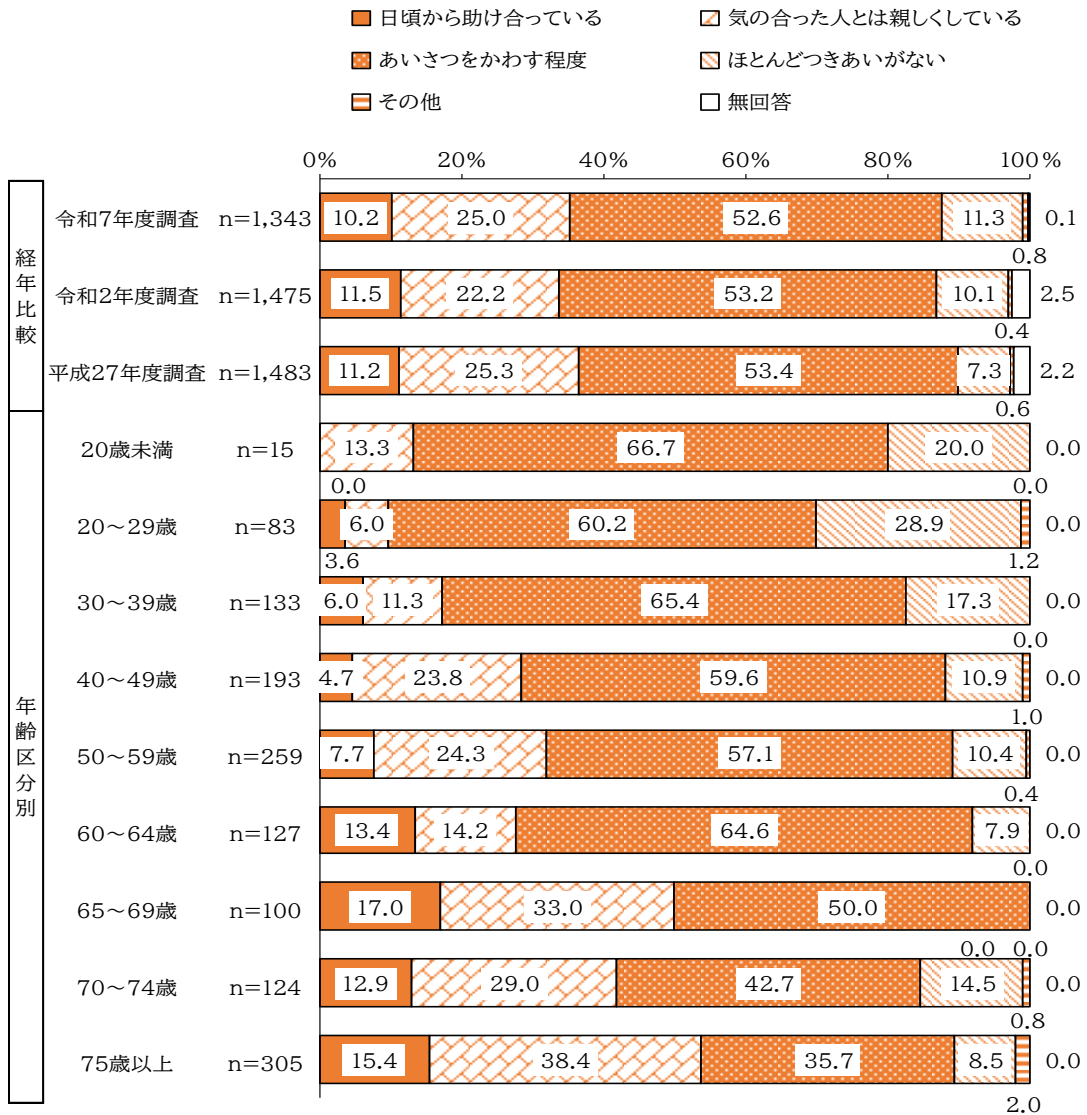
問7 近隣の人とは、どの程度つきあいをしていますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「あいさつをかわす程度」が52.6%で最も高く、次いで「気の合った人とは親しくしている」が25.0%、「ほとんどつきあいがいい」が11.3%となっています。

経年比較では、令和2年度調査、平成27年度調査ともに、大きな変化はみられません。

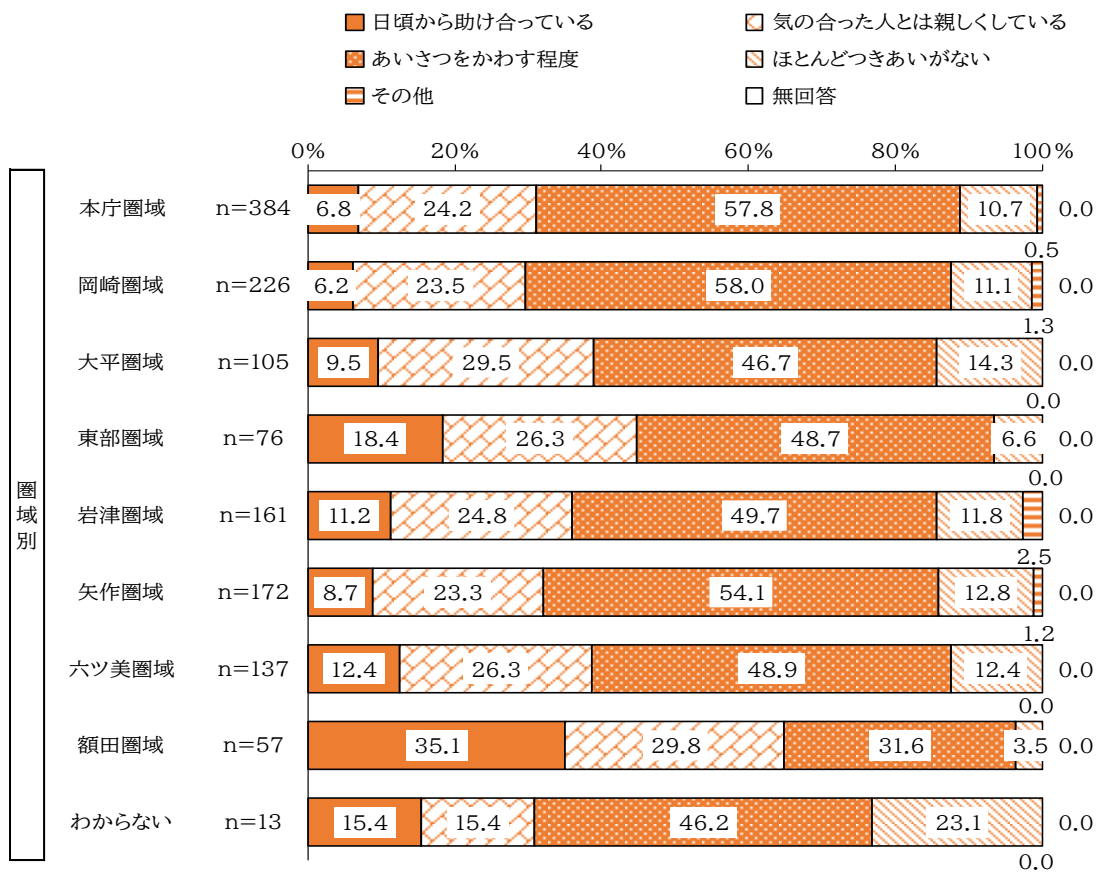
圏域別では、本庁圏域、岡崎圏域、矢作圏域で「あいさつをかわす程度」(57.8%、58.0%、54.1%)の割合が5割を超えて高くなっています。また、東部圏域、六ツ美圏域、額田圏域で「日頃から助け合っている」(18.4%、12.4%、35.1%)の割合が高くなっています。

※



※選択肢について、令和7年度は「あいさつをかわす程度」となっていますが、令和2年度調査は「あいさつはする」となっています。

### Ⅲ 調査結果



### Ⅲ 調査結果

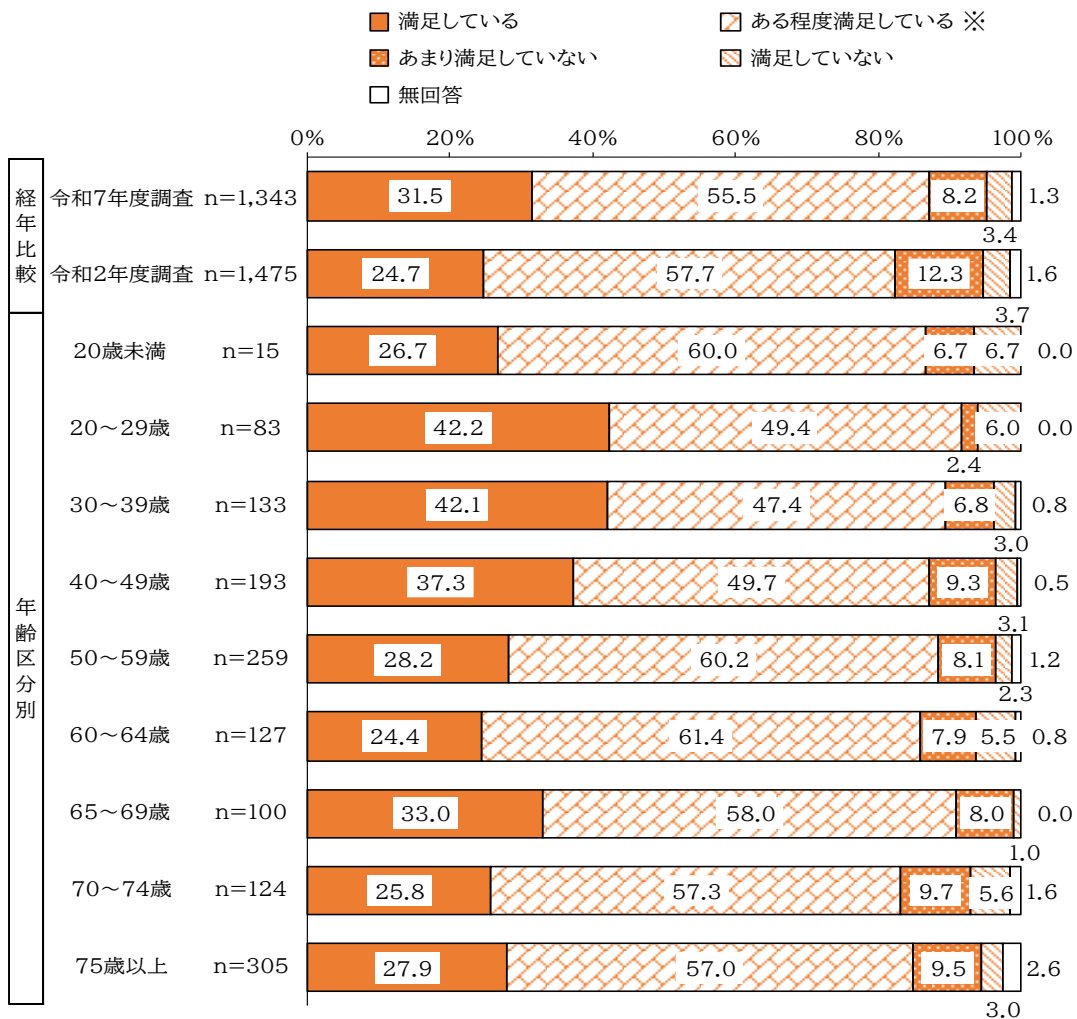
#### 問8 近隣の人とのつきあいに満足していますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、『満足している』(「満足している」と「ある程度満足している」の計)が 87.0%、『満足していない』(「あまり満足していない」と「満足していない」の計)が 11.6%となっています。

経年比較では、『満足している』が令和7年度調査で 87.0%と、令和2年度調査と比べて 4.6 ポイント高くなっています。

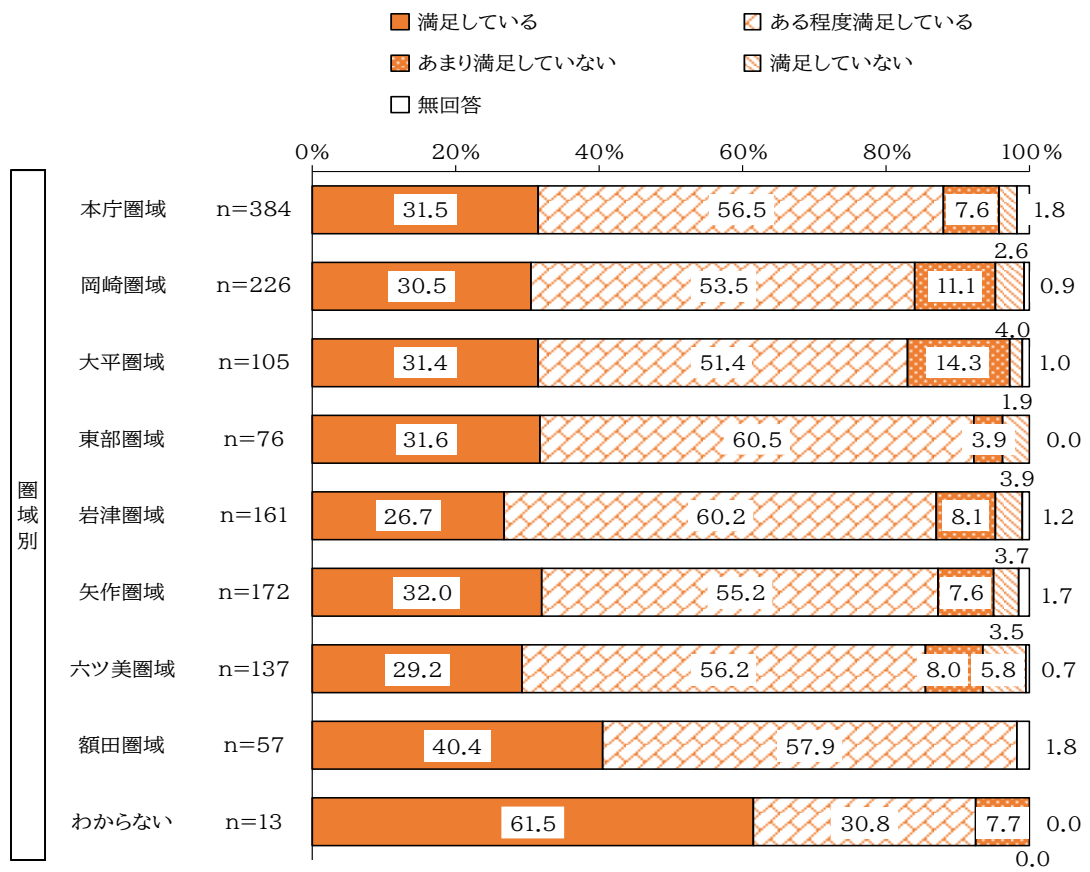
年齢区分別では、20～29 歳、65～69 歳で『満足している』(91.6%、91.0%)の割合が9割を超えて高くなっています。

圏域別では、東部圏域、額田圏域で『満足している』(92.1%、98.3%)の割合が9割を超えて高くなっています。



※選択肢について、令和7年度は「ある程度満足している」となっていますが、令和2年度調査は「まあまあ満足している」となっています。

### Ⅲ 調査結果



### Ⅲ 調査結果

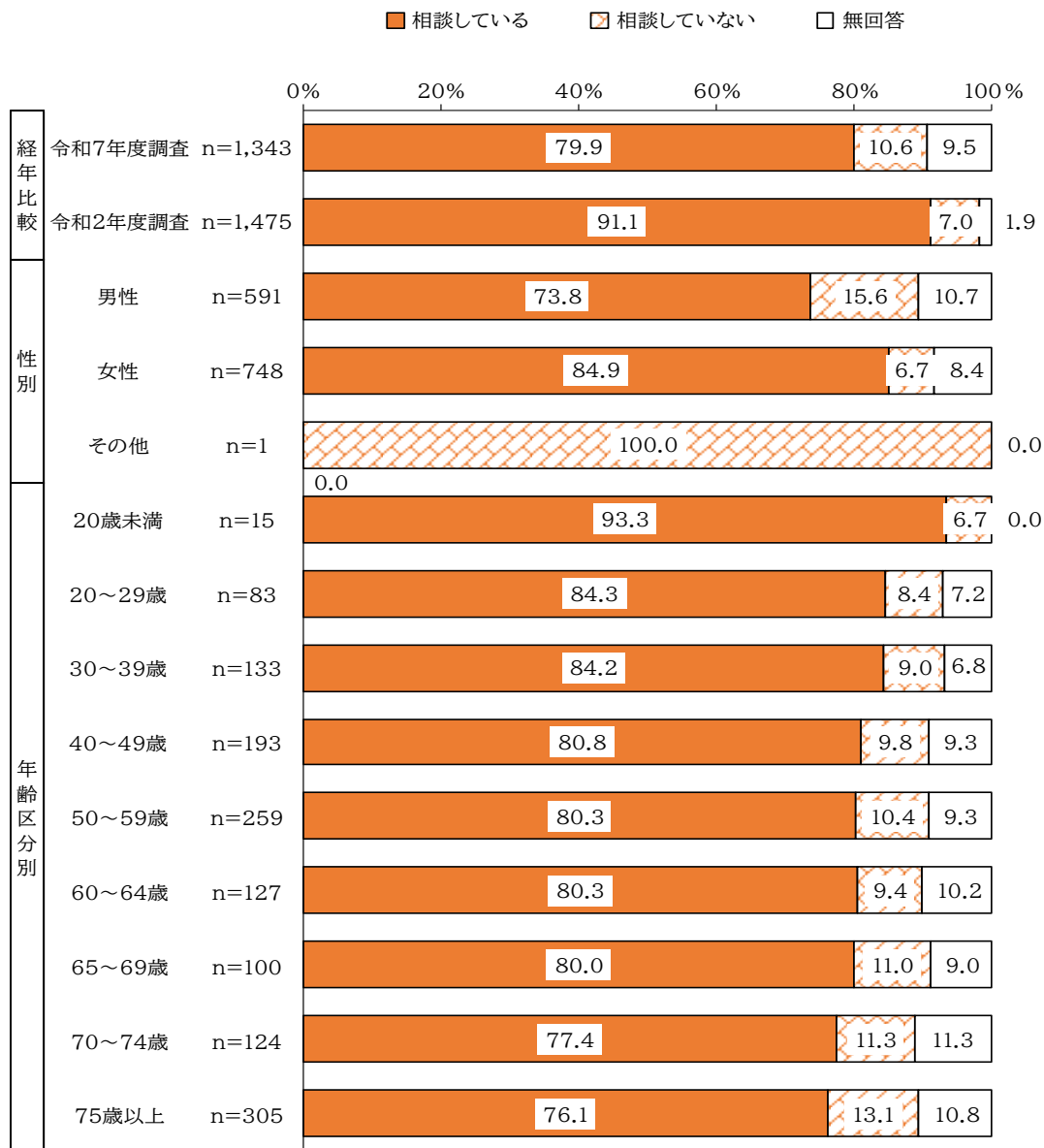
問9 あなたは困ったことがあるとき、誰かに相談していますか。(どちらかの番号に○)

令和7年度調査では、「相談している」が79.9%、「相談していない」が10.6%となっています。

経年比較では、「相談している」が令和7年度調査で79.9%と、令和2年度調査と比べて11.2ポイント低くなっています。また、「相談していない」が令和7年度調査で10.6%と、令和2年度調査と比べて低くなっています。

性別では、女性で「相談している」が84.9%と、男性と比べて11.1ポイント高くなっています。

年齢区分別では、年齢が高くなるにつれて「相談している」の割合が低くなっています。

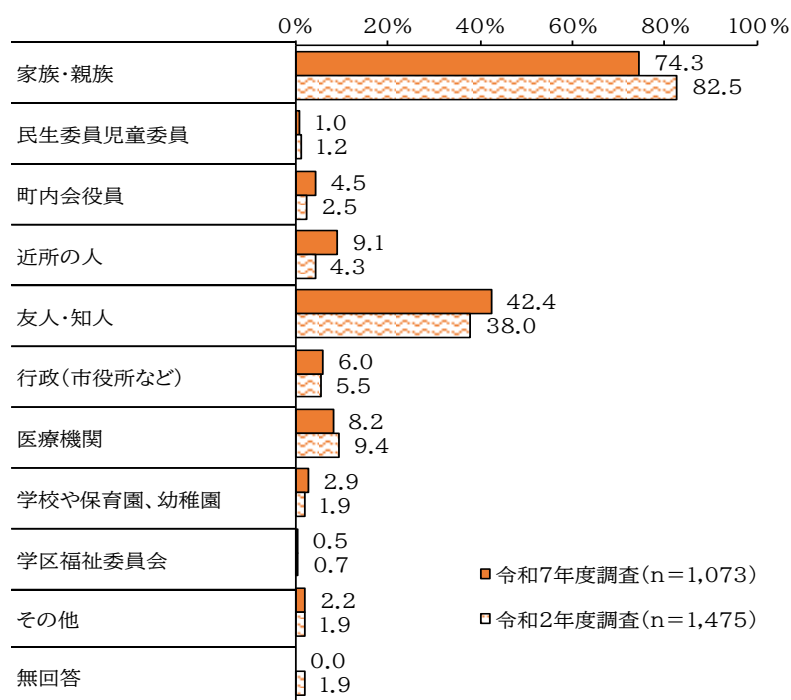


<問9で「1. 相談している」と回答した方にお聞きします>

問10 あなたは誰に相談をしますか。(あてはまるすべての番号に○)

令和7年度調査では、「家族・親族」が74.3%で最も高く、次いで「友人・知人」が42.4%、「近所の人」が9.1%となっています。

経年比較では、「家族・親族」が令和7年度調査で74.3%と、令和2年度調査と比べて8.2ポイント低くなっています。



※集計方法について、前回調査と条件を合わせているため、問9の選択肢「相談していない」を含んだ形で割合を出しています。

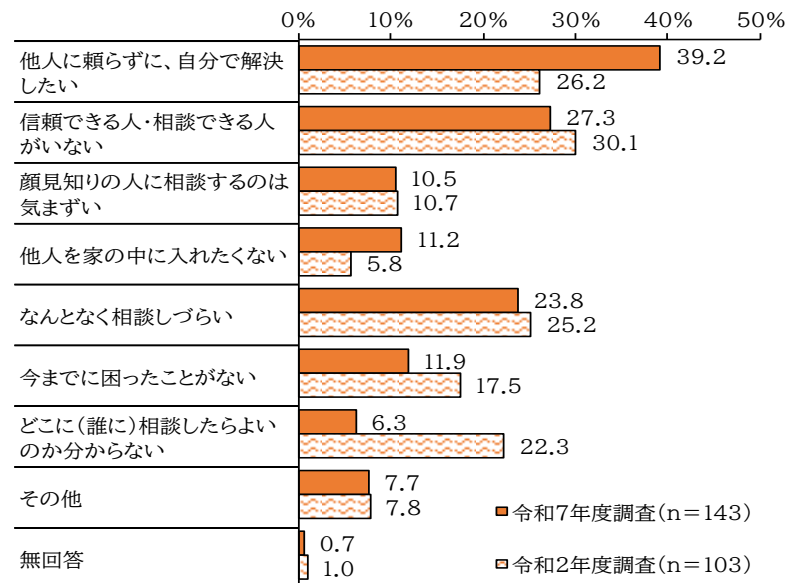
### Ⅲ 調査結果

<問9で「2. 相談していない」と回答した方にお聞きします>

問11 相談されていない理由は、何ですか。(あてはまるすべての番号に○)

令和7年度調査では、「他人に頼らずに、自分で解決したい」が39.2%で最も高く、次いで「信頼できる人・相談できる人がいない」が27.3%、「なんとなく相談しづらい」が23.8%となっています。

経年比較では、「他人に頼らずに、自分で解決したい」が令和7年度調査で39.2%と、令和2年度調査と比べて13ポイント高くなっています。また、「どこに(誰に)相談したらよいのか分からない」が令和7年度調査で6.3%と、令和2年度調査と比べて16ポイント低くなっています。



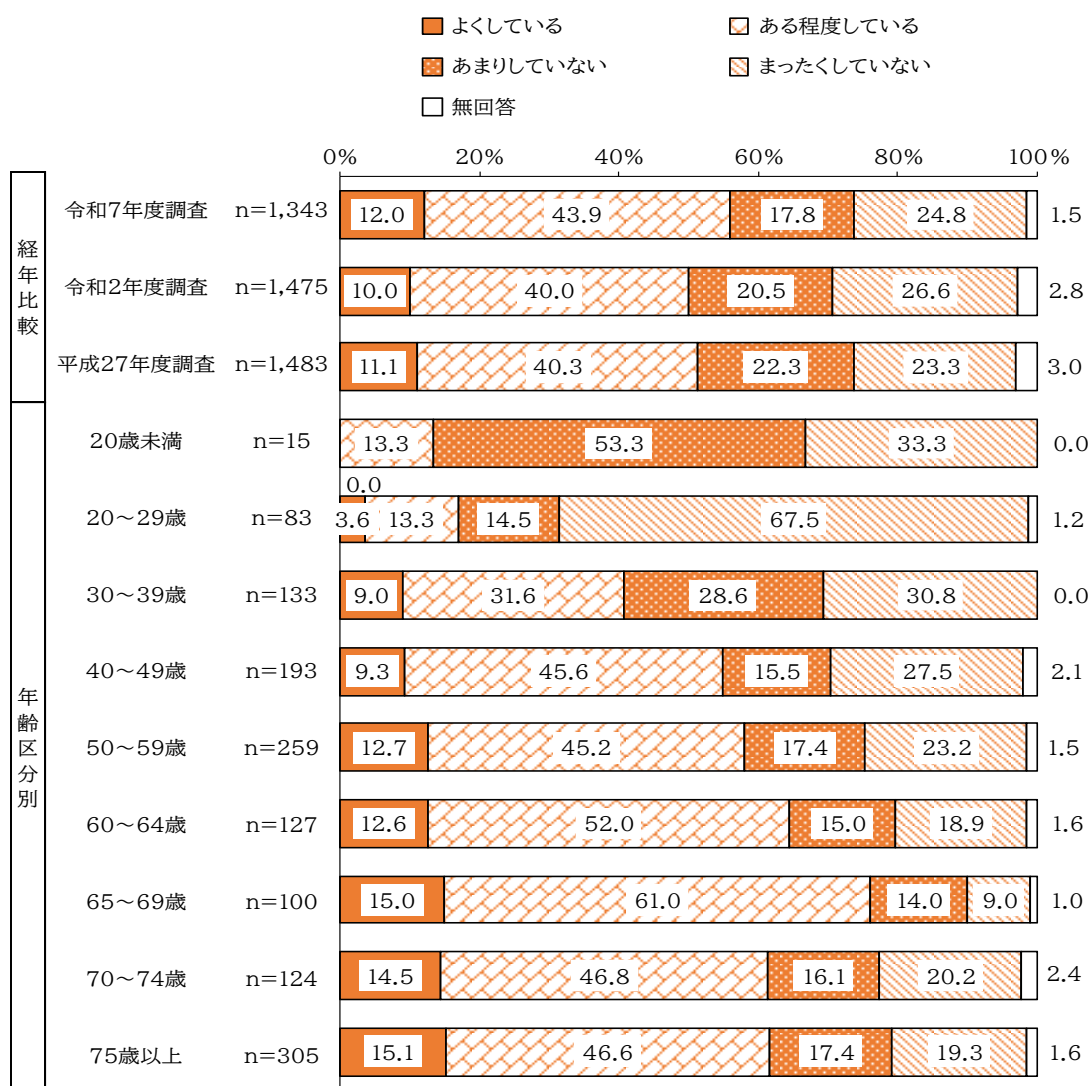
問 12 あなたは現在、地域内の行事や町内会活動に参加・協力していますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、『している』(「よくしている」と「ある程度している」の計)が 55.9%、『していない』(「あまりしていない」と「まったくしていない」の計)が 42.6%となっています。

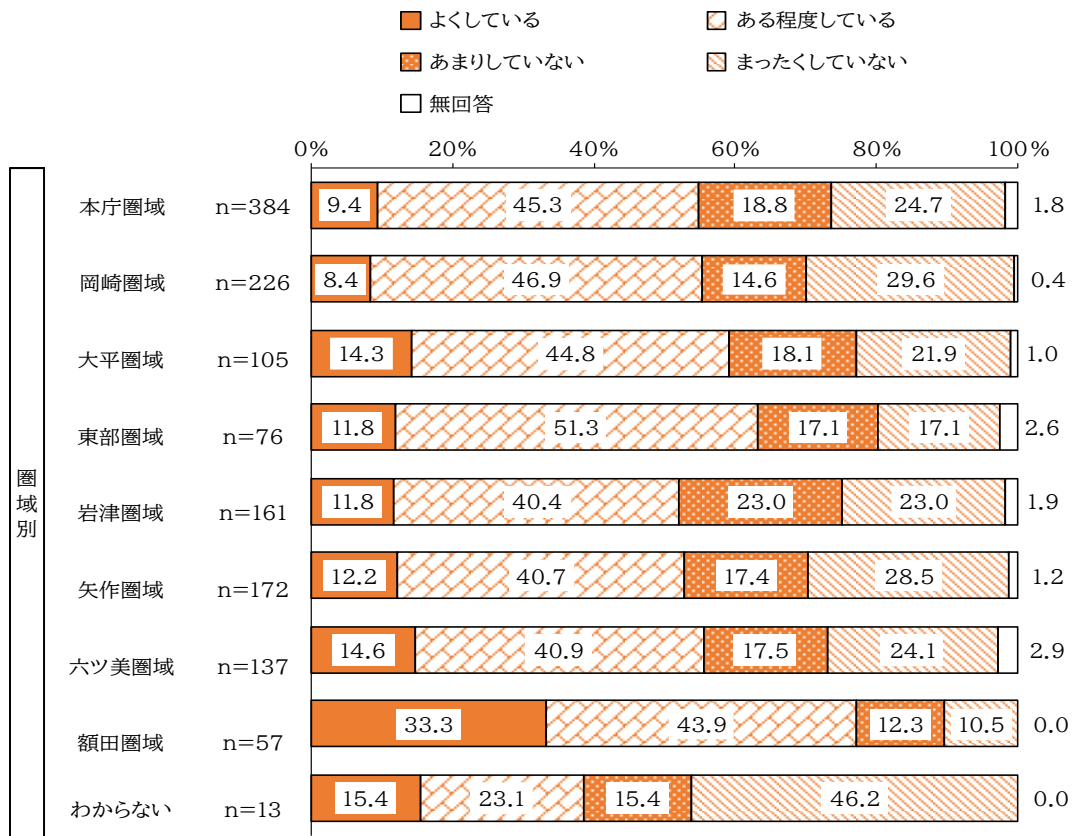
経年比較では、『している』が令和7年度調査と令和2年度調査と比べて 5.9 ポイント高く、平成 27 年度調査と比べて 3 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、40 歳以降で『している』の割合が5割を超えて高くなっています。

圏域別では、額田圏域で『している』(77.2%)の割合が高くなっています。



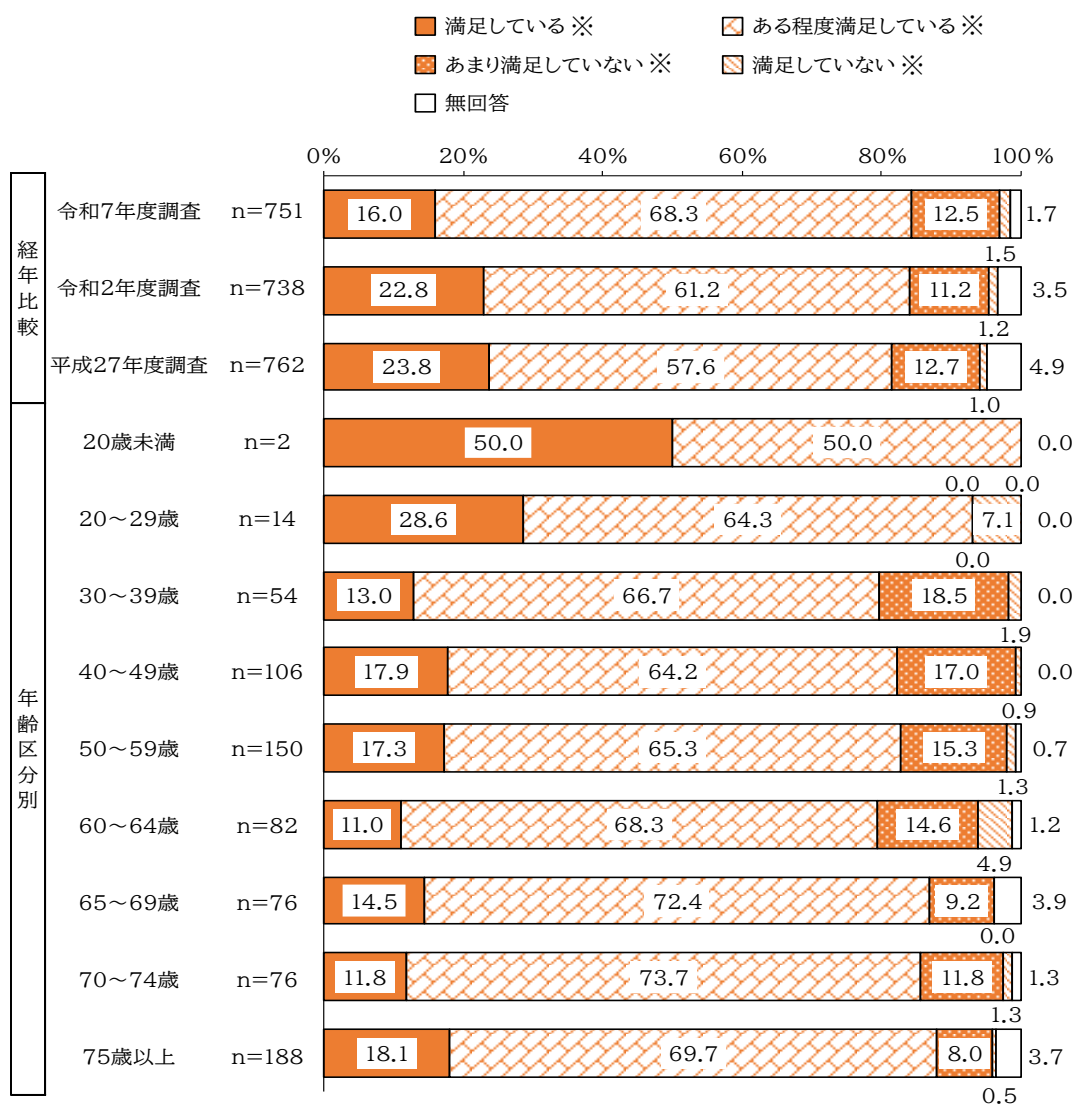
### Ⅲ 調査結果



<問12で「1. よくしている」「2. ある程度している」と回答した方にお聞きします>  
 問13 地域の活動に対して、満足していますか。(1つの番号に○)

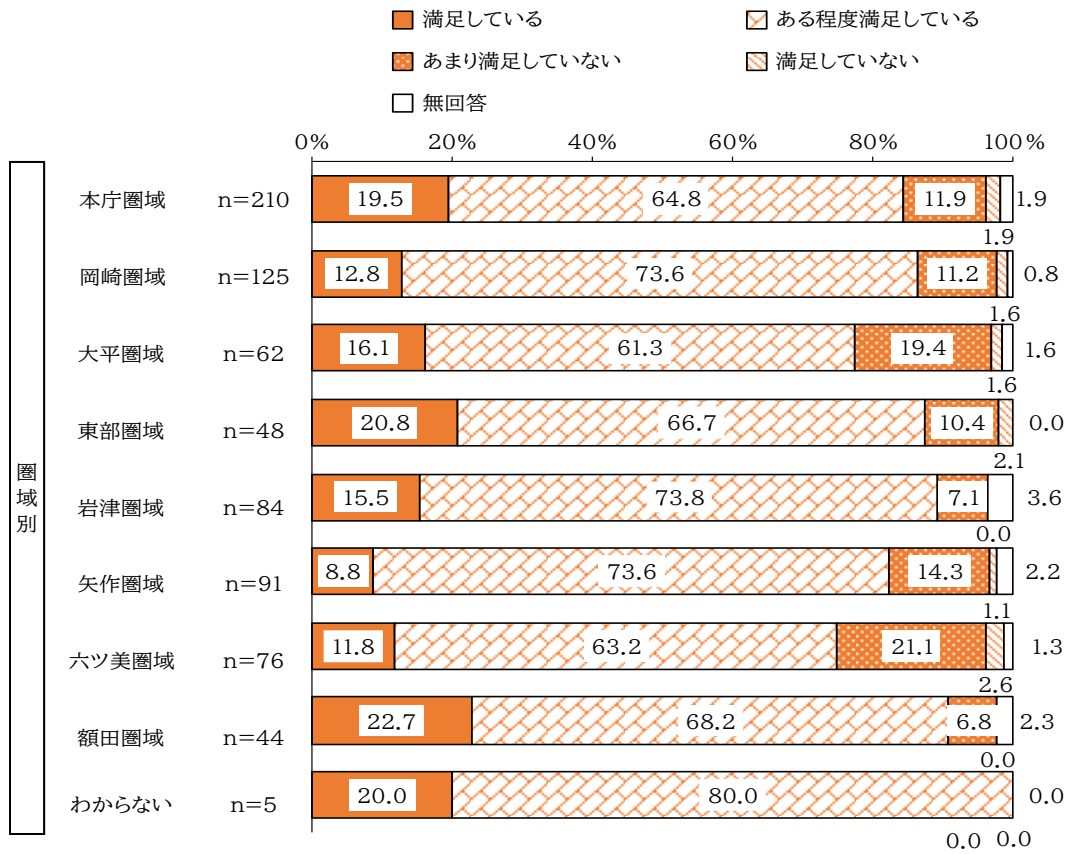
令和7年度調査では、『満足している』(「満足している」と「ある程度満足している」の計)が 84.3%、  
 『満足していない』(「あまり満足していない」と「満足していない」の計)が 14.0%となっています。

経年比較では、大きな変化はみられません。



※選択肢について、令和7年度は「満足している」「ある程度満足している」「あまり満足していない」「満足していない」となっていますが、令和2年度調査は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」となっています。

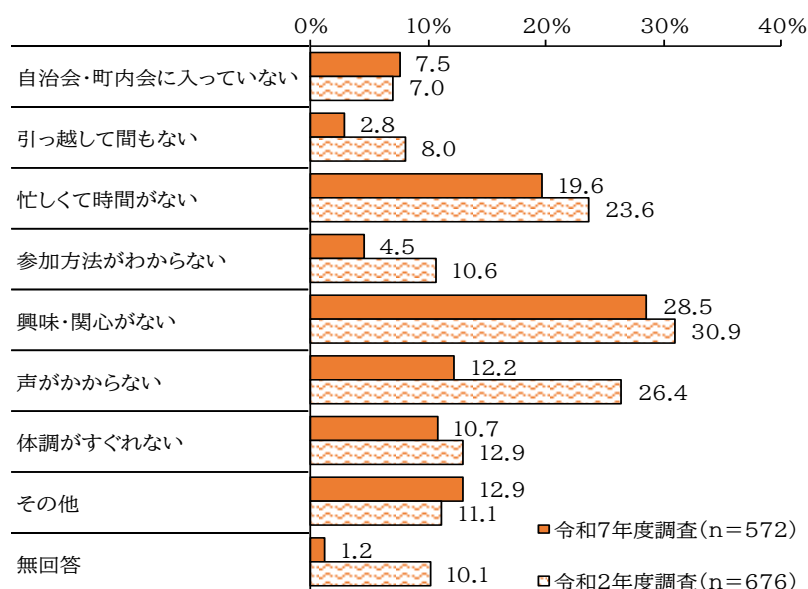
### Ⅲ 調査結果



<問12で「3. あまりしていない」「4. まったくしていない」と回答した方にお聞きします>  
 問14 参加していない理由をお聞かせください。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「興味・関心がない」が28.5%で最も高く、次いで「忙しくて時間がない」が19.6%、「声がかからない」が12.2%となっています。

経年比較では、「声がかからない」が令和7年度調査で12.2%と、令和2年度調査と比べて14.2ポイント低くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

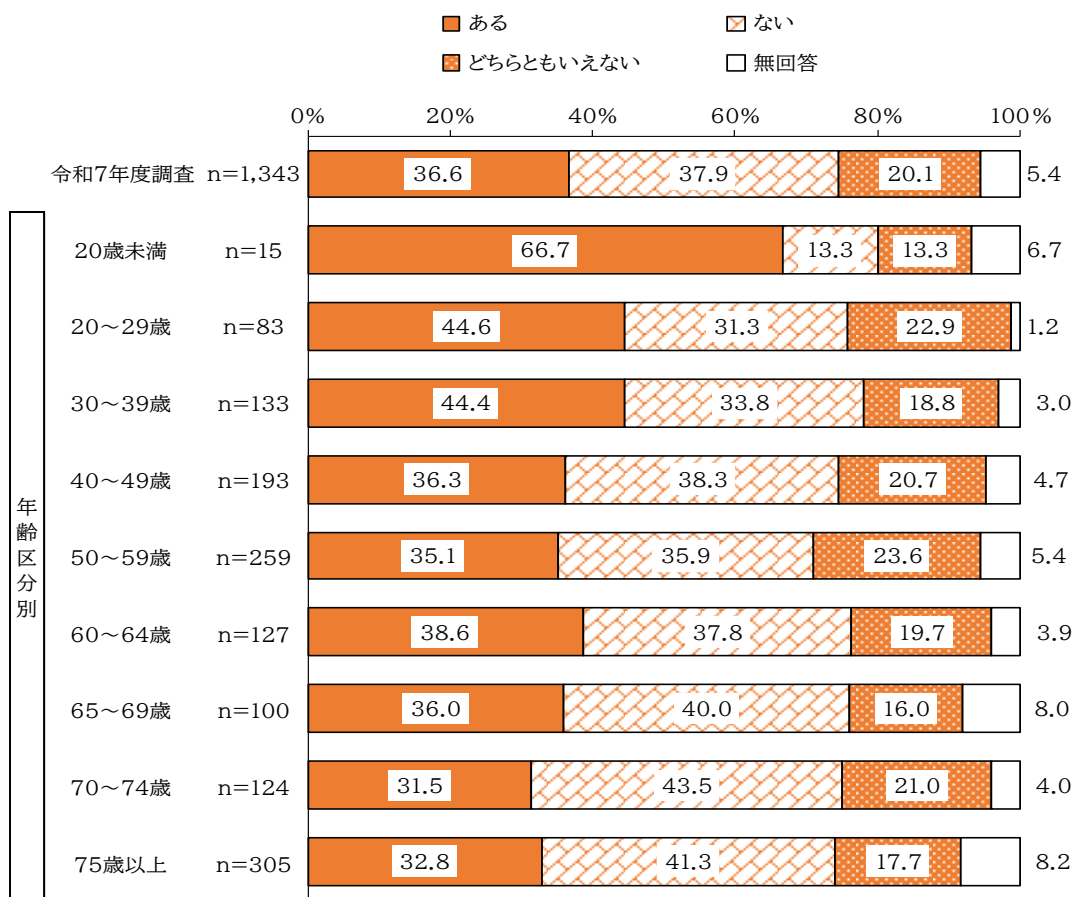
区分	全体	自治会・町内会に入っていない	引越して間もない	忙しくて時間がない	参加方法がわからない	興味・関心がない	声がかからない	体調がすぐれない	その他	無回答	
全体	572	7.5	2.8	19.6	4.5	28.5	12.2	10.7	12.9	1.2	
年齢区分別	20歳未満	13	0.0	0.0	15.4	7.7	23.1	38.5	0.0	15.4	0.0
	20～29歳	68	4.4	8.8	17.6	7.4	22.1	16.2	4.4	19.1	0.0
	30～39歳	79	12.7	5.1	21.5	2.5	35.4	8.9	2.5	10.1	1.3
	40～49歳	83	9.6	1.2	27.7	2.4	31.3	13.3	3.6	10.8	0.0
	50～59歳	105	8.6	0.0	28.6	8.6	26.7	12.4	6.7	8.6	0.0
	60～64歳	43	9.3	4.7	25.6	4.7	32.6	4.7	4.7	11.6	2.3
	65～69歳	23	13.0	0.0	30.4	0.0	39.1	0.0	4.3	13.0	0.0
	70～74歳	45	4.4	0.0	11.1	4.4	35.6	17.8	13.3	8.9	4.4
	75歳以上	112	3.6	2.7	4.5	2.7	21.4	11.6	32.1	18.8	2.7
圏域別	本庁圏域	167	5.4	2.4	24.6	5.4	29.3	9.6	7.8	13.2	2.4
	岡崎圏域	100	6.0	1.0	20.0	6.0	34.0	16.0	8.0	8.0	1.0
	大平圏域	42	14.3	4.8	16.7	7.1	23.8	11.9	16.7	4.8	0.0
	東部圏域	26	3.8	0.0	26.9	3.8	15.4	7.7	23.1	19.2	0.0
	岩津圏域	74	5.4	5.4	25.7	1.4	21.6	13.5	9.5	17.6	0.0
	矢作圏域	79	6.3	3.8	11.4	3.8	34.2	13.9	11.4	15.2	0.0
	六ツ美圏域	57	12.3	3.5	14.0	1.8	24.6	17.5	14.0	10.5	1.8
	額田圏域	13	7.7	0.0	7.7	0.0	30.8	0.0	15.4	38.5	0.0
	わからない	8	50.0	0.0	0.0	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0

問 15 あなたは、自宅や職場（学校）のほかに「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。  
 （1つの番号に○）

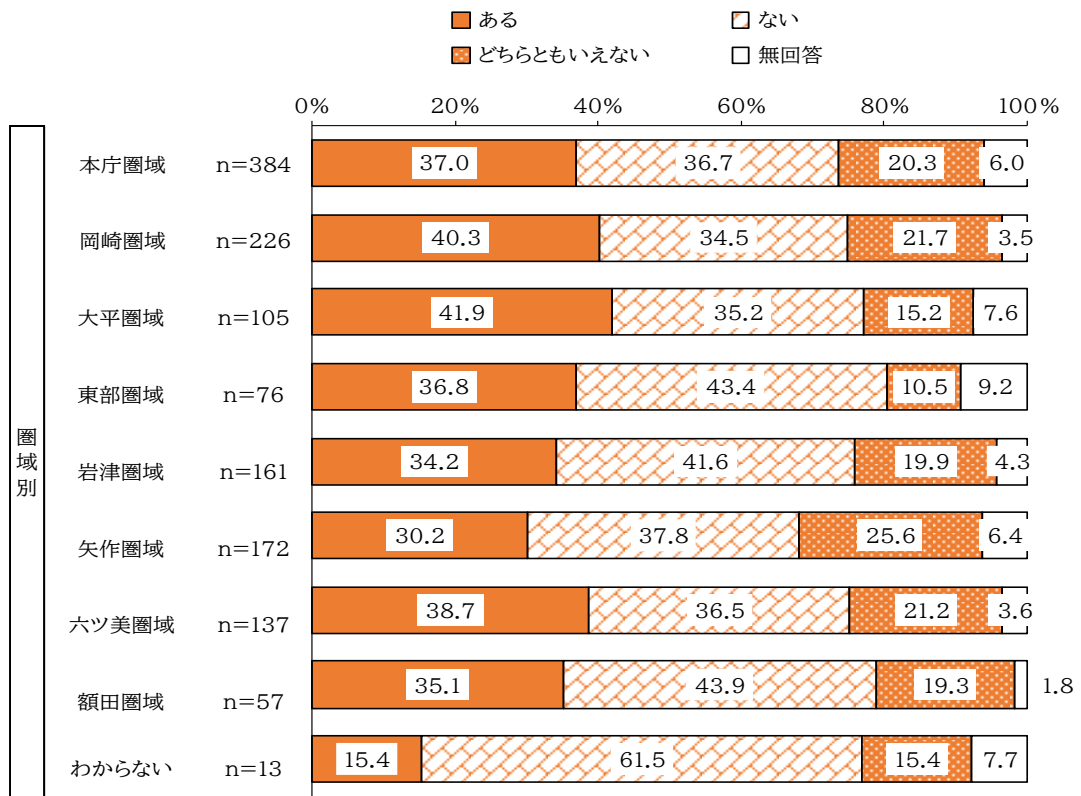
令和7年度調査では、「ない」が 37.9%で最も高く、次いで「ある」が 36.6%、「どちらともいえない」が 20.1%となっています。

年齢区分別では、20歳未満から30～39歳で「ある」の割合が4割を超えて高くなっています。

圏域別では、岡崎圏域、大平圏域で「ある」(40.3%、41.9%)の割合が4割を超えて高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

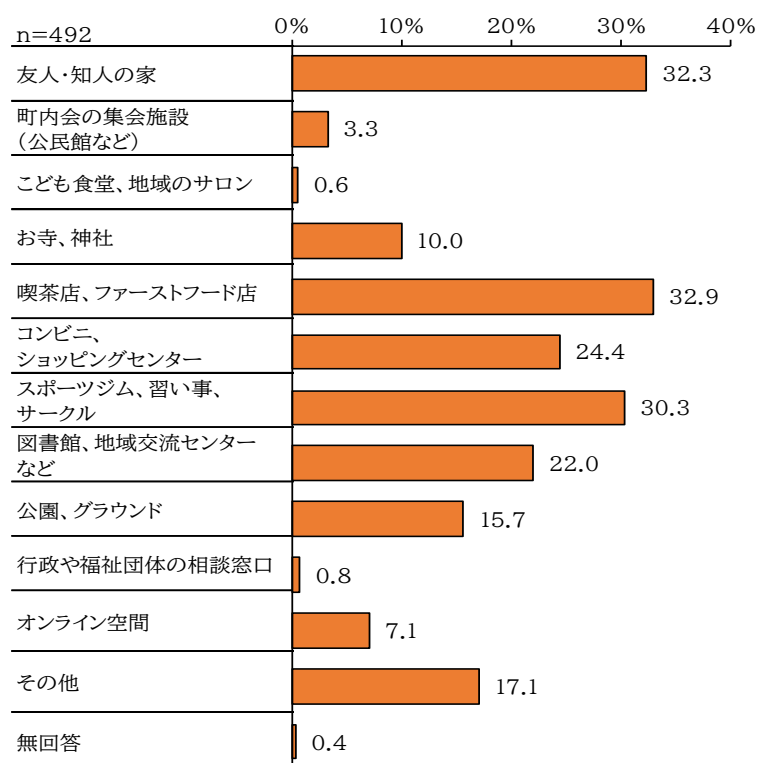


<問15で「1. ある」と回答した方にお聞きします>

問16 そこは、どのようなところですか。(あてはまるすべての番号に○)

令和7年度調査では、「喫茶店、ファーストフード店」が32.9%で最も高く、次いで「友人・知人の家」が32.3%、「スポーツジム、習い事、サークル」が30.3%となっています。

性別では、女性で「友人・知人の家」が38.8%と、男性と比べて14.9ポイント、女性で「スポーツジム、習い事、サークル」が34.8%と、男性と比べて10ポイント高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	友人・知人の家	町内会の集会施設 (公民館など)	子ども食堂、地域のサロン	お寺、神社	喫茶店、 ファーストフード店	コンビニ、 ショッピングセンター	スポーツジム、習い事、 サークル	図書館、地域交流センター など	公園、グラウンド	行政や福祉団体の相談窓口	オンライン空間	その他	無回答
全体		492	32.3	3.3	0.6	10.0	32.9	24.4	30.3	22.0	15.7	0.8	7.1	17.1	0.4
性別	男性	218	23.9	4.6	0.5	9.6	28.4	22.0	24.8	20.2	18.8	1.4	7.3	19.7	0.0
	女性	273	38.8	2.2	0.7	10.3	36.6	26.4	34.8	23.4	13.2	0.4	7.0	15.0	0.7
年齢区分別	20歳未満	10	60.0	0.0	0.0	10.0	40.0	60.0	10.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	20～29歳	37	62.2	2.7	0.0	2.7	45.9	21.6	18.9	13.5	10.8	0.0	16.2	8.1	0.0
	30～39歳	59	27.1	0.0	0.0	11.9	40.7	27.1	18.6	16.9	25.4	0.0	16.9	20.3	0.0
	40～49歳	70	28.6	0.0	1.4	10.0	31.4	32.9	30.0	25.7	15.7	1.4	11.4	18.6	0.0
	50～59歳	91	33.0	1.1	1.1	15.4	34.1	23.1	35.2	30.8	17.6	1.1	4.4	14.3	1.1
	60～64歳	49	32.7	0.0	0.0	16.3	30.6	18.4	36.7	22.4	14.3	0.0	2.0	12.2	0.0
	65～69歳	36	22.2	2.8	0.0	5.6	25.0	25.0	38.9	22.2	11.1	0.0	2.8	19.4	0.0
	70～74歳	39	25.6	7.7	0.0	5.1	33.3	20.5	30.8	15.4	10.3	0.0	5.1	23.1	0.0
	75歳以上	100	29.0	10.0	1.0	7.0	27.0	20.0	33.0	20.0	14.0	2.0	1.0	21.0	1.0
圏域別	本庁圏域	142	26.8	0.0	0.0	6.3	30.3	23.2	32.4	21.8	16.2	0.7	8.5	19.7	0.0
	岡崎圏域	91	37.4	8.8	1.1	12.1	34.1	28.6	30.8	22.0	15.4	0.0	6.6	14.3	0.0
	大平圏域	44	34.1	0.0	0.0	11.4	36.4	27.3	31.8	27.3	22.7	0.0	6.8	18.2	0.0
	東部圏域	28	32.1	3.6	0.0	7.1	25.0	21.4	17.9	17.9	7.1	0.0	0.0	25.0	0.0
	岩津圏域	55	30.9	3.6	3.6	16.4	41.8	25.5	32.7	20.0	16.4	1.8	5.5	14.5	0.0
	矢作圏域	52	42.3	5.8	0.0	11.5	28.8	21.2	36.5	21.2	15.4	1.9	1.9	11.5	1.9
	六ツ美圏域	53	26.4	3.8	0.0	11.3	35.8	26.4	26.4	26.4	17.0	1.9	11.3	15.1	1.9
	額田圏域	20	25.0	0.0	0.0	0.0	35.0	20.0	25.0	15.0	5.0	0.0	15.0	30.0	0.0
	わからない	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

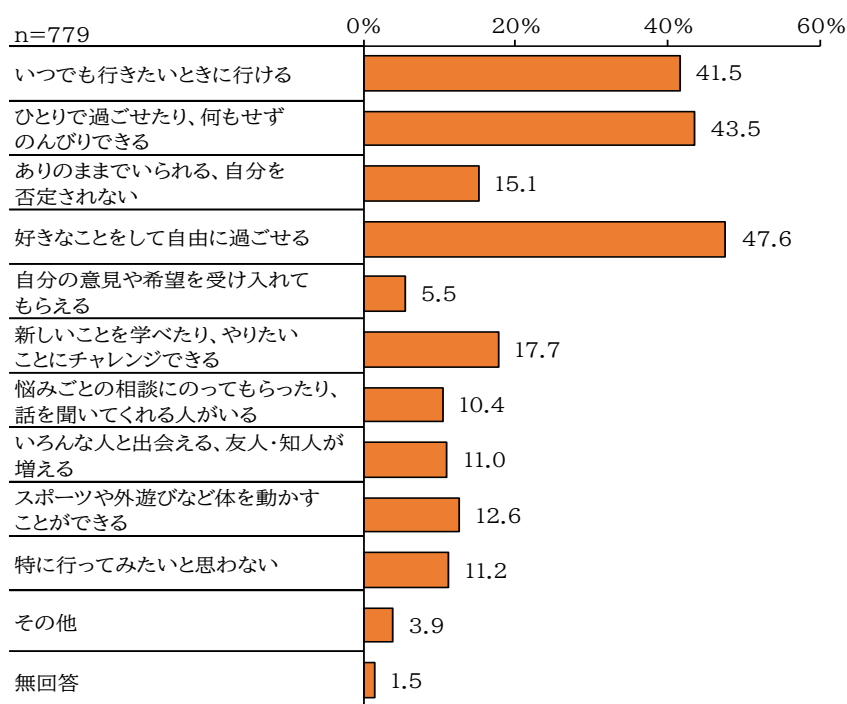
<問15で「2. ない」「3. どちらともいえない」と回答した方にお聞きします>

問17 あなたは、どのようなところであれば行ってみたいと思いますか。

(あてはまるすべての番号に○)

令和7年度調査では、「好きなことをして自由に過ごせる」が47.6%で最も高く、次いで「ひとりで過ごせたり、何もせずのんびりできる」が43.5%、「いつでも行きたいときに行ける」が41.5%となっています。

性別では、女性で「悩みごとの相談にのってもらったり、話を聞いてくれる人がいる」が15.1%と、男性と比べて10.5ポイント高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分	全体	いつでも行きたいときに行ける	ひとりでも過ごせたり、何もせずのんびりできる	ありのままですぐにいられる、自分を否定されたくない	好きなことをして自由に過ごせる	自分の意見や希望を受け入れてもらえる	新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる	話を聞いてくれる人がいる	悩みごとの相談にのってもらったり、話を聞いてくれる人がいる	いろいろな人と出会える、友人・知人が増える	スポーツや外遊びなど体を動かすことができる	特に行ってみたと思う	その他	無回答
全体	779	41.5	43.5	15.1	47.6	5.5	17.7	10.4	11.0	12.6	11.2	3.9	1.5	
性別	男性	345	41.2	42.6	15.4	51.3	4.6	14.8	4.6	10.1	15.4	13.0	2.6	0.9
	女性	431	41.3	43.9	15.1	44.5	6.3	20.2	15.1	11.8	10.4	9.7	4.9	2.1
年齢区分別	20歳未満	4	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	45	48.9	53.3	22.2	71.1	6.7	13.3	6.7	11.1	11.1	6.7	2.2	0.0
	30～39歳	70	48.6	58.6	21.4	48.6	10.0	20.0	7.1	5.7	12.9	8.6	2.9	1.4
	40～49歳	114	43.9	52.6	17.5	50.0	7.9	21.1	11.4	14.0	15.8	7.9	2.6	1.8
	50～59歳	154	46.8	50.0	14.3	44.8	3.9	23.4	11.0	9.1	11.7	7.8	2.6	0.0
	60～64歳	73	41.1	41.1	12.3	54.8	6.8	23.3	5.5	13.7	13.7	9.6	2.7	1.4
	65～69歳	56	42.9	46.4	14.3	53.6	3.6	14.3	12.5	1.8	8.9	10.7	1.8	0.0
	70～74歳	80	37.5	36.3	10.0	45.0	5.0	17.5	12.5	12.5	12.5	13.8	3.8	2.5
75歳以上	180	31.7	26.7	13.3	39.4	2.8	9.4	11.7	13.9	12.2	17.8	7.8	3.3	
圏域別	本庁圏域	219	42.5	42.5	11.0	46.1	4.6	11.9	9.1	9.1	14.2	10.0	2.7	2.3
	岡崎圏域	127	44.1	45.7	12.6	50.4	7.1	24.4	14.2	13.4	14.2	8.7	3.1	0.8
	大平圏域	53	39.6	41.5	17.0	37.7	5.7	18.9	9.4	15.1	9.4	11.3	5.7	1.9
	東部圏域	41	31.7	39.0	12.2	46.3	2.4	7.3	9.8	12.2	12.2	12.2	4.9	0.0
	岩津圏域	99	46.5	37.4	18.2	46.5	7.1	17.2	9.1	9.1	14.1	14.1	4.0	2.0
	矢作圏域	109	43.1	47.7	20.2	49.5	0.9	20.2	10.1	11.0	8.3	15.6	4.6	0.0
	六ツ美圏域	79	39.2	41.8	24.1	49.4	10.1	24.1	10.1	11.4	15.2	8.9	3.8	1.3
	額田圏域	36	30.6	58.3	13.9	58.3	8.3	19.4	11.1	13.9	11.1	13.9	2.8	5.6
	わからない	10	30.0	50.0	0.0	40.0	10.0	30.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 3 あなたの福祉への関心、意識について

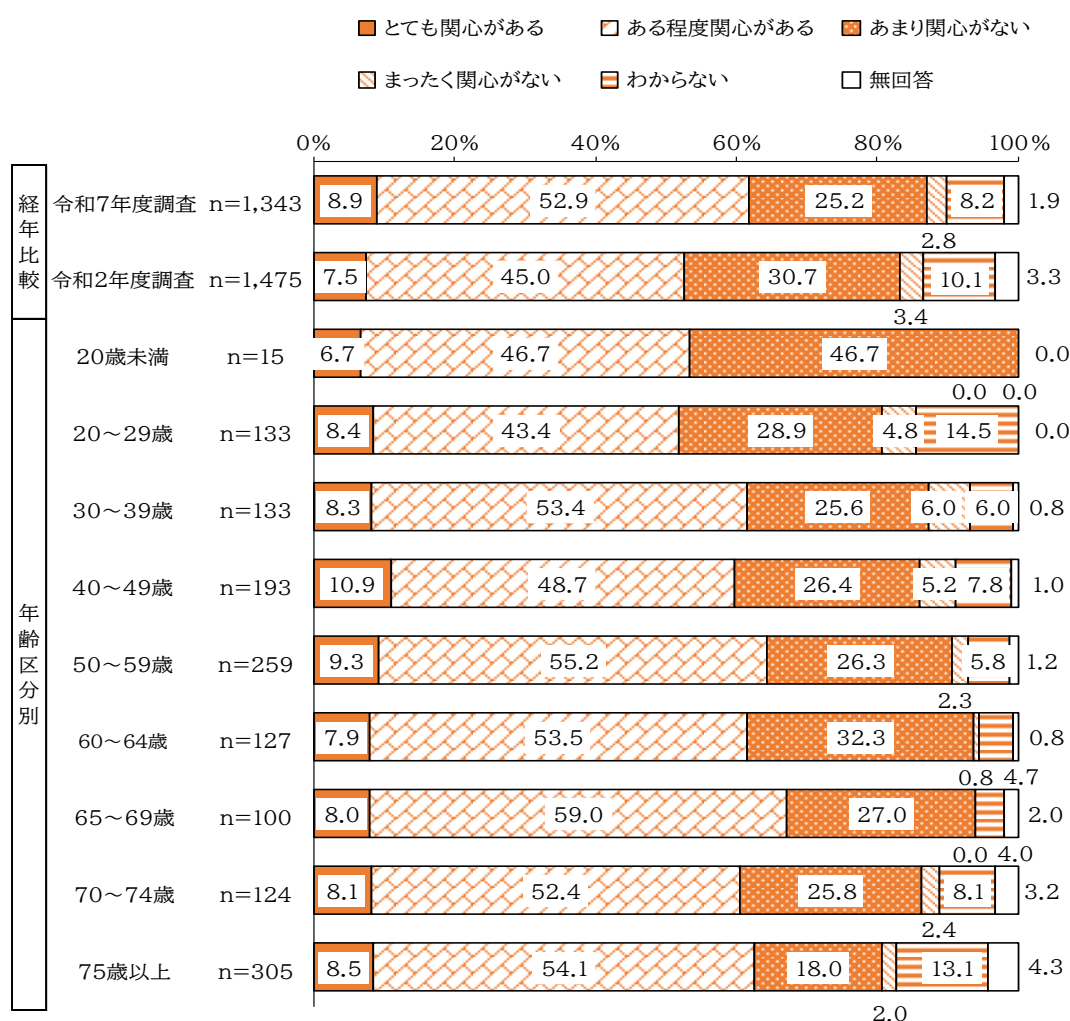
問 18 あなたは、「福祉」に関心がありますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、『関心がある』(とても関心がある)と「ある程度関心がある」の計が 61.8%で最も高く、次いで『関心がない』(「あまり関心がない」と「まったく関心がない」の計)が 28.0%、「わからない」が 8.2%となっています。

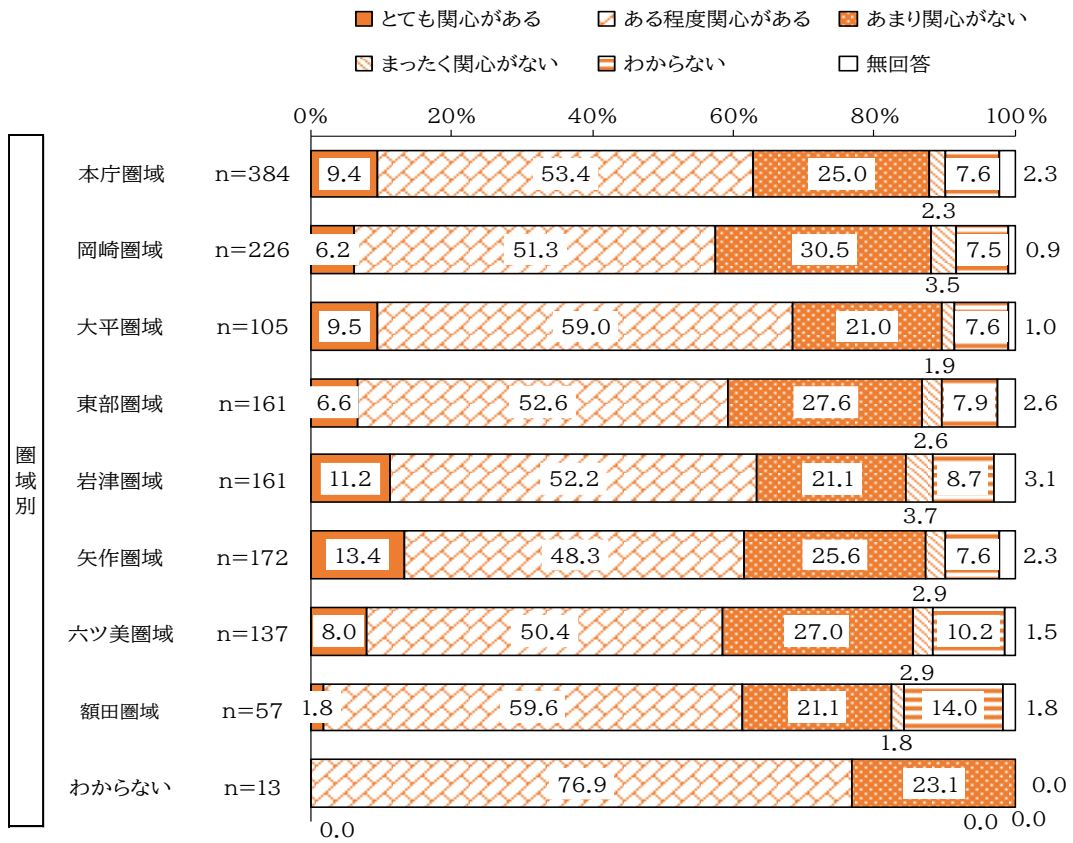
経年比較では、『関心がある』が令和7年度調査で 61.8%と、令和2年度調査と比べて 9.3 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、65～69 歳で『関心がある』(67.0%)の割合が最も高くなっています。

圏域別では、大平圏域で『関心がある』(68.5%)の割合が最も高くなっています。



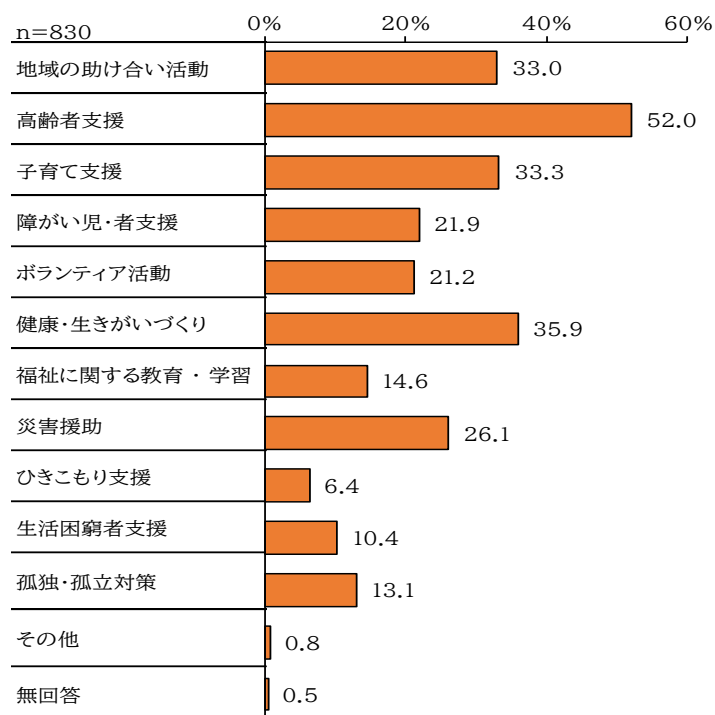
### Ⅲ 調査結果



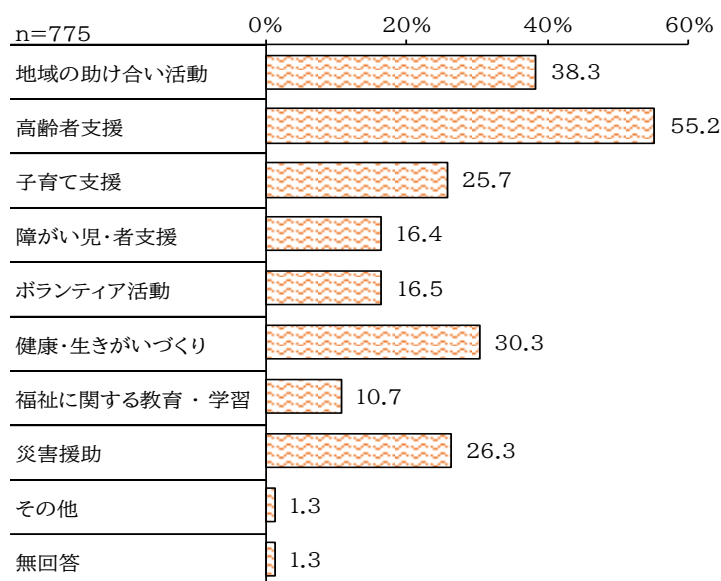
<問 18 で「1. とても関心がある」「2. ある程度関心がある」と回答した方にお聞きします>  
 問 19 あなたが福祉について関心があることは、次のどれですか。(あてはまるすべての番号に○)

令和7年度調査では、「高齢者支援」が52.0%で最も高く、次いで「健康・生きがいづくり」が35.9%、「子育て支援」が33.3%となっています。

性別では、男性で「地域の助け合い活動」が39.6%と、女性と比べて11.5ポイント、女性で「高齢者支援」が57.1%と、男性と比べて12ポイント高くなっています。



【参考：令和2年度調査】



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	地域の助け合い活動	高齢者支援	子育て支援	障がい児・者支援	ボランティア活動	健康・生きがいづくり	福祉に関する教育・学習	災害援助	ひきこもり支援	生活困窮者支援	孤独・孤立対策	その他	無回答
全体		830	33.0	52.0	33.3	21.9	21.2	35.9	14.6	26.1	6.4	10.4	13.1	0.8	0.5
性別	男性	346	39.6	45.1	33.2	19.7	24.3	34.4	11.0	28.3	5.5	7.8	9.0	1.2	0.6
	女性	480	28.1	57.1	33.1	23.5	19.0	37.1	17.3	24.2	7.1	12.3	16.3	0.6	0.4
年齢区分別	20歳未満	8	37.5	25.0	75.0	25.0	37.5	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	43	23.3	20.9	67.4	25.6	23.3	18.6	16.3	39.5	7.0	18.6	11.6	2.3	0.0
	30～39歳	82	14.6	24.4	76.8	23.2	7.3	25.6	12.2	26.8	8.5	6.1	9.8	0.0	0.0
	40～49歳	115	20.0	46.1	55.7	34.8	25.2	33.0	19.1	35.7	9.6	14.8	12.2	0.0	0.9
	50～59歳	167	29.9	52.1	32.3	28.1	26.9	38.3	21.0	31.7	8.4	13.2	16.2	0.0	0.0
	60～64歳	78	35.9	55.1	20.5	24.4	25.6	33.3	16.7	28.2	7.7	9.0	12.8	0.0	0.0
	65～69歳	67	49.3	50.7	23.9	11.9	26.9	37.3	11.9	20.9	6.0	7.5	11.9	4.5	1.5
	70～74歳	75	40.0	61.3	12.0	21.3	24.0	45.3	6.7	10.7	5.3	9.3	14.7	0.0	0.0
	75歳以上	191	43.5	70.7	9.4	9.9	13.6	41.4	8.9	17.8	2.1	7.9	13.6	1.6	1.0
圏域別	本庁圏域	241	29.9	52.7	32.4	22.8	22.0	38.6	13.7	26.6	7.5	9.1	12.0	0.8	0.4
	岡崎圏域	130	30.0	48.5	40.0	25.4	20.8	36.9	17.7	28.5	7.7	13.8	16.9	2.3	0.0
	大平圏域	72	31.9	38.9	34.7	19.4	27.8	40.3	12.5	15.3	8.3	6.9	11.1	0.0	0.0
	東部圏域	45	40.0	57.8	28.9	13.3	15.6	33.3	13.3	26.7	2.2	2.2	6.7	0.0	2.2
	岩津圏域	102	32.4	61.8	29.4	27.5	14.7	34.3	12.7	25.5	4.9	14.7	14.7	0.0	0.0
	矢作圏域	106	40.6	49.1	34.0	20.8	20.8	33.0	16.0	29.2	7.5	17.0	15.1	0.0	0.9
	六ツ美圏域	80	26.3	48.8	37.5	22.5	26.3	35.0	20.0	25.0	3.8	2.5	12.5	2.5	0.0
	額田圏域	35	54.3	68.6	20.0	11.4	20.0	28.6	8.6	28.6	5.7	11.4	11.4	0.0	0.0
	わからない	10	30.0	40.0	20.0	0.0	20.0	10.0	0.0	30.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0

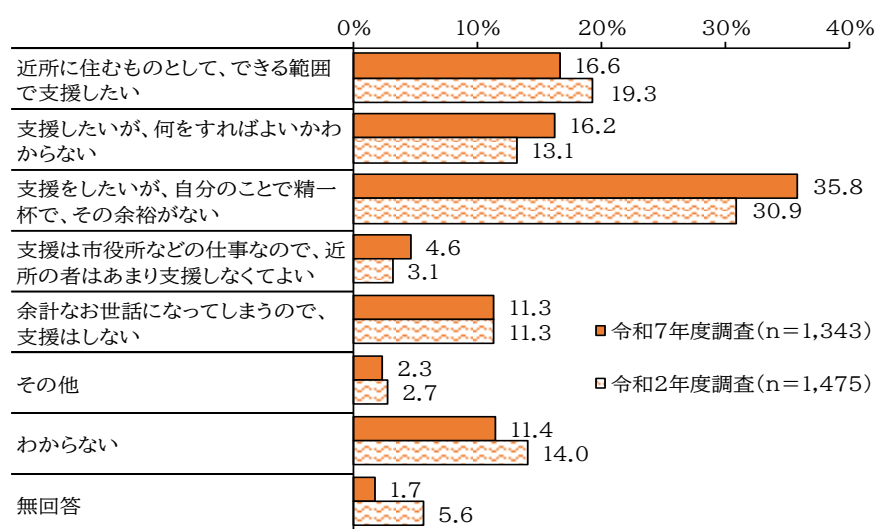
問 20 地域に住む「ひとり暮らしの高齢者」、「ねたきりの高齢者や障がいのある人のいる家族」、「子育てをしている家族」などに対する支援（日常生活上のお手伝いなど）について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。（1つの番号に○）

令和7年度調査では、「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」が 35.8%で最も高く、次いで「近所に住むものとして、できる範囲で支援したい」が 16.6%、「支援したいが、何をすればよいかわからない」が 16.2%となっています。

経年比較では、「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」が令和7年度調査で 35.8%と、令和2年度調査と比べて 4.9 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、20歳未満を除くすべての年齢で「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」の割合が最も高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」の割合が最も高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：％)

区分	全体	で近所に住むものとして、 できる範囲で支援したい	ば支援したいが、何をすればよいかわからない	裕がない こと、で精一杯で、自分の 支援をしたいが、自分の	りなで、近所者などはあま り支援しなくてよい	ま余計なお世話になつてし まうので、支援はしない	その他	わからない	無回答	
全体	1,343	16.6	16.2	35.8	4.6	11.3	2.3	11.4	1.7	
年齢区分別	20歳未満	15	0.0	40.0	33.3	6.7	13.3	6.7	0.0	0.0
	20～29歳	83	13.3	12.0	43.4	13.3	6.0	0.0	12.0	0.0
	30～39歳	133	8.3	15.8	40.6	10.5	18.0	0.8	6.0	0.0
	40～49歳	193	10.9	14.0	40.9	6.7	12.4	2.1	12.4	0.5
	50～59歳	259	15.1	17.4	37.5	4.6	11.2	2.3	10.8	1.2
	60～64歳	127	20.5	15.7	28.3	3.1	15.7	1.6	15.0	0.0
	65～69歳	100	23.0	21.0	28.0	4.0	13.0	2.0	7.0	2.0
	70～74歳	124	25.8	19.4	28.2	0.8	11.3	1.6	12.1	0.8
	75歳以上	305	19.7	14.4	35.7	0.7	6.9	4.3	13.4	4.9
圏域別	本庁圏域	384	17.4	14.8	34.9	5.5	11.7	2.6	11.2	1.8
	岡崎圏域	226	11.9	17.7	42.5	5.3	11.1	1.3	9.3	0.9
	大平圏域	105	18.1	13.3	35.2	3.8	13.3	3.8	10.5	1.9
	東部圏域	76	19.7	18.4	28.9	2.6	10.5	2.6	13.2	3.9
	岩津圏域	161	18.0	15.5	36.6	5.0	6.2	3.1	14.3	1.2
	矢作圏域	172	15.7	19.2	35.5	3.5	14.0	2.3	9.3	0.6
	六ツ美圏域	137	14.6	18.2	31.4	5.1	12.4	0.7	14.6	2.9
	額田圏域	57	28.1	14.0	33.3	1.8	10.5	1.8	7.0	3.5
	わからない	13	7.7	7.7	46.2	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0

問 21 近所で困っている人がいた場合、「日常生活の中で私にもお手伝いできる」と思うことはありますか。(あてはまるすべての番号に○)

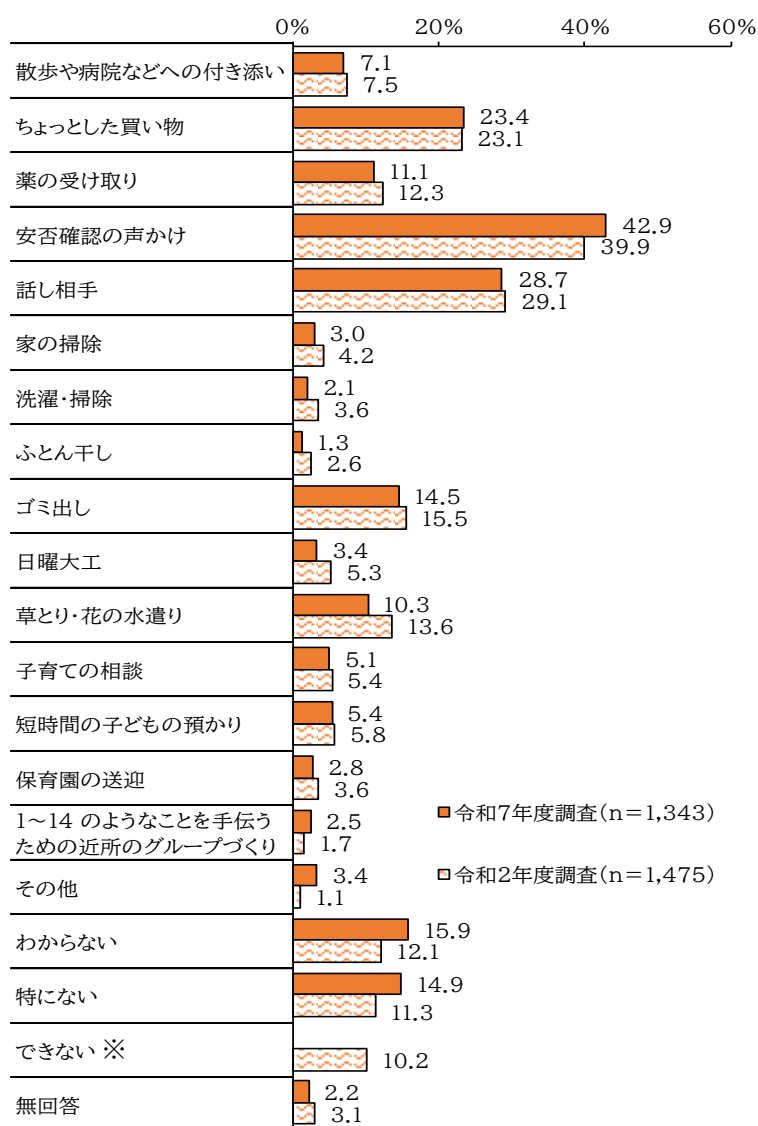
令和7年度調査では、「安否確認の声かけ」が42.9%で最も高く、次いで「話し相手」が28.7%、「ちょっとした買い物」が23.4%となっています。

経年比較では、「安否確認の声かけ」が令和7年度調査で42.9%と、令和2年度調査と比べて3ポイント高くなっています。

性別では、女性で「ちょっとした買い物」が28.9%と、男性と比べて12.7ポイント、女性で「話し相手」が32.9%と、男性と比べて9.7ポイント高くなっています。

年齢区分別では、40歳以降で「安否確認の声かけ」の割合が最も高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で「安否確認の声かけ」の割合が最も高くなっています。



※選択肢について、「できない」は令和2年度調査のみの選択肢です。

### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	散歩や病院などへの付き添い	ちょっとした買い物	薬の受け取り	安否確認の声かけ	話し相手	家の掃除	洗濯・掃除	ふとん干し	ゴミ出し
全体		1,343	7.1	23.4	11.1	42.9	28.7	3.0	2.1	1.3	14.5
性別	男性	591	6.1	16.2	6.8	40.6	23.2	2.2	0.7	0.7	11.8
	女性	748	7.9	28.9	14.6	44.5	32.9	3.6	3.2	1.7	16.6
年齢区分別	20歳未満	15	20.0	46.7	0.0	33.3	60.0	6.7	6.7	0.0	33.3
	20～29歳	83	12.0	26.5	9.6	48.2	37.3	4.8	2.4	1.2	16.9
	30～39歳	133	9.8	27.1	9.8	33.8	34.6	1.5	1.5	0.8	7.5
	40～49歳	193	6.7	28.0	15.5	43.0	28.0	2.1	2.1	2.6	13.0
	50～59歳	259	10.8	29.3	18.5	48.6	24.7	3.9	2.7	1.2	19.3
	60～64歳	127	5.5	25.2	12.6	43.3	22.8	5.5	4.7	2.4	15.7
	65～69歳	100	6.0	22.0	15.0	60.0	29.0	3.0	3.0	2.0	20.0
	70～74歳	124	4.8	20.2	6.5	46.0	29.0	3.2	1.6	0.8	14.5
75歳以上	305	3.3	12.8	3.6	33.8	28.2	1.6	0.3	0.3	10.5	
圏域別	本庁圏域	384	7.6	22.9	12.2	43.2	27.3	1.3	1.6	0.8	14.1
	岡崎圏域	226	5.8	24.3	13.3	43.8	28.8	4.4	4.0	1.8	14.6
	大平圏域	105	3.8	22.9	8.6	40.0	31.4	2.9	1.0	1.0	10.5
	東部圏域	76	5.3	17.1	6.6	44.7	27.6	0.0	0.0	1.3	10.5
	岩津圏域	161	5.6	28.6	11.8	42.9	29.8	3.1	1.2	1.9	16.8
	矢作圏域	172	8.7	22.7	10.5	44.2	29.7	5.2	4.1	0.6	15.1
	六ツ美圏域	137	10.2	24.1	12.4	44.5	27.7	2.9	1.5	2.9	16.1
	額田圏域	57	10.5	19.3	5.3	43.9	33.3	3.5	0.0	0.0	14.0
	わからない	13	7.7	23.1	0.0	23.1	30.8	7.7	7.7	0.0	30.8

### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	日曜大工	草とり・花の水遣り	子育ての相談	短時間の子どもの預かり	保育園の送迎	1～14のよ うなことを手 伝うための近 所のグループ づくり	その他	わからない	特 に な い	無 回 答
全体		1,343	3.4	10.3	5.1	5.4	2.8	2.5	3.4	15.9	14.9	2.2
性別	男性	591	7.1	13.5	2.9	3.4	2.9	2.4	2.7	17.8	17.3	1.9
	女性	748	0.3	7.8	7.0	7.1	2.8	2.7	3.9	14.4	13.1	2.4
年齢区 分別	20歳未満	15	6.7	20.0	0.0	13.3	13.3	6.7	0.0	6.7	13.3	0.0
	20～29歳	83	2.4	10.8	4.8	4.8	3.6	1.2	1.2	13.3	14.5	0.0
	30～39歳	133	0.8	6.8	8.3	12.0	2.3	3.0	1.5	17.3	15.0	0.0
	40～49歳	193	3.6	10.9	10.4	7.8	4.1	4.1	2.6	16.1	14.5	0.5
	50～59歳	259	2.7	10.0	6.6	8.1	3.1	3.5	1.9	16.6	13.5	1.5
	60～64歳	127	5.5	11.0	6.3	4.7	3.9	1.6	4.7	20.5	15.7	0.0
	65～69歳	100	9.0	12.0	2.0	4.0	4.0	0.0	5.0	8.0	10.0	1.0
	70～74歳	124	4.0	10.5	2.4	2.4	1.6	6.5	1.6	14.5	16.9	3.2
75歳以上	305	1.6	10.5	1.3	0.7	1.0	0.3	6.2	17.0	17.0	5.9	
圏 域 別	本庁圏域	384	4.4	8.9	5.2	4.4	2.9	2.6	3.6	14.8	12.2	3.1
	岡崎圏域	226	1.8	12.8	6.6	7.1	3.1	2.7	4.4	15.5	15.0	1.3
	大平圏域	105	1.9	7.6	5.7	6.7	1.0	1.9	3.8	17.1	15.2	1.9
	東部圏域	76	1.3	7.9	2.6	6.6	1.3	1.3	2.6	15.8	15.8	2.6
	岩津圏域	161	4.3	10.6	4.3	5.0	3.7	3.1	3.7	10.6	18.0	1.9
	矢作圏域	172	2.3	14.5	7.0	6.4	2.3	3.5	2.9	20.3	14.5	1.2
	六ツ美圏域	137	2.9	10.2	2.9	6.6	4.4	2.2	2.9	16.8	16.1	2.9
	額田圏域	57	8.8	8.8	5.3	0.0	3.5	1.8	0.0	19.3	19.3	0.0
	わからない	13	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	23.1	0.0

### Ⅲ 調査結果

## 4 地域福祉に関することについて

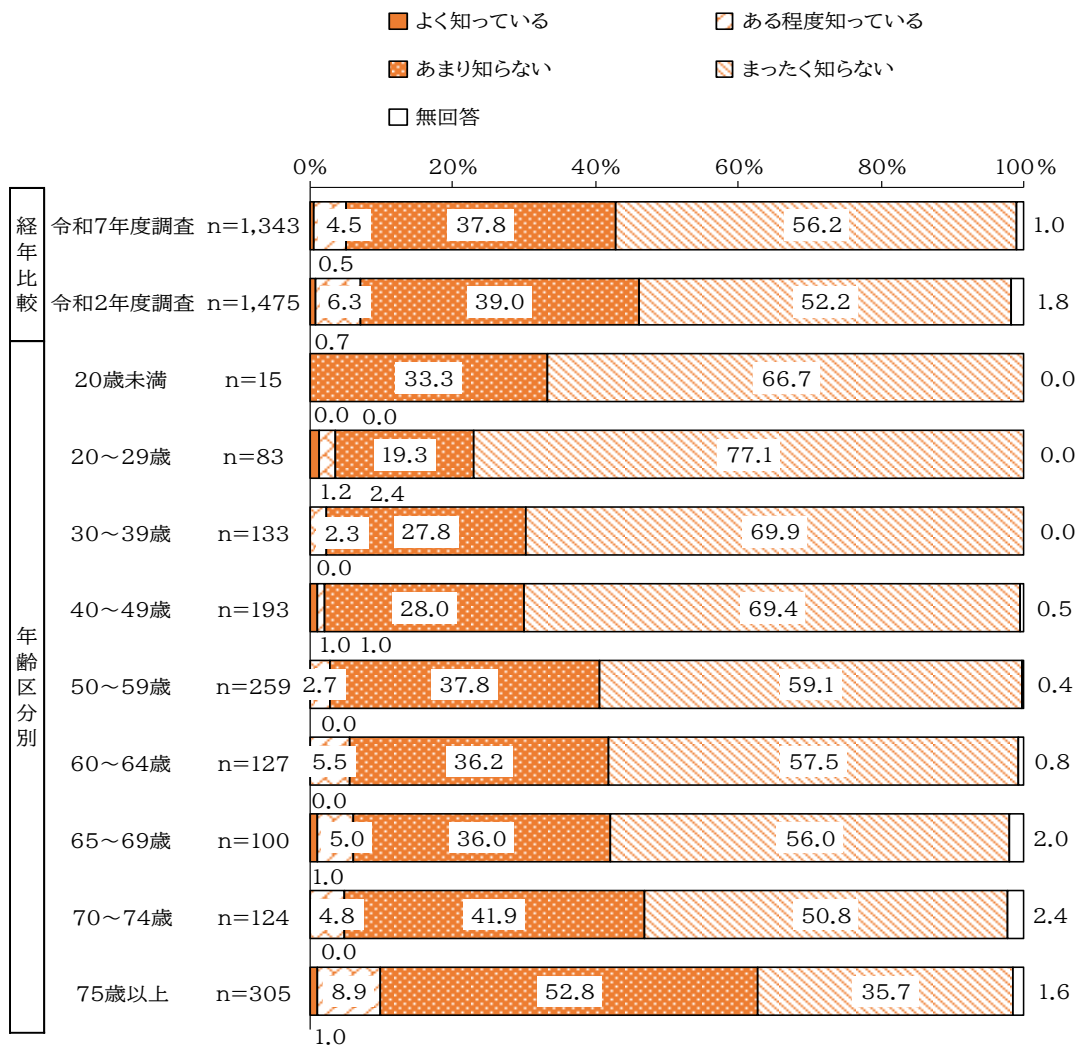
問 22 あなたは「岡崎市地域福祉計画」を知っていますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、『知っている』(よく知っている)と『ある程度知っている』の計が 5.0%、『知らない』(あまり知らない)と『まったく知らない』の計が 94.0%となっています。

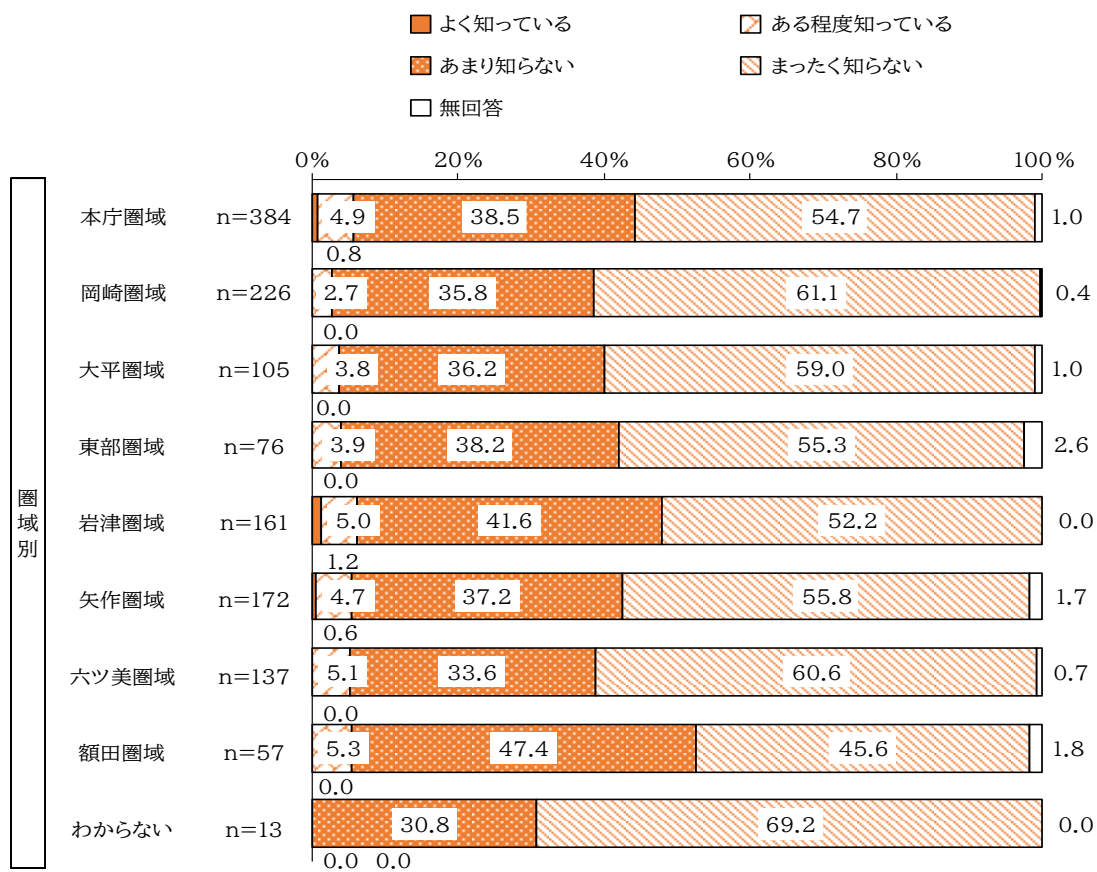
経年比較では、大きな変化はみられません。

年齢区分別では、すべての年齢で『知らない』の割合が8割を超えて高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で『知らない』の割合が9割を超えて高くなっています。



### Ⅲ 調査結果



### Ⅲ 調査結果

問 23 地域の助け合いや福祉活動を進めるために、どのようなことが必要だと思いますか。

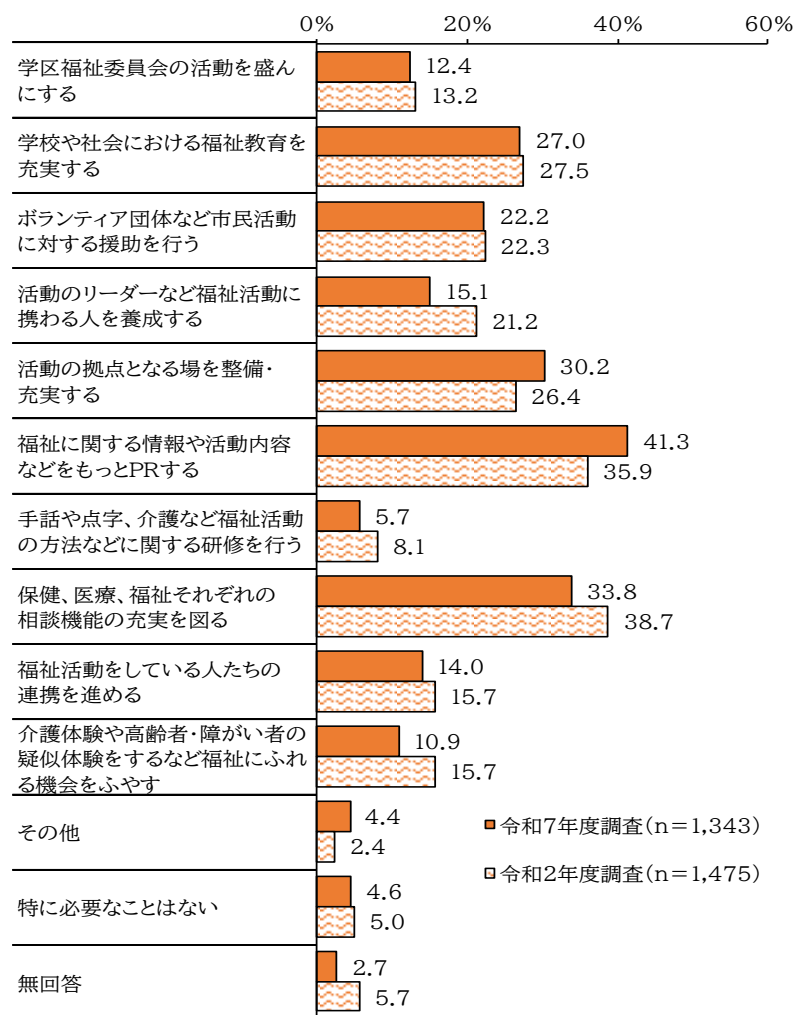
(3つまでの番号に○)

令和7年度調査では、「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」が41.3%で最も高く、次いで「保健、医療、福祉それぞれの相談機能の充実を図る」が33.8%、「活動の拠点となる場を整備・充実する」が30.2%となっています。

経年比較では、「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」が令和7年度調査で41.3%と、令和2年度調査と比べて5.4ポイント高くなっています。

年齢区分別では、65～69歳、70～74歳で「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」(55.0%、53.2%)の割合が高くなっています。

圏域別では、額田圏域で「ボランティア団体など市民活動に対する援助を行う」(36.8%)、東部圏域で「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」(52.6%)の割合が高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分	全体	学区福祉委員会の活動を盛んにする	学校や社会における福祉教育を充実する	ボランティア団体など市民活動に対する援助を行う	活動のリーダーなど福祉活動に携わる人を養成する	活動の拠点となる場を整備・充実する	福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする	行動の方法などに関する研修を行う	手話や点字、介護など福祉生活の方法などに関する研修を行う	保健、医療、福祉それぞれの相談機能の充実を図る	福祉活動をしている人たちの連携を進める	介護体験や高齢者・障がい者の疑似体験をするなど福祉にふれる機会をふやす	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	1,343	12.4	27.0	22.2	15.1	30.2	41.3	5.7	33.8	14.0	10.9	4.4	4.6	2.7	
年齢区分別	20歳未満	15	26.7	53.3	40.0	13.3	13.3	33.3	20.0	20.0	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0
	20～29歳	83	18.1	28.9	22.9	15.7	33.7	33.7	8.4	37.3	15.7	12.0	10.8	2.4	0.0
	30～39歳	133	10.5	36.1	14.3	10.5	28.6	37.6	9.8	35.3	21.8	12.0	6.0	3.0	0.8
	40～49歳	193	9.8	36.3	25.9	14.0	34.2	31.1	6.2	34.7	16.1	9.8	3.1	4.7	1.0
	50～59歳	259	8.9	30.1	21.6	13.1	34.4	44.4	7.3	38.6	15.4	11.6	1.9	5.0	0.0
	60～64歳	127	10.2	21.3	26.8	18.1	36.2	42.5	3.9	36.2	15.7	4.7	3.1	4.7	0.0
	65～69歳	100	12.0	28.0	23.0	18.0	29.0	55.0	8.0	31.0	12.0	7.0	3.0	3.0	3.0
	70～74歳	124	9.7	16.1	23.4	15.3	33.1	53.2	2.4	33.1	7.3	14.5	1.6	4.8	4.8
	75歳以上	305	17.4	19.0	20.0	17.4	22.0	39.3	2.0	28.9	9.8	12.5	6.9	5.9	7.9
圏域別	本庁圏域	384	11.5	26.6	24.5	18.8	27.6	43.8	5.5	33.3	14.3	8.9	4.4	3.1	2.1
	岡崎圏域	226	10.6	33.2	19.5	10.6	27.0	42.9	6.6	35.0	15.9	13.3	5.3	5.3	1.8
	大平圏域	105	9.5	32.4	21.9	16.2	37.1	33.3	5.7	33.3	12.4	6.7	1.9	6.7	5.7
	東部圏域	76	9.2	26.3	17.1	11.8	28.9	52.6	3.9	31.6	7.9	10.5	5.3	6.6	3.9
	岩津圏域	161	16.1	24.8	14.9	12.4	31.7	40.4	6.2	36.0	9.9	12.4	5.6	6.2	1.9
	矢作圏域	172	14.5	23.8	19.8	14.5	33.1	46.5	6.4	34.9	16.3	9.3	3.5	4.1	2.3
	六ツ美圏域	137	13.1	26.3	27.0	16.1	33.6	32.1	3.6	34.3	15.3	12.4	4.4	5.1	3.6
	額田圏域	57	12.3	19.3	36.8	19.3	35.1	35.1	7.0	22.8	14.0	21.1	3.5	0.0	3.5
	わからない	13	15.4	15.4	30.8	23.1	30.8	15.4	0.0	46.2	23.1	7.7	7.7	7.7	0.0

### Ⅲ 調査結果

## 5 災害時の支援について

問 24 あなたは、災害時避難行動要支援者支援制度があるのを知っていますか。

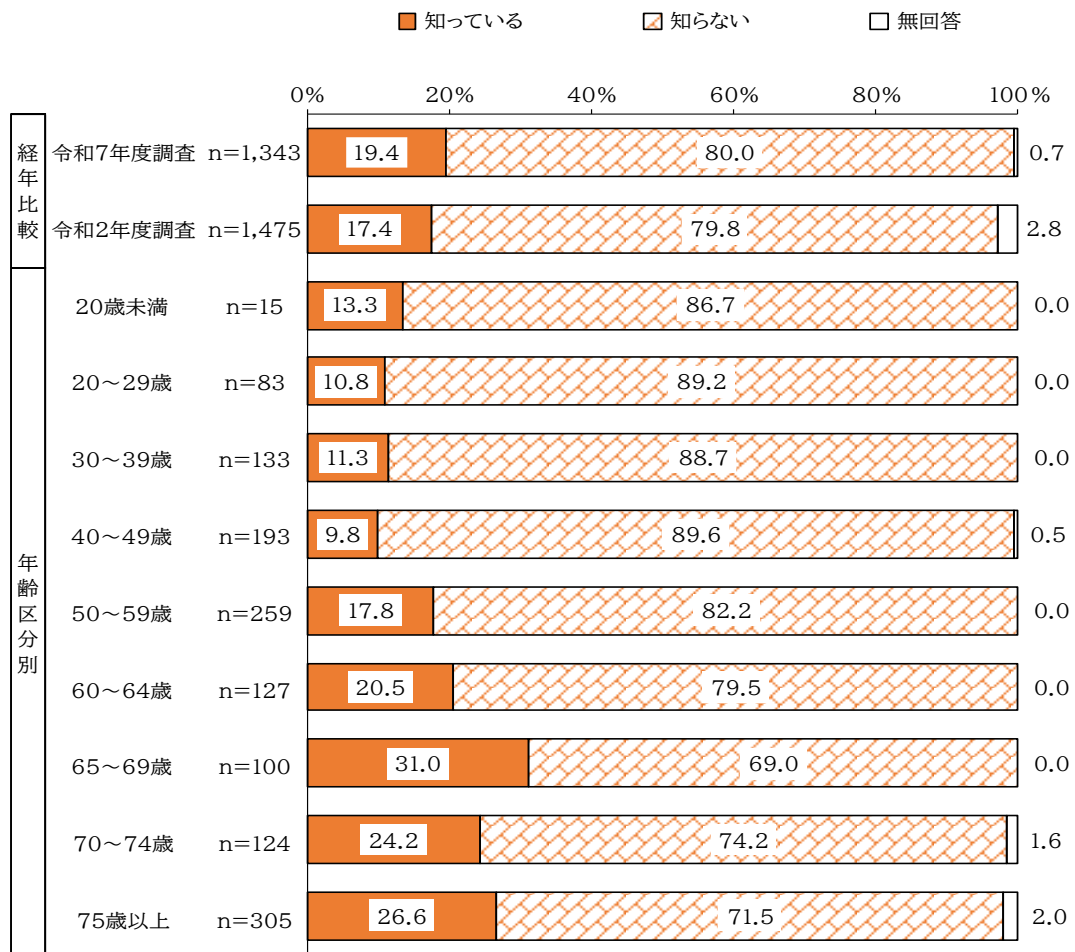
(どちらかの番号に○)

令和7年度調査では、「知っている」が19.4%、「知らない」が80.0%となっています。

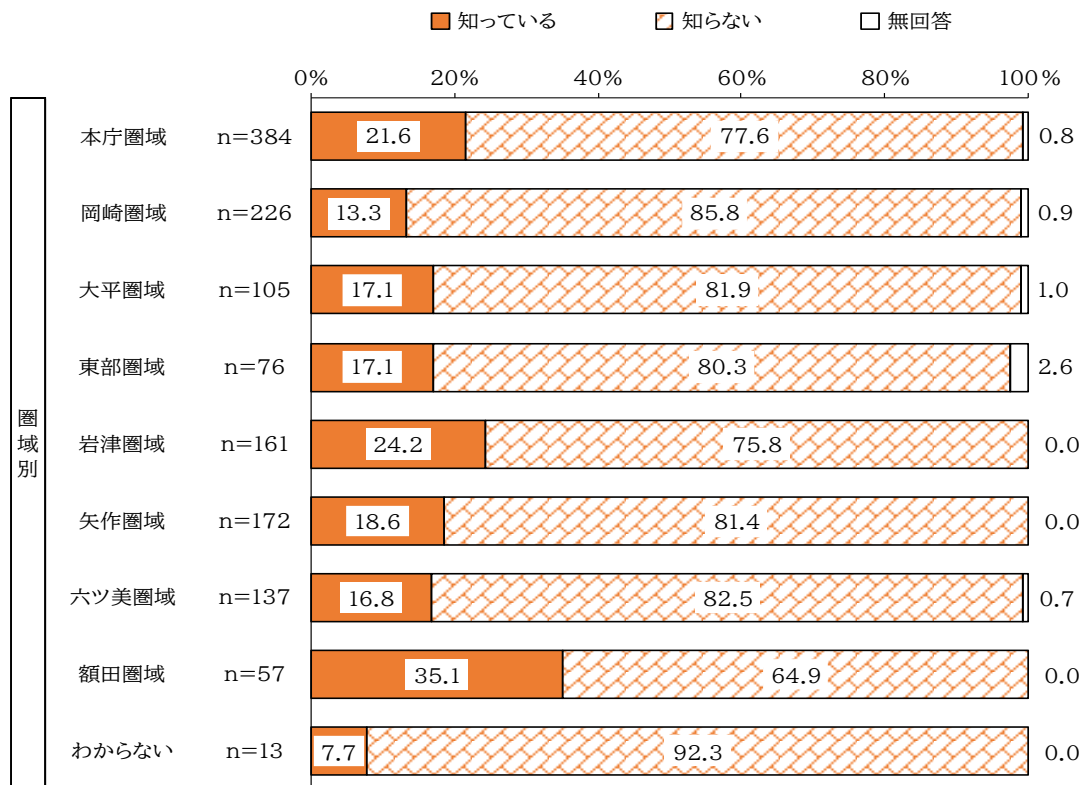
経年比較では、大きな変化はみられません。

年齢区分別では、65～69歳で「知っている」(31.0%)の割合が3割を超えて高くなっています。

圏域別では、額田圏域で「知っている」(35.1%)の割合が3割を超えて高くなっています。



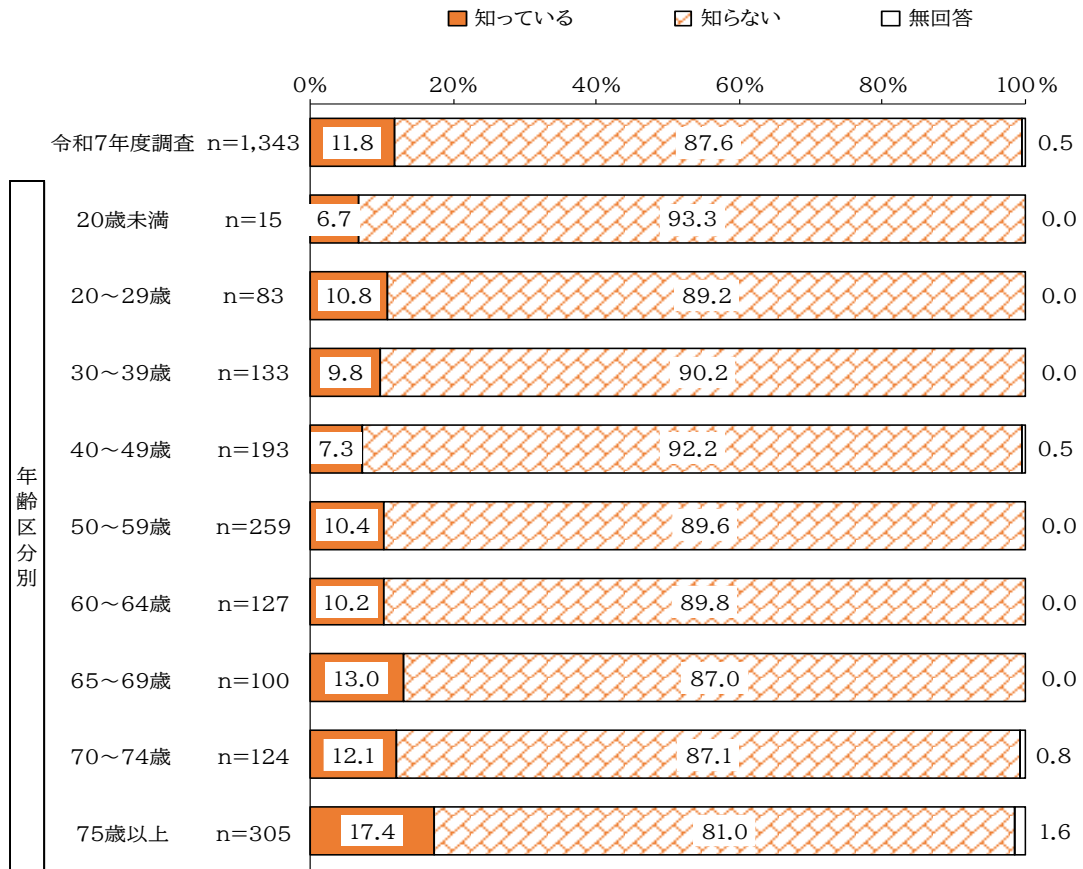
### Ⅲ 調査結果



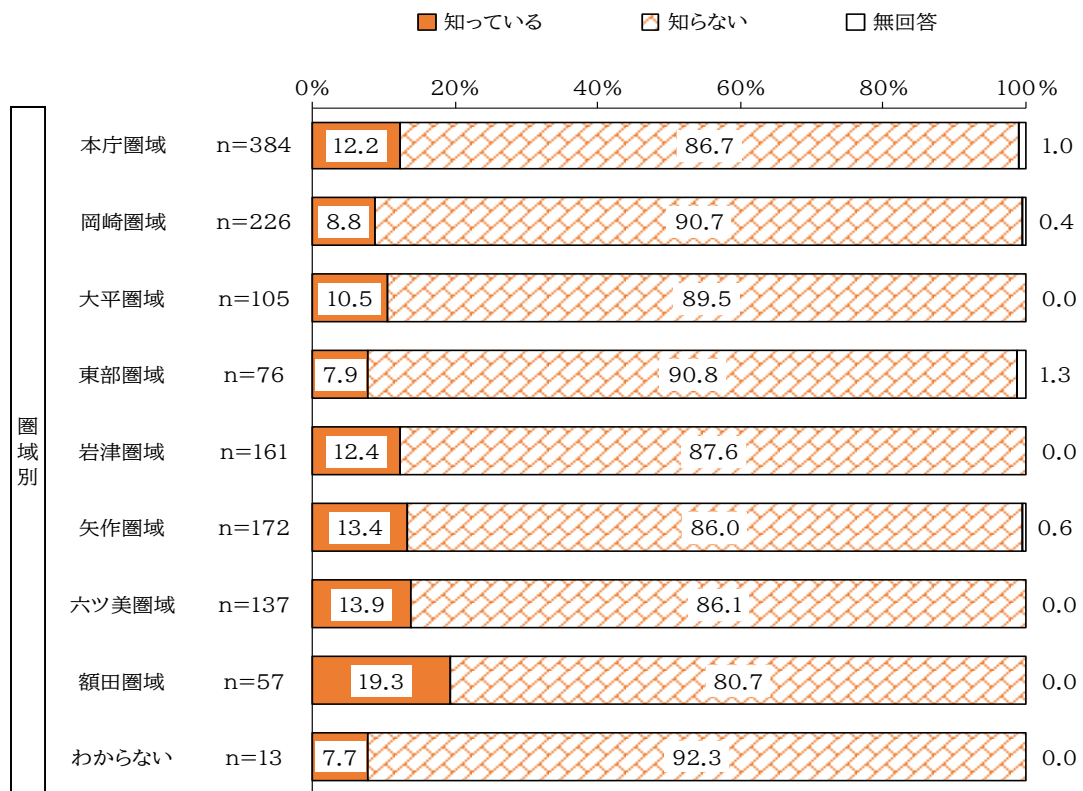
### Ⅲ 調査結果

問 25 あなたは、個別避難計画があるのを知っていますか。(どちらかの番号に○)

令和7年度調査では、「知っている」が11.8%、「知らない」が87.6%となっています。  
 年齢区分別では、75歳以上で「知っている」(17.4%)の割合がやや高くなっています。  
 圏域別では、額田圏域で「知っている」(19.3%)の割合がやや高くなっています。



### Ⅲ 調査結果



### Ⅲ 調査結果

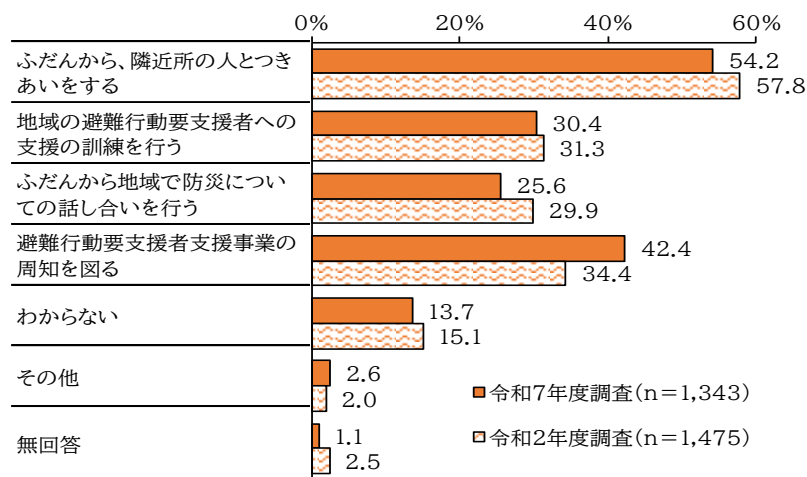
問 26 高齢者だけの世帯や障がいのある人のいる世帯（以下、「避難行動要支援者」といいます）などは災害時にさまざまな支援が必要です。どのようにすれば、災害時に支援ができると思いますか。（あてはまるすべての番号に○）

令和7年度調査では、「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」が 54.2%で最も高く、次いで「避難行動要支援者支援事業の周知を図る」が 42.4%、「地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う」が 30.4%となっています。

経年比較では、「避難行動要支援者支援事業の周知を図る」が令和7年度調査で42.4%と、令和2年度調査と比べて 8 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、65～69 歳で「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」(64.0%)の割合が高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」の割合が最も高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	ふだんから、 つきあいを する	地域の避難 行動要支援 者への訓練 を行う	ふだんから 地域の防災 について話 し合いを行 う	避難行動要 支援者支援 事業の周知 を図る	わからない	その他	無回答
全体		1,343	54.2	30.4	25.6	42.4	13.7	2.6	1.1
年齢 区分 別	20歳未満	15	66.7	66.7	26.7	33.3	6.7	0.0	0.0
	20～29歳	83	55.4	41.0	22.9	45.8	10.8	1.2	0.0
	30～39歳	133	48.9	27.1	17.3	50.4	9.8	5.3	0.8
	40～49歳	193	48.7	44.0	26.9	46.1	11.9	3.1	1.0
	50～59歳	259	52.9	35.5	26.6	47.5	10.8	2.7	0.4
	60～64歳	127	50.4	32.3	27.6	44.9	13.4	0.8	0.0
	65～69歳	100	64.0	31.0	21.0	44.0	14.0	4.0	0.0
	70～74歳	124	53.2	16.1	30.6	48.4	13.7	0.8	1.6
	75歳以上	305	58.7	19.3	26.9	28.2	20.3	2.6	3.0
圏 域 別	本庁圏域	384	51.8	28.1	26.8	43.0	12.5	2.3	1.0
	岡崎圏域	226	51.8	31.9	21.2	42.5	13.7	3.5	2.2
	大平圏域	105	59.0	28.6	23.8	40.0	15.2	2.9	1.0
	東部圏域	76	55.3	32.9	22.4	43.4	10.5	2.6	1.3
	岩津圏域	161	55.3	32.9	22.4	41.6	13.7	4.3	0.0
	矢作圏域	172	52.3	28.5	27.9	50.6	12.8	0.6	1.2
	六ツ美圏域	137	58.4	34.3	32.1	38.7	13.1	2.9	1.5
	額田圏域	57	66.7	31.6	35.1	31.6	17.5	1.8	0.0
	わからない	13	38.5	23.1	23.1	53.8	30.8	0.0	0.0

### Ⅲ 調査結果

## 6 社会福祉協議会について

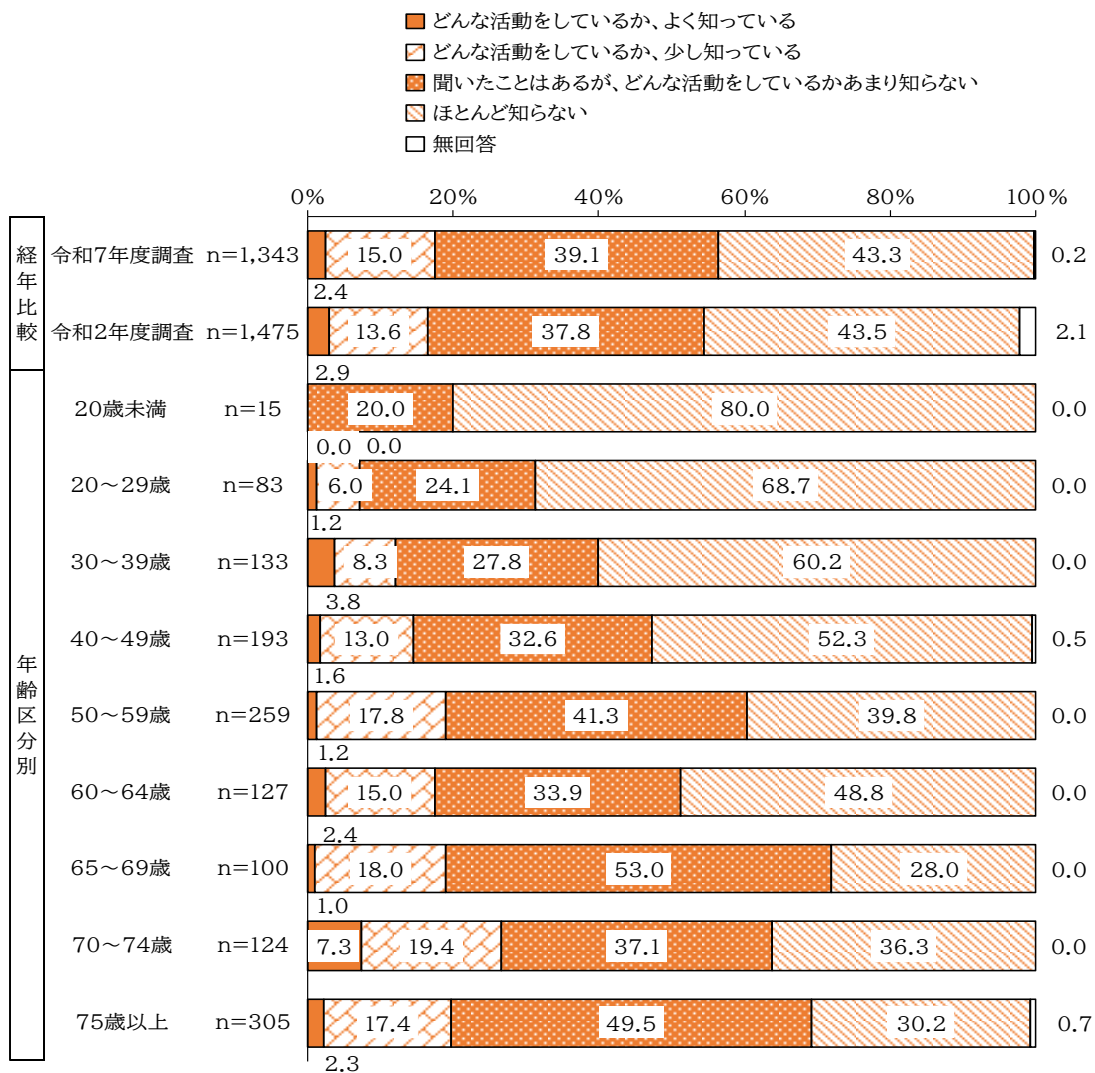
問 27 岡崎市社会福祉協議会を知っていますか。(1つの番号に○)

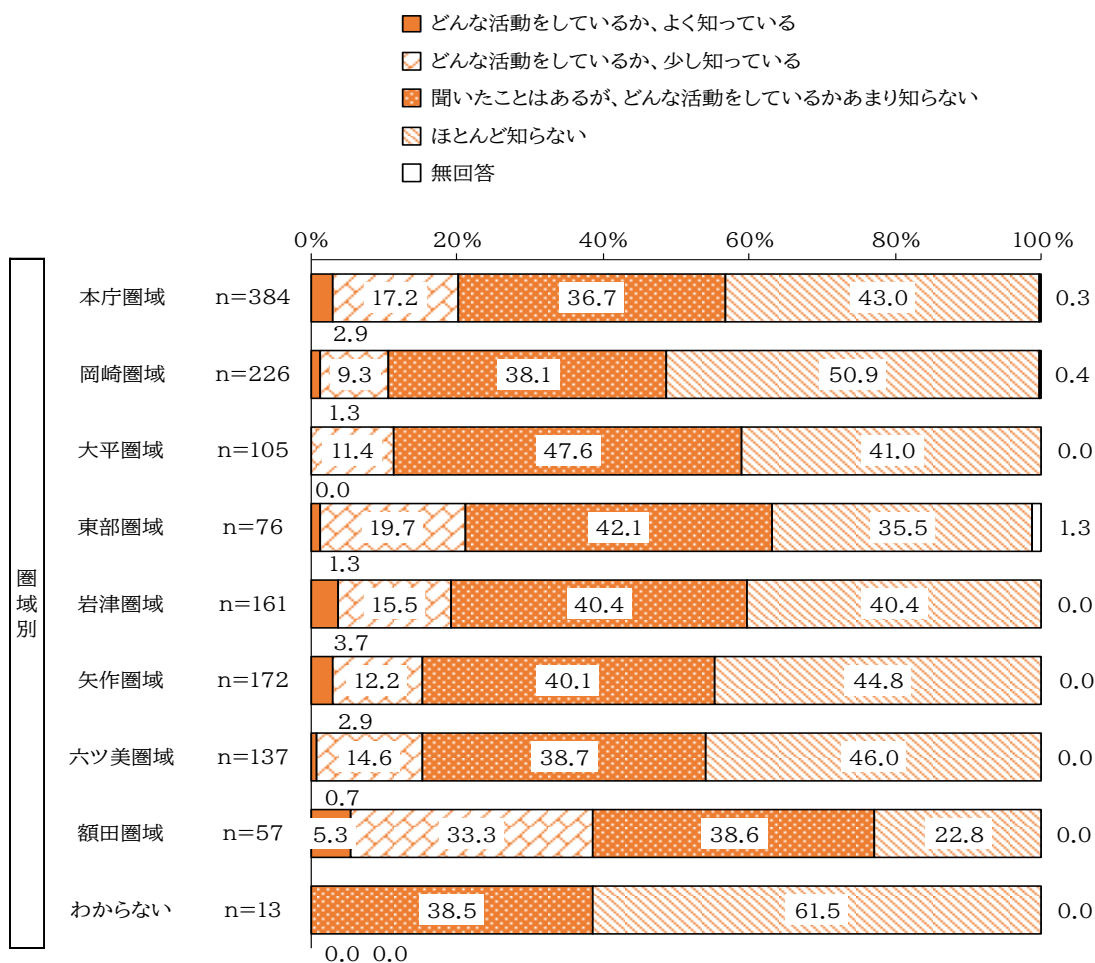
令和7年度調査では、『知っている』(「どんな活動をしているか、よく知っている」と「どんな活動をしているか、少し知っている」の計)が 17.4%、『知らない』(「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかあまり知らない」と「ほとんど知らない」の計)が 82.4%となっています。

経年比較では、大きな変化はみられません。

年齢区別では、70～74歳で『知っている』(26.7%)の割合が高くなっています。

圏域別では、本庁圏域、東部圏域、額田圏域で『知っている』(20.1%、21.0%、38.6%)の割合が高くなっています。





### Ⅲ 調査結果

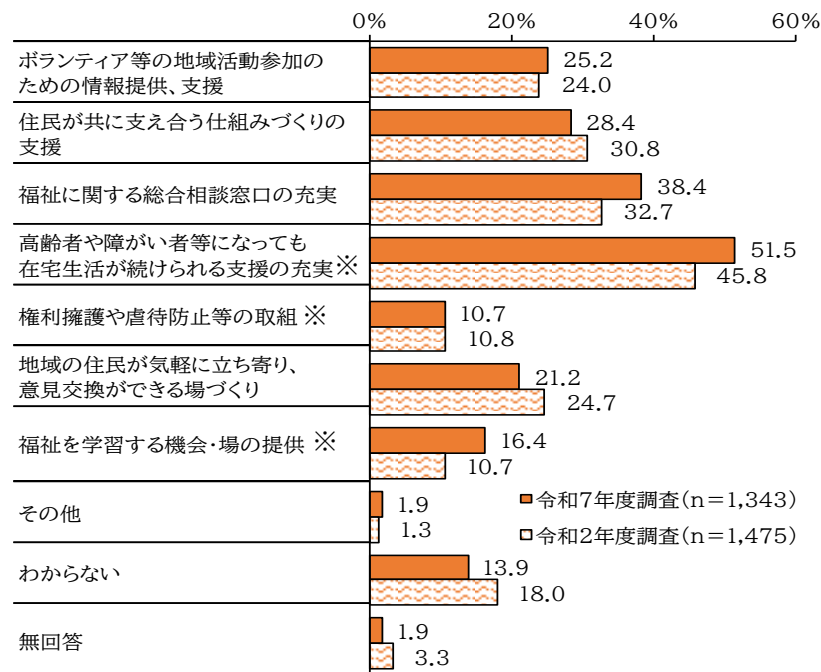
#### 問 28 今後、岡崎市社会福祉協議会に期待することはどんなことですか（3つまでの番号に○）

令和7年度調査では、「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実」が51.5%で最も高く、次いで「福祉に関する総合相談支援」が38.4%、「住民が共に支え合う仕組みづくりの支援」が28.4%となっています。

経年比較では、「福祉に関する総合相談窓口の充実」が令和7年度調査で38.4%と、令和2年度調査と比べて5.7ポイント、「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実」が令和7年度調査で51.5%と、令和2年度調査と比べて5.7ポイント、「福祉を学習する機会・場の提供」が令和7年度調査で16.4%と、令和2年度調査と比べて5.7ポイント高くなっています。

年齢区分別では、20歳未満を除くすべての年齢で「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実」の割合が最も高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実」の割合が最も高くなっています。



※選択肢について、令和7年度は「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実」「権利擁護や虐待防止等の取組」「福祉を学習する機会・場の提供」となっていますが、令和2年度調査は「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」「サービス利用者の権利擁護や苦情対応等の取り組み」「福祉問題を学習する機会、場の提供」となっています。

### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	活動参加のための情報提供、支援	ボランティア等の地域	住民が共に支え合う仕組みづくりの支援	福祉に関する総合相談支援	高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援の充実	権利擁護や虐待防止等の取組	地域の住民が気軽に立ち寄り、意見交換ができる場づくり	福祉を学習する機会・場の提供	その他	わからない	無回答
全体		1,343	25.2	28.4	38.4	51.5	10.7	21.2	16.4	1.9	13.9	1.9	
年齢区分別	20歳未満	15	40.0	33.3	20.0	20.0	40.0	13.3	26.7	0.0	26.7	0.0	
	20～29歳	83	26.5	26.5	36.1	48.2	25.3	13.3	22.9	3.6	14.5	0.0	
	30～39歳	133	18.8	33.1	38.3	41.4	18.8	18.0	18.8	1.5	17.3	0.8	
	40～49歳	193	34.7	27.5	33.7	47.2	14.0	16.1	20.7	2.6	13.5	2.1	
	50～59歳	259	29.7	24.3	46.7	53.7	12.7	15.1	19.3	1.5	12.7	0.8	
	60～64歳	127	30.7	26.8	47.2	48.0	4.7	19.7	15.7	0.8	11.8	0.0	
	65～69歳	100	28.0	33.0	36.0	55.0	6.0	28.0	15.0	2.0	11.0	1.0	
	70～74歳	124	18.5	29.0	40.3	57.3	7.3	29.0	13.7	1.6	12.1	2.4	
	75歳以上	305	17.0	29.5	32.5	57.0	3.6	28.9	9.5	2.0	15.7	4.6	
圏域別	本庁圏域	384	26.3	27.1	39.8	50.8	8.3	22.9	16.9	2.6	11.2	2.1	
	岡崎圏域	226	26.1	30.5	38.1	46.9	15.0	16.4	17.3	1.8	16.4	1.3	
	大平圏域	105	29.5	28.6	40.0	44.8	11.4	20.0	21.9	1.0	12.4	1.9	
	東部圏域	76	23.7	32.9	36.8	48.7	5.3	19.7	13.2	1.3	14.5	3.9	
	岩津圏域	161	21.7	22.4	39.1	57.8	14.9	18.0	13.0	3.1	15.5	1.2	
	矢作圏域	172	25.0	30.2	41.3	53.5	10.5	23.3	17.4	0.6	16.9	1.2	
	六ツ美圏域	137	28.5	32.8	35.0	50.4	9.5	26.3	17.5	2.2	12.4	0.7	
	額田圏域	57	21.1	26.3	31.6	63.2	5.3	26.3	10.5	0.0	12.3	3.5	
	わからない	13	0.0	23.1	30.8	76.9	23.1	15.4	0.0	0.0	23.1	0.0	

### Ⅲ 調査結果

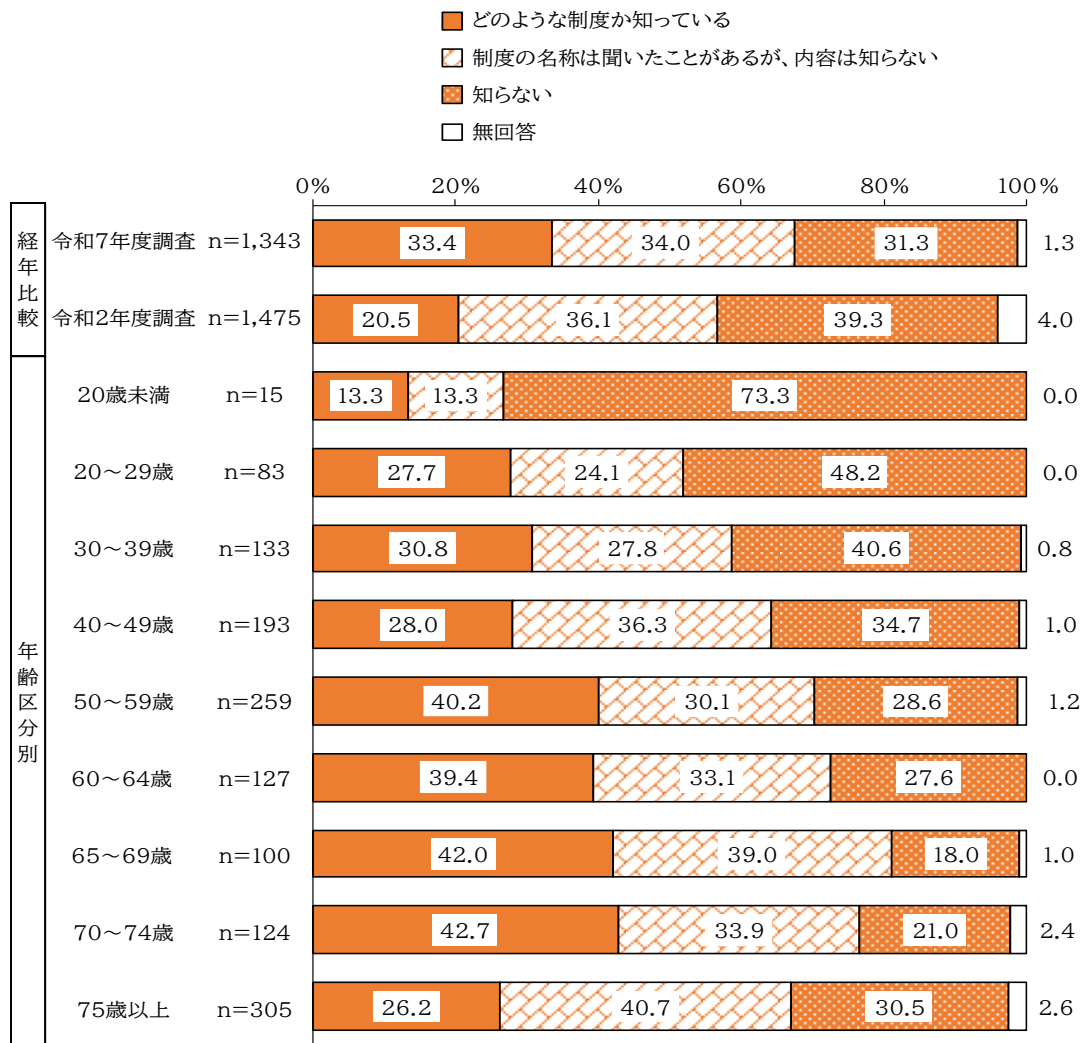
## 7 近年の福祉課題について

問 29 判断能力が不十分な高齢者や障がいのある人の権利を守る「成年後見制度」についておたずねします。成年後見制度を知っていますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」が34.0%で最も高く、次いで「どのような制度か知っている」が33.4%、「知らない」が31.3%となっています。

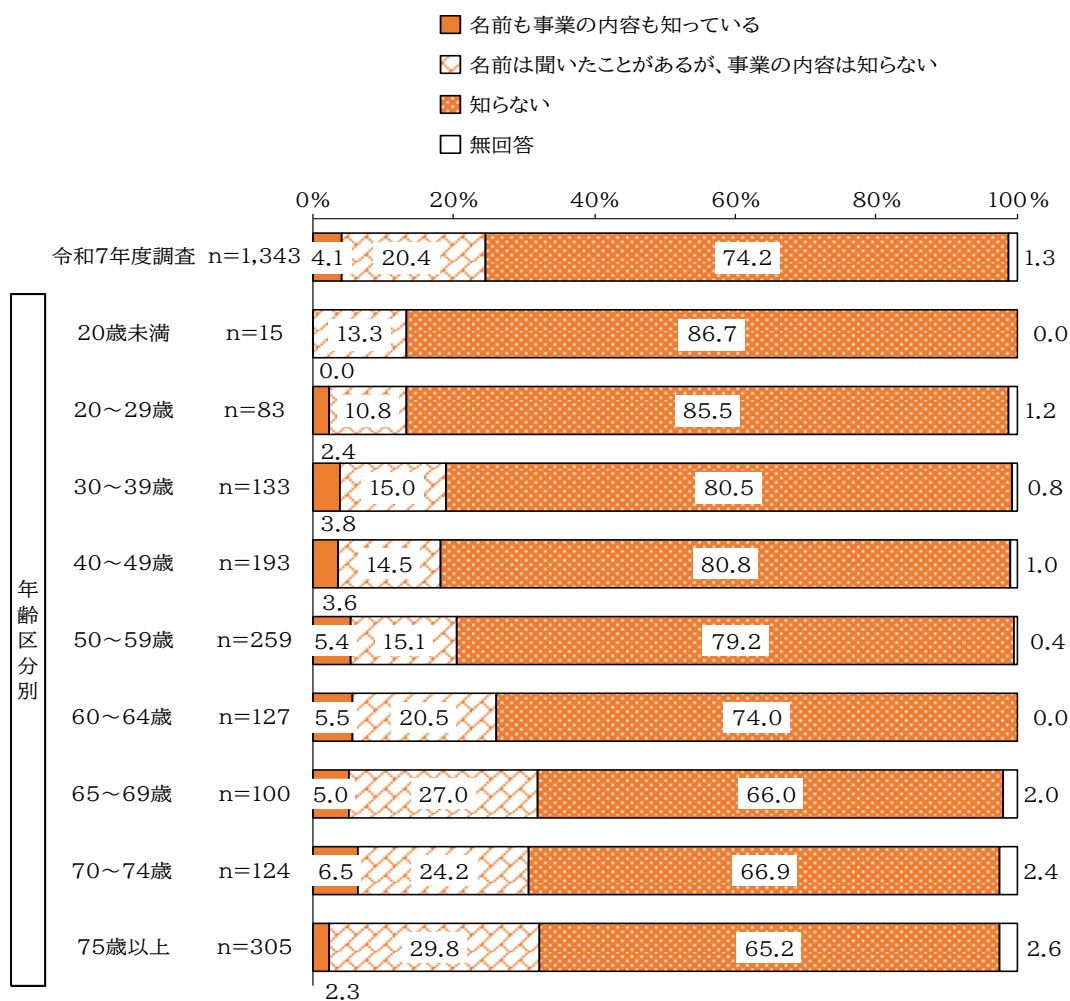
経年比較では、「どのような制度か知っている」が令和7年度調査で33.4%と、令和2年度調査と比べて12.9ポイント高くなっています。

年齢区分別では、50～59歳、65～69歳、70～74歳で「どのような制度か知っている」(40.2%、42.0%、42.7%)、75歳以上で「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」(40.7%)の割合が4割を超えて高くなっています。



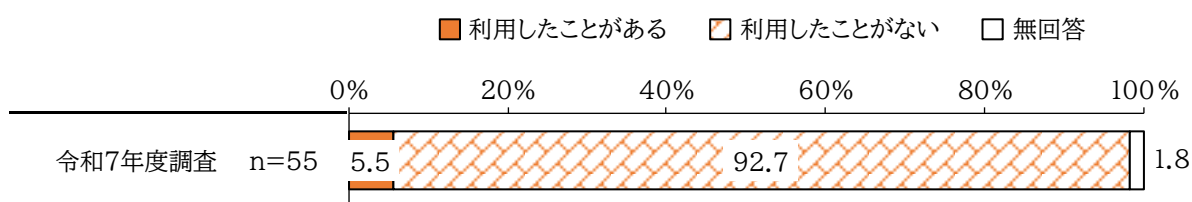
問 30 岡崎市では、市民の成年後見制度の利用に関する支援を行うために、「成年後見支援センター」を設置しています。あなたは、「成年後見支援センター」を知っていますか。  
(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「知らない」が 74.2%で最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、事業の内容は知らない」が 20.4%、「名前も事業の内容も知っている」が 4.1%となっています。  
年齢区分別では、年齢が低くなるにつれて「知らない」の割合が高い傾向がみられます。



<問 30 で「1. 名前も事業の内容も知っている」と回答した方にお聞きします>  
問 31 あなたは「成年後見支援センター」を利用したことがありますか。(どちらかの番号に○)

令和7年度調査では、「利用したことがある」が 5.5%、「利用したことがない」が 92.7%となっています。



### Ⅲ 調査結果

問 32 あなたの周りで財産の管理や契約等について、自分ひとりで判断することがむずかしい方がいた場合、どこに相談しますか。もしくは相談するよう伝えますか。

(あてはまるすべての番号に○)

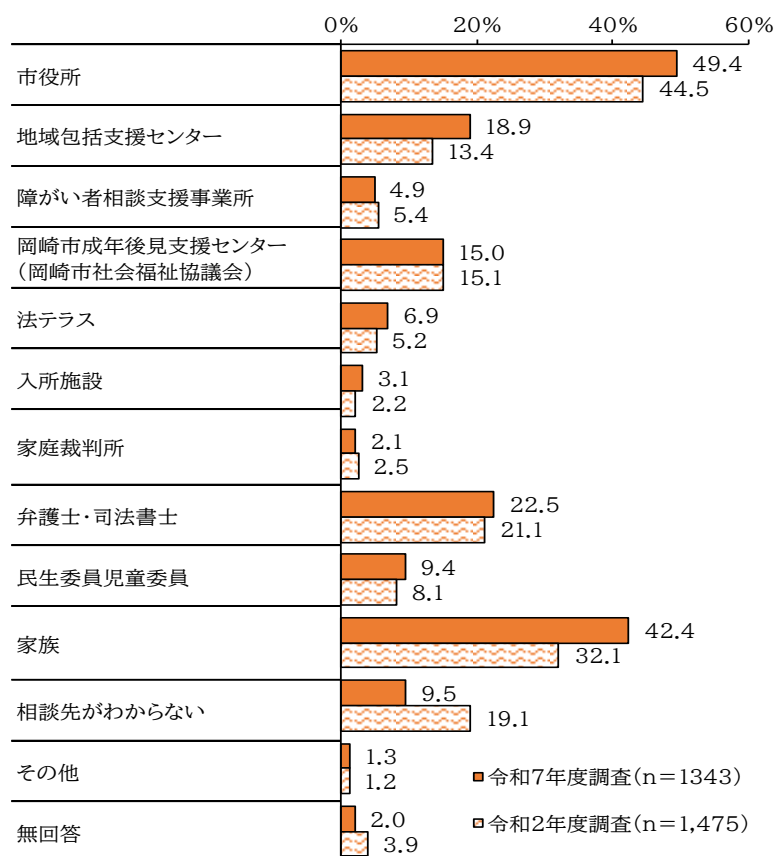
令和7年度調査では、「市役所」が49.4%で最も高く、次いで「家族」が42.4%、「弁護士・司法書士」が22.5%となっています。

経年比較では、「市役所」が令和7年度調査で49.4%と、令和2年度調査と比べて4.9ポイント、「地域包括支援センター」が令和7年度調査で18.9%と、令和2年度調査と比べて5.5ポイント、「家族」が令和7年度調査で42.4%と、令和2年度調査と比べて10.3ポイント高くなっています。また、「相談先がわからない」が令和7年度調査で9.5%と、令和2年度調査と比べて9.6ポイント低くなっています。

性別では、男性で「弁護士・司法書士」が28.6%と、女性と比べて11.1ポイント高くなっています。

年齢区分別では、65～69歳、70～74歳で「地域包括支援センター」(28.0%、29.0%)、20歳未満で「法テラス」(13.3%)、70～74歳で「民生委員児童委員」(23.4%)、20～29歳、75歳以上で「家族」(56.6%、52.8%)の割合が高くなっています。

圏域別では、東部圏域で「地域包括支援センター」(28.9%)、額田圏域で「民生委員児童委員」(19.3%)、「家族」(54.4%)の割合が高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

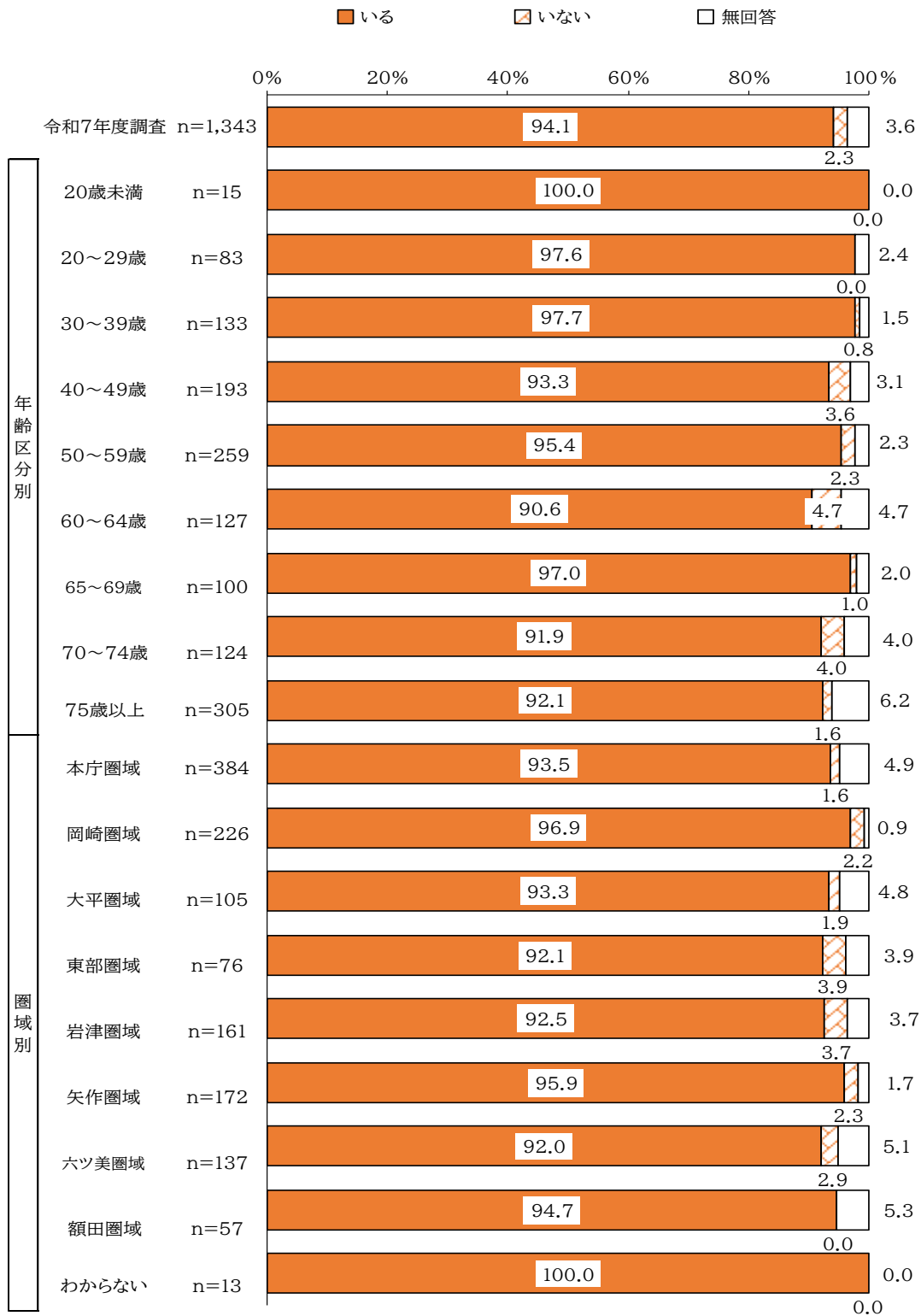
(単位：%)

区分		全体	市役所	地域包括支援センター	障がい者相談支援事業所	岡崎市成年後見支援センター (岡崎市社会福祉協議会)	法テラス	入所施設	家庭裁判所	弁護士・司法書士	民生委員児童委員	家族	相談先がわからない	その他	無回答
全体		1,343	49.4	18.9	4.9	15.0	6.9	3.1	2.1	22.5	9.4	42.4	9.5	1.3	2.0
性別	男性	591	50.1	14.9	4.9	12.4	9.0	3.0	3.0	28.6	10.0	38.1	8.8	1.5	1.7
	女性	748	48.8	22.2	4.8	17.1	5.1	3.2	1.3	17.5	9.0	46.0	10.0	1.1	2.3
年齢区別	20歳未満	15	53.3	6.7	0.0	6.7	13.3	6.7	6.7	0.0	0.0	46.7	13.3	0.0	0.0
	20～29歳	83	43.4	12.0	6.0	10.8	7.2	3.6	2.4	27.7	1.2	56.6	8.4	1.2	0.0
	30～39歳	133	53.4	10.5	3.8	9.0	6.0	6.0	1.5	22.6	2.3	43.6	12.0	1.5	0.8
	40～49歳	193	55.4	10.4	7.3	10.9	10.4	3.6	1.0	28.0	1.6	35.8	13.5	1.0	1.0
	50～59歳	259	51.4	21.6	4.6	15.4	9.3	1.9	2.7	29.3	5.4	36.3	10.8	1.5	1.2
	60～64歳	127	52.0	19.7	7.1	22.0	9.4	1.6	1.6	22.0	11.0	34.6	14.2	0.8	0.0
	65～69歳	100	52.0	28.0	4.0	19.0	7.0	4.0	3.0	25.0	13.0	41.0	4.0	1.0	3.0
	70～74歳	124	51.6	29.0	5.6	17.7	4.8	4.8	0.8	14.5	23.4	38.7	10.5	0.8	1.6
	75歳以上	305	40.3	20.7	3.0	16.1	2.0	2.0	2.6	15.4	16.1	52.8	4.3	1.6	5.2
圏域別	本庁圏域	384	51.3	17.2	5.5	16.1	5.7	1.3	2.3	22.4	9.4	41.1	8.3	1.8	2.6
	岡崎圏域	226	52.2	19.5	5.8	13.7	7.5	4.4	1.8	23.5	8.4	47.3	7.1	0.9	0.9
	大平圏域	105	38.1	15.2	1.0	11.4	8.6	2.9	2.9	23.8	4.8	42.9	17.1	1.9	0.0
	東部圏域	76	48.7	28.9	1.3	17.1	5.3	3.9	0.0	17.1	14.5	31.6	7.9	2.6	3.9
	岩津圏域	161	54.0	24.2	8.7	13.7	4.3	5.6	2.5	21.1	9.3	41.6	5.0	1.2	2.5
	矢作圏域	172	48.3	15.7	3.5	16.9	8.7	3.5	0.6	25.0	10.5	39.5	14.5	0.0	1.2
	六ツ美圏域	137	46.0	23.4	6.6	16.8	7.3	2.9	2.9	22.6	7.3	40.9	13.1	0.0	0.7
	額田圏域	57	49.1	14.0	0.0	12.3	10.5	3.5	3.5	17.5	19.3	54.4	5.3	3.5	5.3
	わからない	13	38.5	0.0	0.0	7.7	15.4	0.0	7.7	46.2	7.7	61.5	0.0	0.0	0.0

### Ⅲ 調査結果

問 33 病院に入院することになった場合などに、緊急連絡先になってくれる方はいますか。  
 (どちらかの番号に○)

令和7年度調査では、「いる」が94.1%、「いない」が2.3%となっています。  
 年齢区分別では、すべての年齢で「いる」の割合が9割を超えて高くなっています。  
 圏域別では、すべての圏域で「いる」の割合が9割を超えて高くなっています。



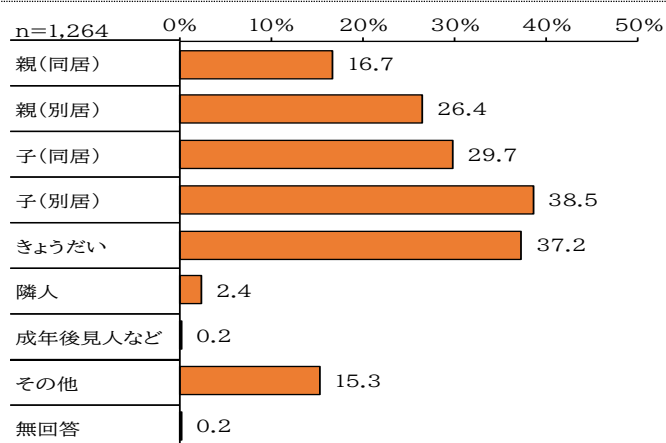
<問33で「1. いる」と回答した方にお聞きします>

問34 誰をお願いしますか。(あてはまるすべての番号に○)

令和7年度調査では、「子(別居)」が38.5%で最も高く、次いで「きょうだい」が37.2%、「子(同居)」が29.7%となっています。また、「その他」は、「配偶者(夫・妻)」が最も多くなっています。

年齢区分別では、20歳未満、20～29歳で「親(同居)」(100.0%、63.0%)、30～39歳、40～49歳で「親(別居)」(66.9%、63.3%)、50～59歳で「きょうだい」(47.4%)、60～64歳、65～69歳、70～74歳、75歳以上で「子(別居)」(52.2%、61.9%、70.2%、65.1%)の割合が最も高くなっています。

圏域別では、東部圏域、額田圏域で「子(別居)」(52.9%、57.4%)の割合が高くなっています。



(単位：%)

区分	全体	親(同居)	親(別居)	子(同居)	子(別居)	きょうだい	隣人	成年後見人など	その他	無回答
全体	1,264	16.7	26.4	29.7	38.5	37.2	2.4	0.2	15.3	0.2
年齢区分別	20歳未満	15	100.0	0.0	0.0	0.0	46.7	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	81	63.0	34.6	0.0	0.0	35.8	0.0	2.5	11.1
	30～39歳	130	26.9	66.9	5.4	0.0	50.8	0.0	0.0	24.6
	40～49歳	180	21.1	63.3	20.6	4.4	47.8	2.2	0.6	21.1
	50～59歳	247	20.6	36.8	41.7	37.7	47.4	1.2	0.0	17.0
	60～64歳	115	3.5	8.7	41.7	52.2	38.3	5.2	0.0	23.5
	65～69歳	97	7.2	2.1	34.0	61.9	29.9	1.0	0.0	17.5
	70～74歳	114	3.5	0.9	32.5	70.2	28.9	0.9	0.0	9.6
	75歳以上	281	2.1	0.0	39.1	65.1	20.3	5.3	0.0	6.4
圏域別	本庁圏域	359	17.3	27.3	29.8	37.9	36.8	1.7	0.3	14.8
	岡崎圏域	219	16.9	29.7	31.1	35.2	38.8	1.4	0.0	12.8
	大平圏域	98	13.3	26.5	23.5	40.8	38.8	2.0	1.0	13.3
	東部圏域	70	15.7	17.1	25.7	52.9	34.3	4.3	0.0	12.9
	岩津圏域	149	10.1	27.5	37.6	40.3	32.9	2.7	0.7	19.5
	矢作圏域	165	18.8	23.0	30.3	37.6	39.4	3.0	0.0	20.6
	六ツ美圏域	126	22.2	34.9	27.8	27.0	39.7	1.6	0.0	13.5
	額田圏域	54	24.1	7.4	27.8	57.4	31.5	7.4	0.0	16.7
	わからない	13	0.0	38.5	15.4	38.5	30.8	7.7	0.0	7.7

### Ⅲ 調査結果

#### 【その他の内訳】

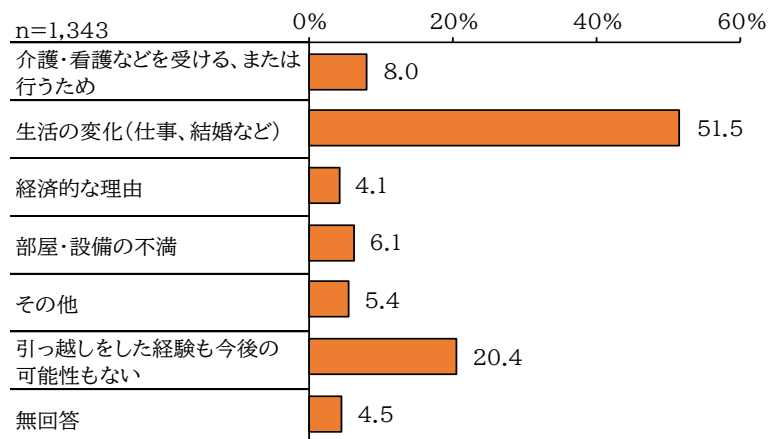
問34 その他	件数
配偶者（夫・妻）	155
友人・知人	8
親戚	7
甥	5
いとこ	3
おじ	2
職場の人	2
姪	2
息子の嫁	1
義父	1
義母	1
権利擁護団体	1
施設職員	1
ケアマネジャー	1
主人の親族	1
同居人	1
義姉	1
その他	4
無回答	4

問35 これまでに、引っ越しをした経験、または今後引っ越しをする可能性がある場合、その理由は何ですか。（1つの番号に○）

令和7年度調査では、「生活の変化(仕事、結婚など)」が 51.5%で最も高く、次いで「引っ越しをした経験も今後の可能性もない」が 20.4%、「介護・看護などを受ける、または行うため」が 8.0%となっています。

年齢区分別では、20～29歳、30～39歳、40～49歳で「生活の変化(仕事、結婚など)」(74.7%、78.9%、77.2%)の割合が7割を超えて高くなっています。

圏域別では、額田圏域を除くすべての圏域で「生活の変化(仕事、結婚など)」の割合が最も高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	介護・看護などを受ける、 または行うため	生活の変化 (仕事、結婚など)	経済的な理由	部屋・設備の不满	その他	引越しをした経験も今後の 可能性もない	無回答
全体		1,343	8.0	51.5	4.1	6.1	5.4	20.4	4.5
年齢 区分 別	20歳未満	15	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	20～29歳	83	0.0	74.7	2.4	6.0	4.8	12.0	0.0
	30～39歳	133	3.8	78.9	2.3	2.3	2.3	9.0	1.5
	40～49歳	193	4.1	77.2	1.6	4.1	4.1	7.3	1.6
	50～59歳	259	5.8	62.9	4.6	8.1	4.2	12.7	1.5
	60～64歳	127	8.7	54.3	6.3	10.2	4.7	15.7	0.0
	65～69歳	100	11.0	33.0	7.0	5.0	6.0	33.0	5.0
	70～74歳	124	12.1	32.3	4.8	9.7	6.5	30.6	4.0
	75歳以上	305	13.8	20.0	4.3	4.6	8.9	35.4	13.1
圏 域 別	本庁圏域	384	7.6	56.0	2.3	7.0	5.2	16.9	4.9
	岡崎圏域	226	8.8	54.0	4.9	6.2	4.9	16.8	4.4
	大平圏域	105	10.5	58.1	1.9	3.8	6.7	19.0	0.0
	東部圏域	76	6.6	40.8	1.3	3.9	7.9	32.9	6.6
	岩津圏域	161	6.2	42.9	3.7	7.5	8.1	25.5	6.2
	矢作圏域	172	8.7	55.2	7.6	5.2	2.3	18.0	2.9
	六ツ美圏域	137	7.3	51.8	6.6	6.6	2.9	21.2	3.6
	額田圏域	57	8.8	33.3	1.8	0.0	10.5	38.6	7.0
	わからない	13	7.7	46.2	15.4	15.4	0.0	7.7	7.7

### Ⅲ 調査結果

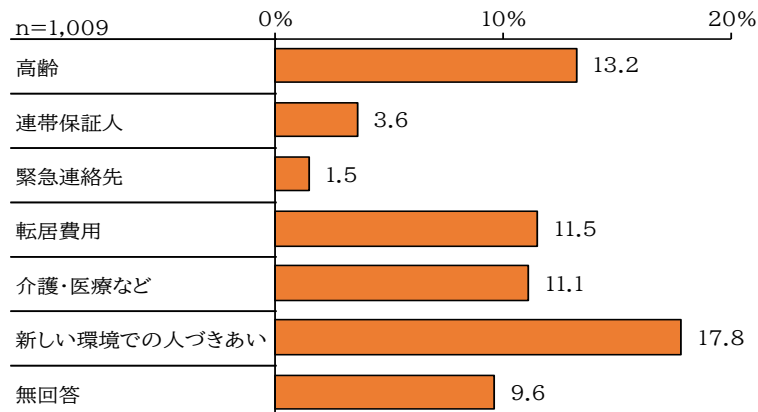
<問 35 で「1. 介護・看護などを受ける、または行うため」から「5. その他」のいずれか回答した方にお聞きします>

問 36 どのような不安がありましたか（ありますか）。（あてはまるすべての番号に○）

令和7年度調査では、「新しい環境での人づきあい」が17.8%で最も高く、次いで「高齢」が13.2%、「転居費用」が11.5%となっています。

年齢区分別では、70～74歳、75歳以上で「高齢」（27.2%、33.1%）の割合が高くなっています。

圏域別では、「新しい環境での人づきあい」が多くの圏域で割合が高くなっています。



(単位：%)

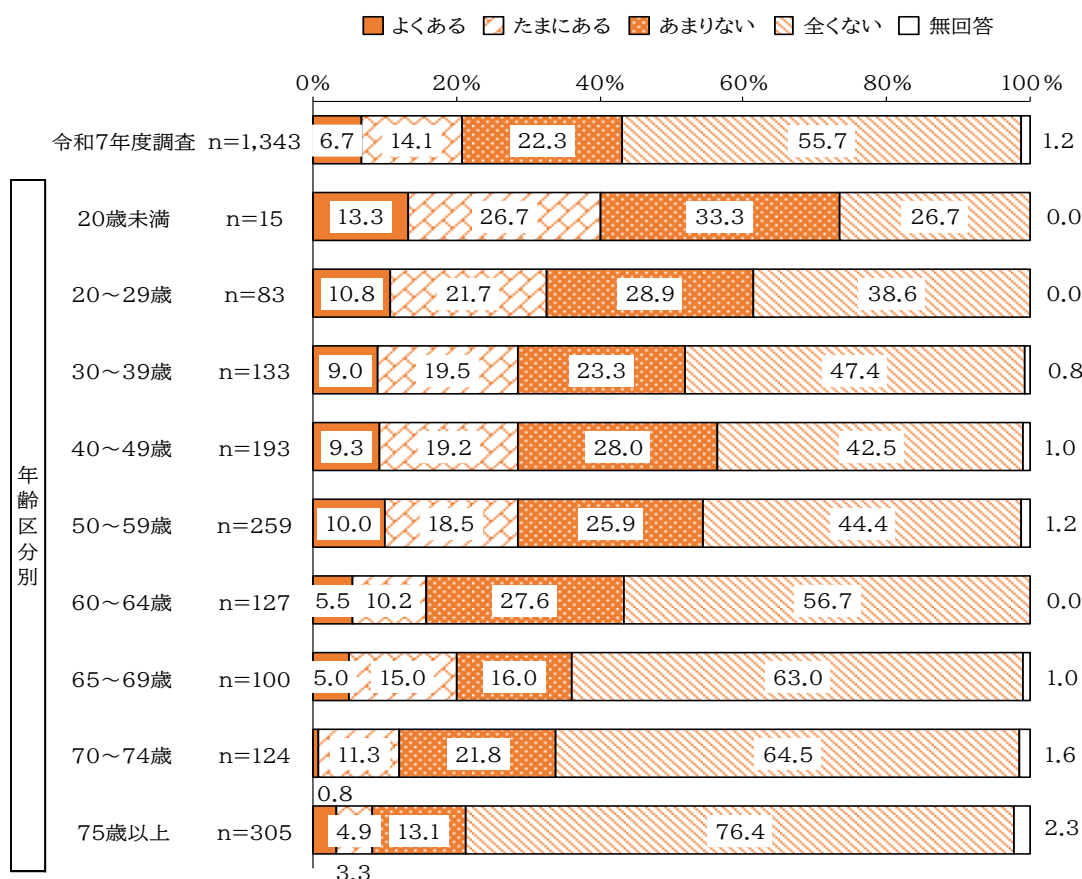
区分	全体	高齢	連帯保証人	緊急連絡先	転居費用	介護・医療など	新しい環境での人づきあい	不安はない	無回答	
全体	1,009	13.2	3.6	1.5	11.5	11.1	17.8	9.6	55.0	
年齢区分別	20歳未満	9	0.0	0.0	11.1	33.3	0.0	33.3	11.1	55.6
	20～29歳	73	1.4	1.4	0.0	20.5	4.1	20.5	9.6	61.6
	30～39歳	119	4.2	3.4	0.8	17.6	5.0	19.3	6.7	61.3
	40～49歳	176	4.5	2.8	1.1	11.4	5.7	18.2	8.5	65.3
	50～59歳	222	7.7	2.3	1.4	10.4	9.9	16.2	7.7	63.1
	60～64歳	107	15.0	6.5	0.0	11.2	14.0	16.8	8.4	54.2
	65～69歳	62	17.7	4.8	1.6	4.8	9.7	11.3	17.7	50.0
	70～74歳	81	27.2	7.4	2.5	14.8	16.0	16.0	4.9	46.9
	75歳以上	157	33.1	3.2	3.2	4.5	23.6	21.0	15.9	30.6
圏域別	本庁圏域	300	11.7	4.3	1.7	10.3	8.7	18.7	11.3	55.7
	岡崎圏域	178	9.6	0.6	1.1	12.9	12.9	14.6	10.7	57.3
	大平圏域	85	11.8	5.9	1.2	17.6	10.6	22.4	7.1	48.2
	東部圏域	46	15.2	4.3	0.0	4.3	10.9	6.5	13.0	60.9
	岩津圏域	110	16.4	4.5	0.0	7.3	9.1	22.7	7.3	55.5
	矢作圏域	136	13.2	4.4	1.5	8.8	15.4	16.9	8.1	57.4
	六ツ美圏域	103	17.5	1.9	2.9	19.4	10.7	20.4	6.8	51.5
	額田圏域	31	25.8	6.5	6.5	6.5	16.1	9.7	12.9	51.6
	わからない	11	0.0	0.0	0.0	27.3	9.1	36.4	9.1	36.4

問 37 あなたは、普段の生活で外国人と交流する機会はどのくらいありますか。(1つの番号に○)

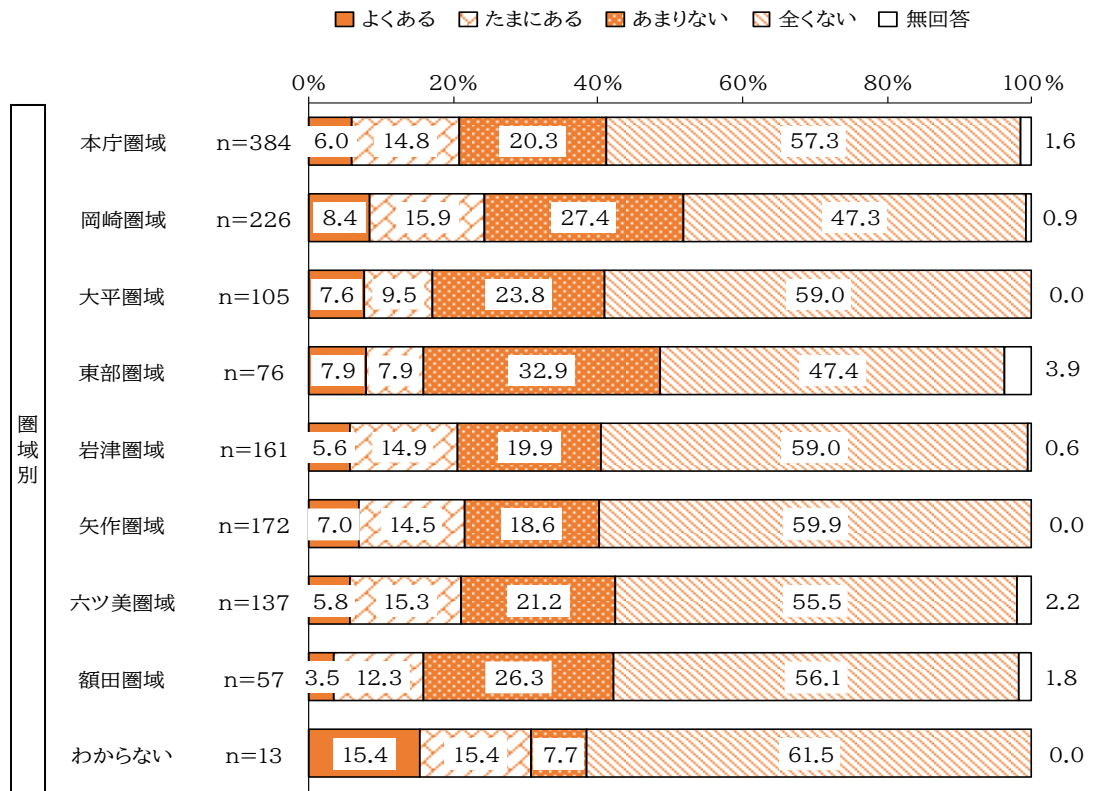
令和7年度調査では、『ある』(「よくある」と「たまにある」の計)が 20.8%、『ない』(「あまりない」と「全くない」の計)が 78.0%となっています。

年齢区分別では、60～64歳、70～74歳、75歳以上で『ない』(84.3%、86.3%、89.5%)の割合が8割を超えて高くなっています。

圏域別では、本庁圏域、岡崎圏域、岩津圏域、矢作圏域、六ツ美圏域で『ある』(20.8%、24.3%、20.5%、21.5%、21.1%)の割合が高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

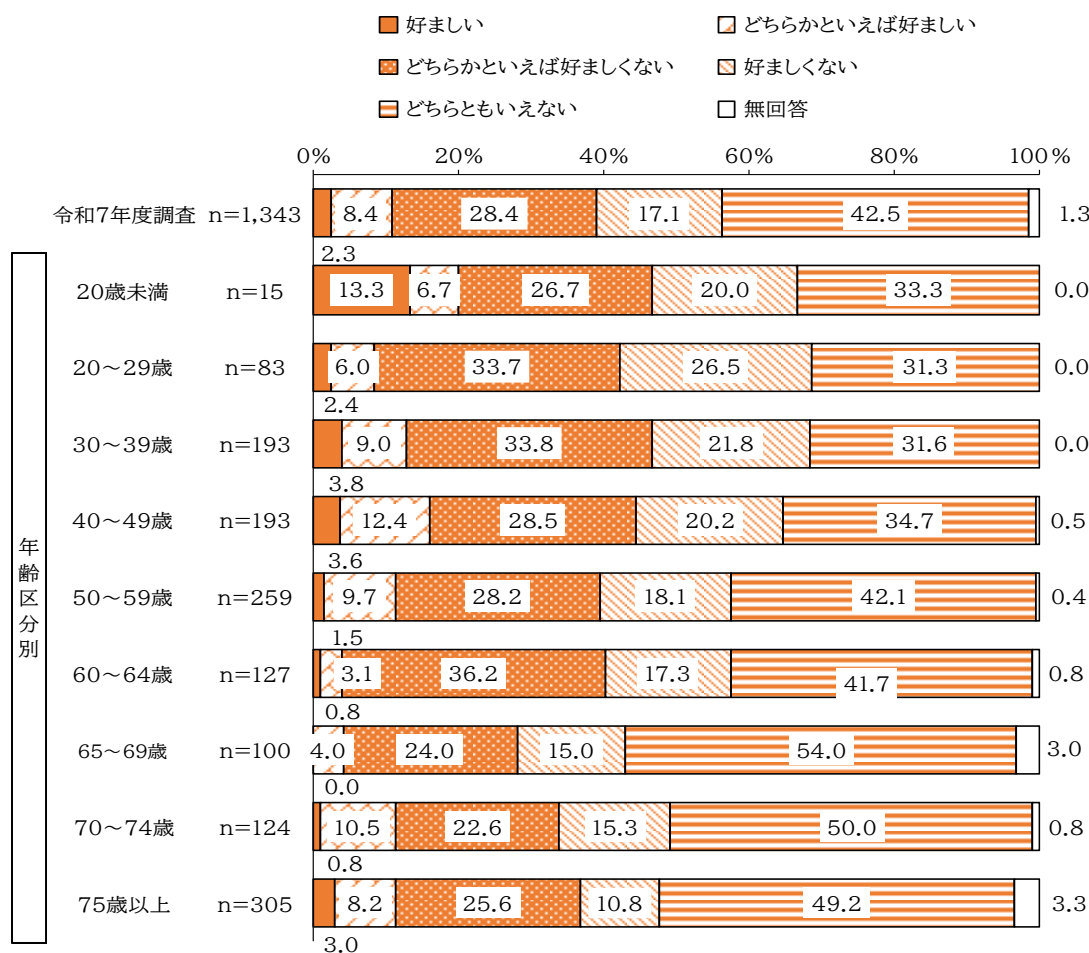


問 38 あなたのお住まいの地域に外国人が増えることについて、どう思いますか。  
 (1つの番号に○)

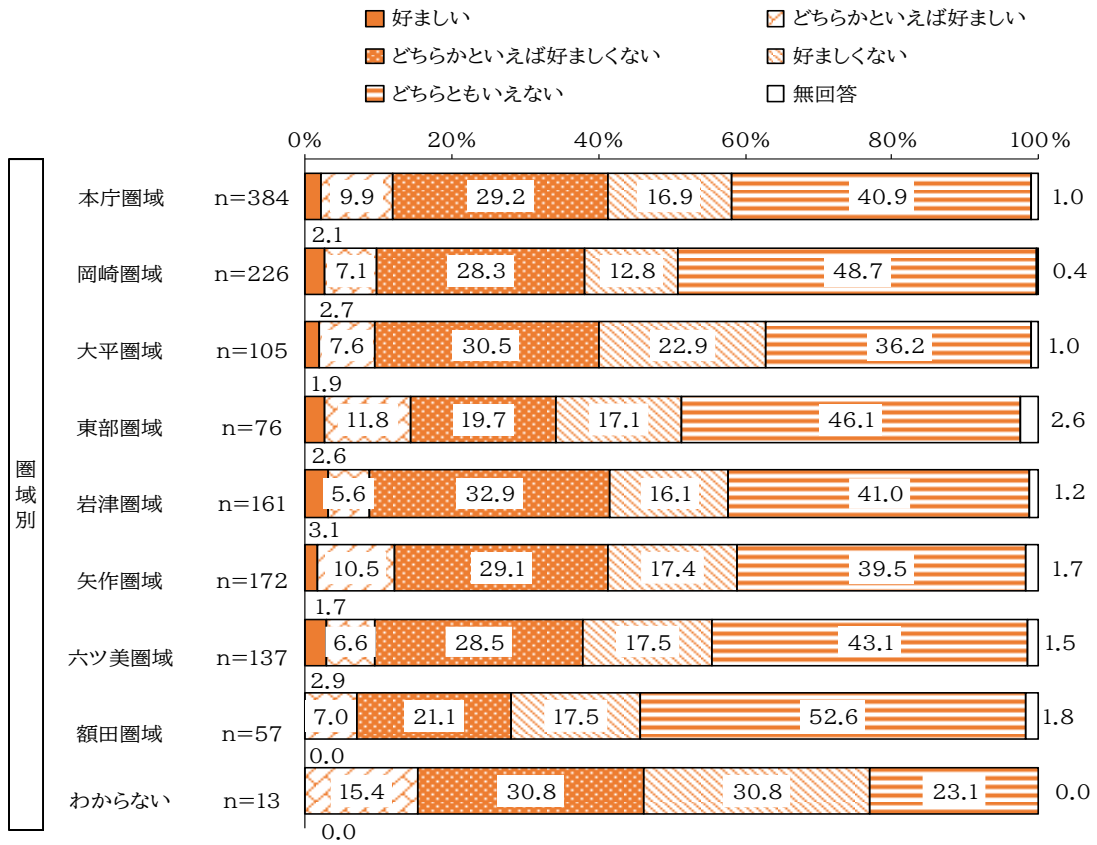
令和7年度調査では、『好ましくない』(「どちらかといえば好ましくない」と「好ましくない」の計)が45.5%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が42.5%、『好ましい』(「好ましい」と「どちらかといえば好ましい」の計)が10.7%となっています。

年齢区分別では、40～49歳で『好ましい』(16.0%)の割合が高く、20～29歳で『好ましくない』(60.2%)の割合が高くなっています。

圏域別では、本庁圏域、東部圏域、矢作圏域で『好ましい』(12.0%、14.4%、12.2%)の割合が高くなっています。



### Ⅲ 調査結果



問39 あなたは、孤独であると感じることがありますか。(1つの番号に○)

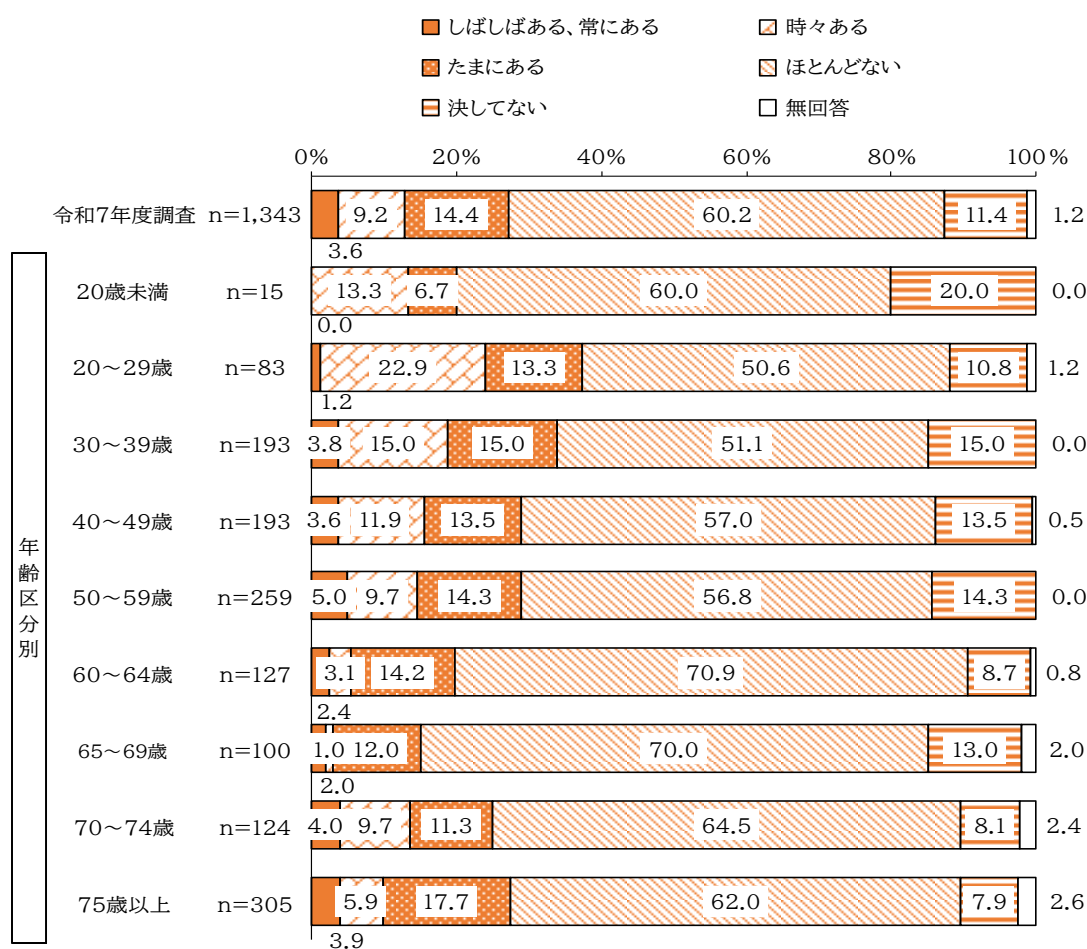
令和7年度調査では、『ある』(「しばしばある、常にある」と「時々ある」と「たまにある」の計)が27.2%、『ない』(「ほとんどない」と「決してない」の計)が71.6%となっています。

年齢区分別では、20～29歳、30～39歳で『ある』(37.4%、33.8%)の割合が3割を超えて高くなっています。

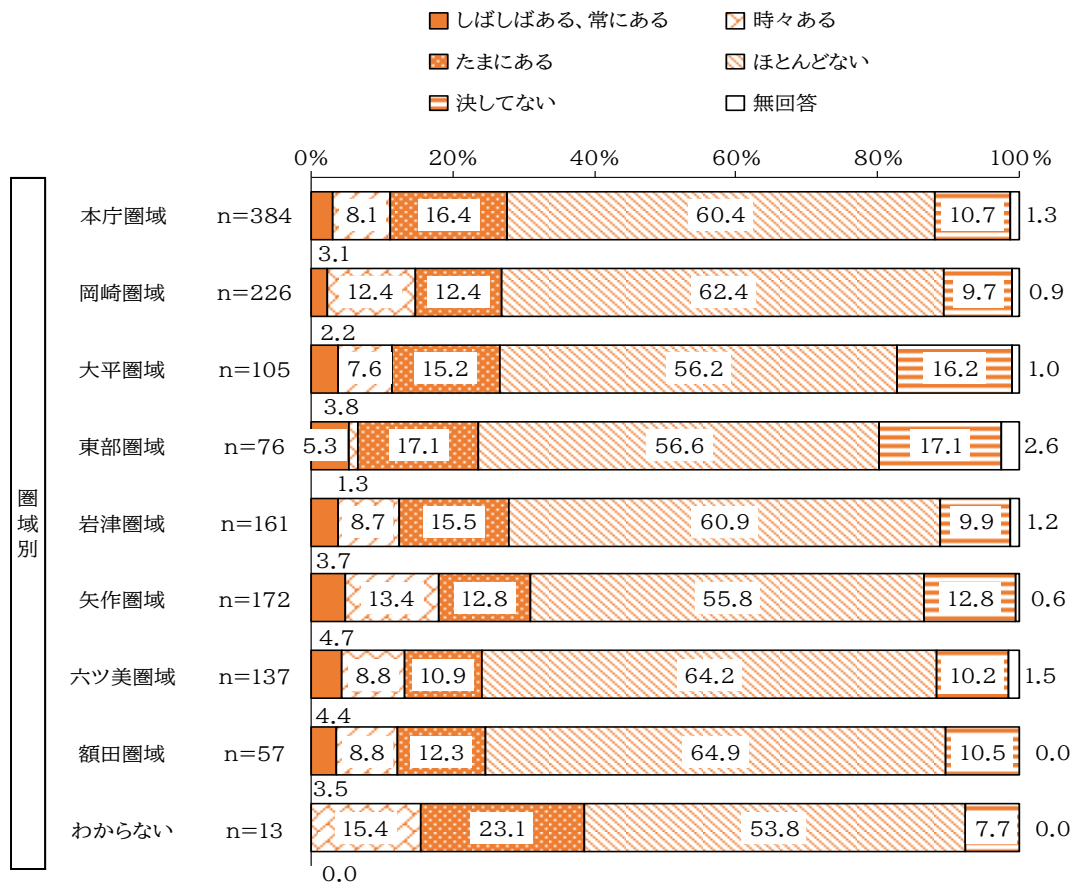
圏域別では、矢作圏域で『ある』(30.9%)の割合が高くなっています。

問39(孤独であると感じること)と問41(現在の心身の健康状態)の設問間クロス集計では、「しばしばある、常にある」で「あまりよくない」(35.4%)の割合が高くなっています。

問39(孤独であると感じること)と問42(現在の生活の満足度)の設問間クロス集計では、「しばしばある、常にある」で「不満である」(47.9%)の割合が高くなっています。



### Ⅲ 調査結果



### 【問39 孤独であると感じること×問41 現在の心身の健康状態】

(単位：%)

区分	全体	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答	
全体	1,343	19.1	23.3	39.5	14.5	2.7	0.9	
問39	しばしばある、常にある	48	4.2	6.3	25.0	35.4	29.2	0.0
	時々ある	124	5.6	24.2	37.1	29.0	4.0	0.0
	たまにある	194	7.7	17.5	46.9	24.2	3.1	0.5
	ほとんどない	808	19.3	26.5	42.6	10.3	1.1	0.2
	決してない	153	49.7	20.3	22.2	7.2	0.7	0.0

【問39 孤独であると感じること×問42 現在の生活の満足度】

(単位：%)

区分		全体	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	どちらともいえない	無回答
全体		1,343	18.2	59.4	10.5	4.2	6.8	1.0
問39	しばしばある、常にある	48	4.2	22.9	18.8	47.9	4.2	2.1
	時々ある	124	4.0	55.6	19.4	10.5	10.5	0.0
	たまにある	194	7.2	57.2	19.1	5.2	11.3	0.0
	ほとんどない	808	20.0	65.0	7.5	0.9	6.3	0.2
	決してない	153	39.9	51.6	4.6	2.0	2.0	0.0

<問39で「1. しばしばある、常にある」「2. 時々ある」「3. たまにある」と回答した方にお聞きします>

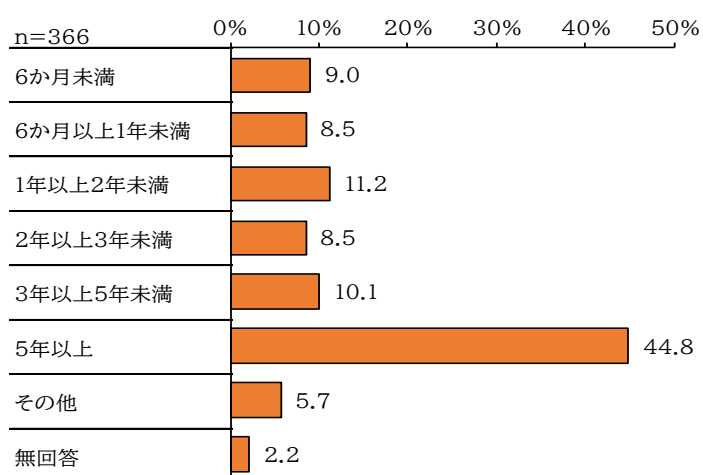
問40 その状況は、どの程度前から続いていますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、「5年以上」が44.8%で最も高く、次いで「1年以上2年未満」が11.2%、「3年以上5年未満」が10.1%となっています。

性別では、男性で「5年以上」が54.6%と、女性と比べて15.9ポイント高くなっています。

年齢区分別では、20歳未満を除くすべての年齢で「5年以上」の割合が最も高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で「5年以上」の割合が最も高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

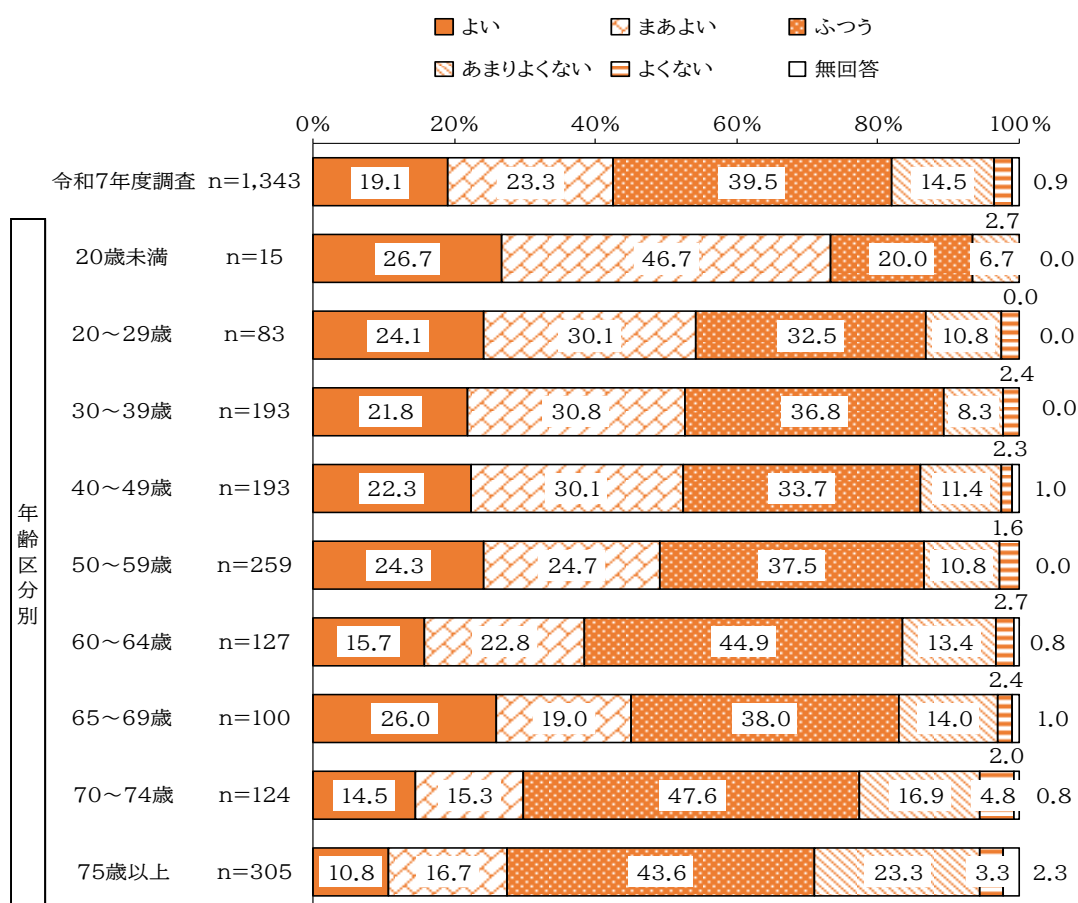
区分		全体	6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	その他	無回答
全体		366	9.0	8.5	11.2	8.5	10.1	44.8	5.7	2.2
性別	男性	141	10.6	4.3	8.5	5.0	11.3	54.6	2.8	2.8
	女性	225	8.0	11.1	12.9	10.7	9.3	38.7	7.6	1.8
年齢区分別	20歳未満	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	31	9.7	6.5	12.9	12.9	9.7	35.5	12.9	0.0
	30～39歳	45	11.1	4.4	6.7	8.9	13.3	51.1	4.4	0.0
	40～49歳	56	5.4	3.6	7.1	8.9	12.5	58.9	3.6	0.0
	50～59歳	75	10.7	8.0	9.3	8.0	5.3	54.7	1.3	2.7
	60～64歳	25	8.0	12.0	8.0	0.0	4.0	56.0	8.0	4.0
	65～69歳	15	6.7	0.0	20.0	0.0	13.3	53.3	6.7	0.0
	70～74歳	31	16.1	3.2	16.1	9.7	6.5	45.2	3.2	0.0
75歳以上	84	7.1	17.9	13.1	10.7	13.1	22.6	9.5	6.0	
圏域別	本庁圏域	106	7.5	10.4	6.6	7.5	14.2	46.2	4.7	2.8
	岡崎圏域	61	6.6	8.2	16.4	9.8	11.5	36.1	11.5	0.0
	大平圏域	28	17.9	10.7	7.1	3.6	7.1	46.4	7.1	0.0
	東部圏域	18	11.1	0.0	5.6	0.0	16.7	50.0	11.1	5.6
	岩津圏域	45	6.7	11.1	17.8	6.7	4.4	42.2	6.7	4.4
	矢作圏域	53	5.7	7.5	9.4	9.4	9.4	52.8	1.9	3.8
	六ツ美圏域	33	15.2	3.0	12.1	12.1	6.1	48.5	3.0	0.0
	額田圏域	14	21.4	7.1	21.4	21.4	0.0	28.6	0.0	0.0
	わからない	5	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0

問 41 あなたの現在の心身の健康状態をお答えください。(1つの番号に○)

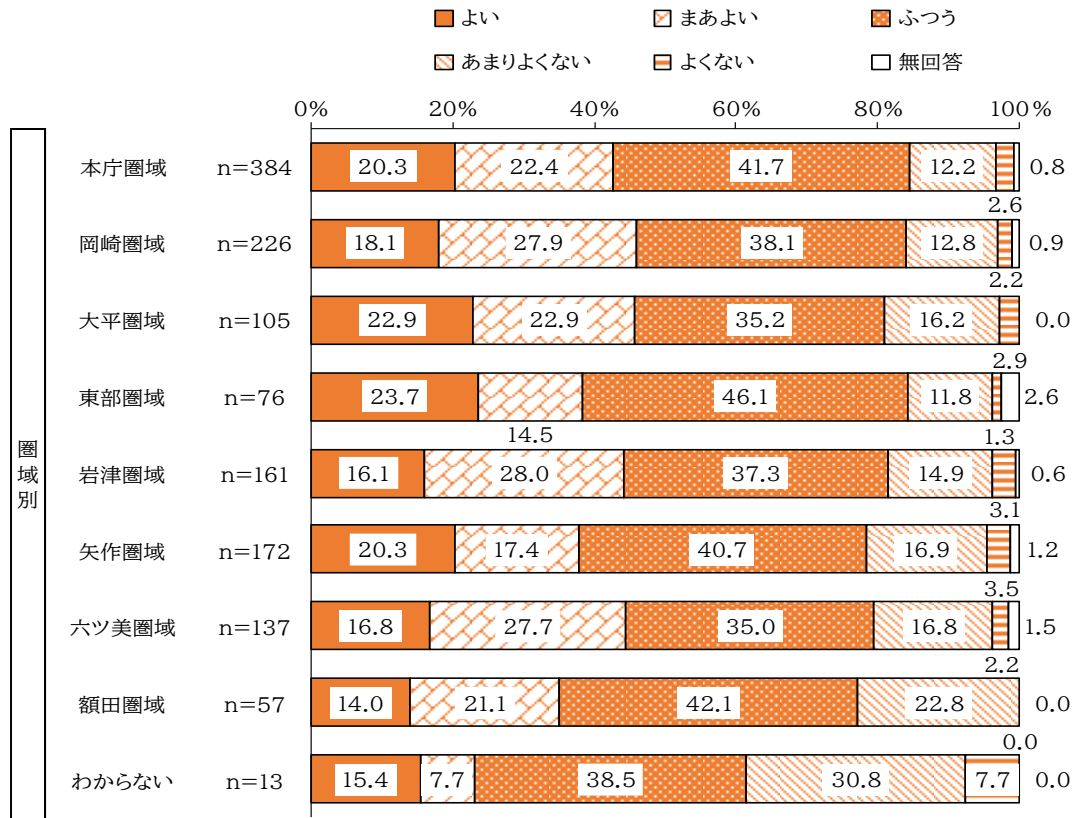
令和7年度調査では、『よい』(「よい」と「まあよい」の計)が 42.4%で最も高く、次いで「ふつう」が 39.5%、『よくない』(「あまりよくない」と「よくない」の計)が 17.2%となっています。

年齢区分別では、70～74 歳、75 歳以上で『よい』(29.8%、27.5%)の割合が低くなっています。

圏域別では、本庁圏域、岡崎圏域、大平圏域、岩津圏域、六ツ美圏域で『よい』(42.7%、46.0%、45.8%、44.1%、44.5%)の割合が4割を超えて高くなっています。



### Ⅲ 調査結果



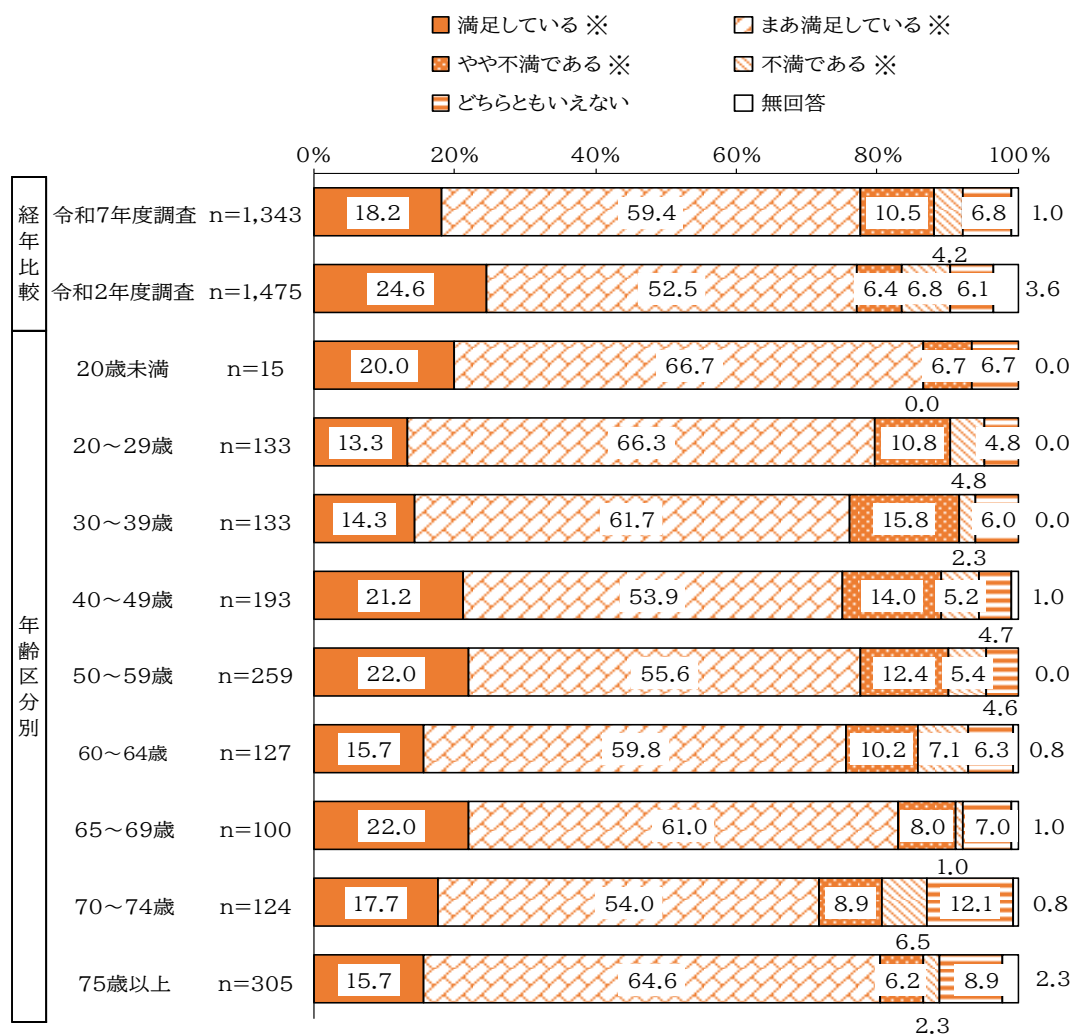
問 42 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、『満足している』(「満足している」と「まあ満足している」の計)が 77.6%、『不満である』(「やや不満である」と「不満である」の計)が 14.7%となっています。

経年比較では、大きな変化はみられません。

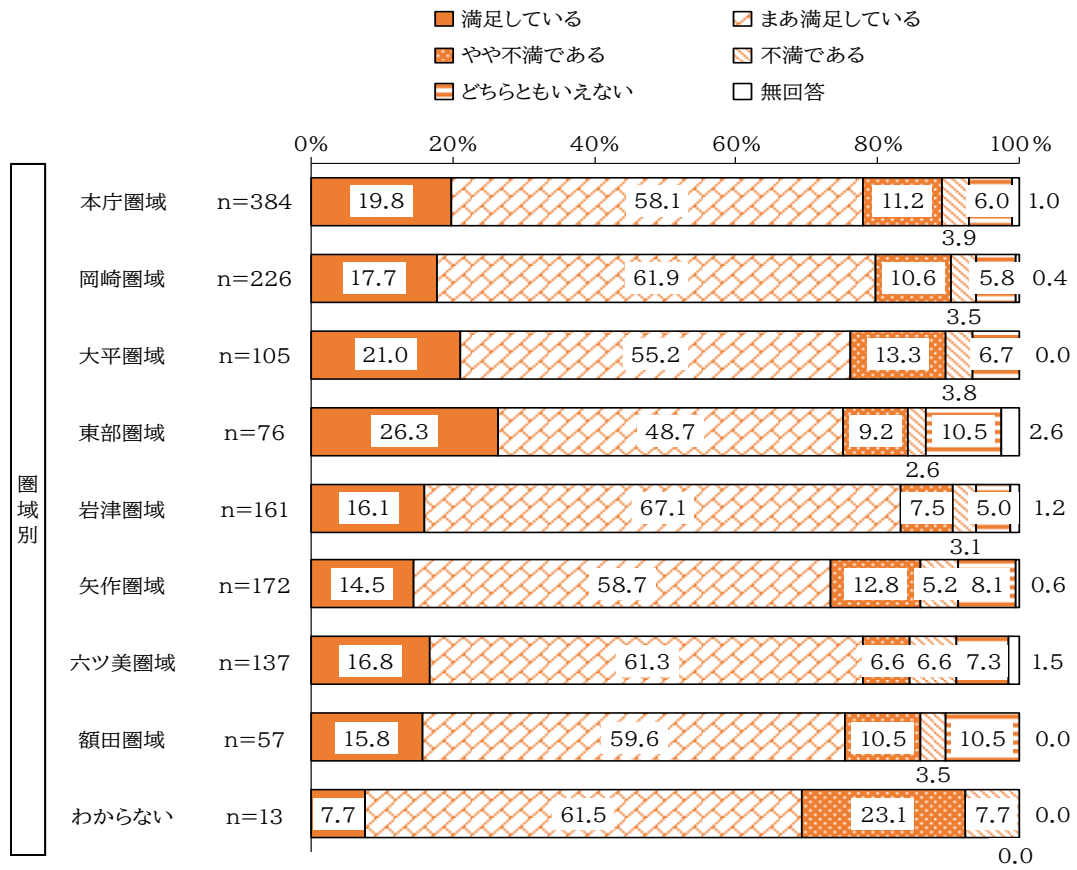
年齢区分別では、すべての年齢で『満足している』の割合が7割を超えています。

圏域別では、岩津圏域で『満足している』(83.2%)の割合が8割を超えて高くなっています。



※選択肢について、令和7年度は「満足している」「まあ満足している」「やや不満である」「不満である」となっていますが、令和2年度調査は「満足している」「どちらかといえば満足している」「満足していない」「どちらかといえば満足していない」となっています。

### Ⅲ 調査結果



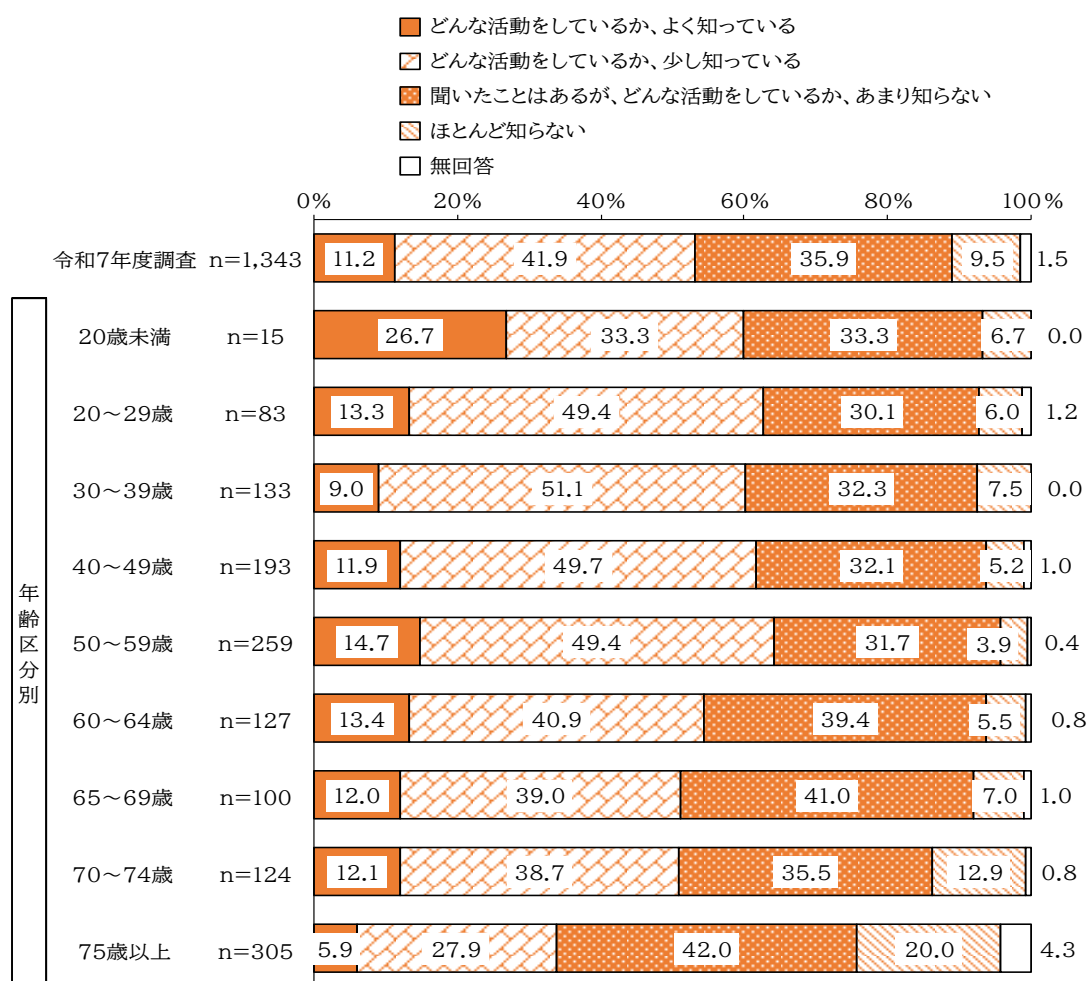
## 8 地域福祉全般について

問 43 あなたは、子ども食堂を知っていますか。(1つの番号に○)

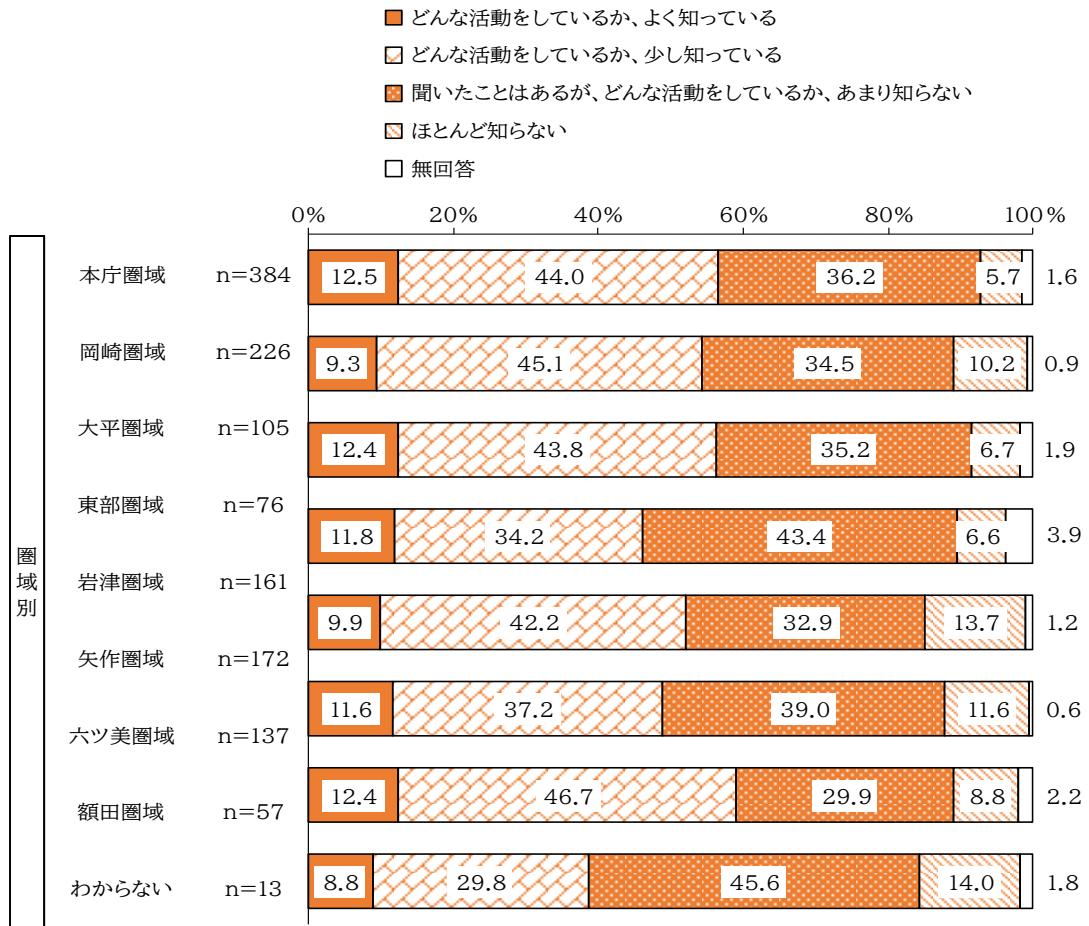
令和7年度調査では、『知っている』(「どんな活動をしているか、よく知っている」と「どんな活動をしているか、少し知っている」の計)が53.1%、『知らない』(「聞いたことはあるが、どんな活動をしているか、あまり知らない」と「ほとんど知らない」の計)が45.4%となっています。

年齢区別では、75歳以上を除くすべての年齢で『知っている』の割合が5割を超えて高くなっています。

圏域別では、本庁圏域、岡崎圏域、大平圏域、岩津圏域、六ツ美圏域で『知っている』(56.5%、54.4%、56.2%、52.1%、59.1%)の割合が5割を超えて高くなっています。



### Ⅲ 調査結果



<問43で「1. どのような活動をしているか、よく知っている」「2. どのような活動をしているか、少し知っている」と回答した方にお聞きします>

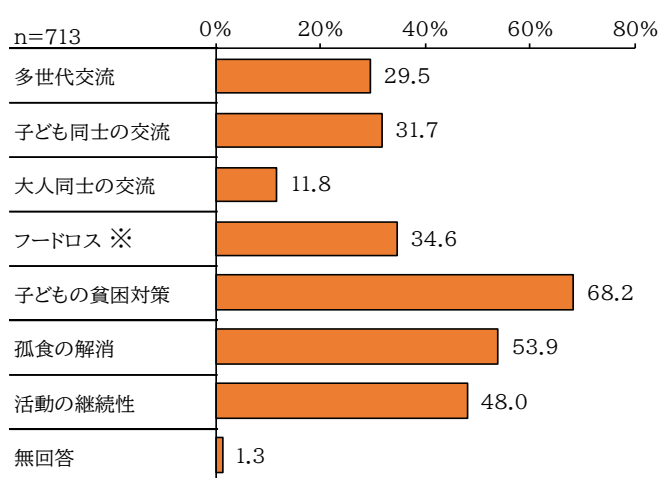
問44 活動をしている人に、何を期待しますか。(あてはまるすべての番号に○)

令和7年度調査では、「子どもの貧困対策」が 68.2%で最も高く、次いで「孤食の解消」が 53.9%、「活動の継続性」が 48.0%となっています。

性別では、女性で「多世代交流」が 33.5%と、男性と比べて 9.8 ポイント、女性で「孤食の解消」が 58.3%と、男性と比べて 10.9 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、60～64 歳で「多世代交流」(40.0%)、20～29 歳で「フードロス」(48.1%)、40～49 歳で「子どもの貧困対策」(78.2%)、60～64 歳、65～69 歳で「活動の継続性」(60.9%、70.6%)の割合が高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で「子どもの貧困対策」の割合が最も高くなっています。



※選択肢について、「フードロス」は「フードロスの対策」を示しています。  
 フードロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。

### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	多世代交流	子ども同士の交流	大人同士の交流	フードロス	子どもの貧困対策	孤食の解消	活動の継続性	無回答
全体		713	29.5	31.7	11.8	34.6	68.2	53.9	48.0	1.3
性別	男性	287	23.7	34.5	9.8	36.6	65.9	47.4	47.7	1.7
	女性	424	33.5	29.7	13.0	33.5	69.8	58.3	48.3	0.9
年齢区分別	20歳未満	9	22.2	44.4	0.0	33.3	55.6	77.8	66.7	0.0
	20～29歳	52	15.4	50.0	17.3	48.1	75.0	51.9	38.5	1.9
	30～39歳	80	16.3	32.5	3.8	28.8	68.8	47.5	37.5	1.3
	40～49歳	119	23.5	38.7	18.5	33.6	78.2	54.6	42.0	0.8
	50～59歳	166	32.5	27.1	11.4	34.3	70.5	54.8	47.0	1.2
	60～64歳	69	40.6	13.0	5.8	29.0	68.1	49.3	60.9	0.0
	65～69歳	51	39.2	21.6	7.8	31.4	66.7	52.9	70.6	0.0
	70～74歳	63	33.3	34.9	11.1	31.7	58.7	61.9	42.9	3.2
	75歳以上	103	35.0	35.0	14.6	41.7	57.3	54.4	51.5	1.9
圏域別	本庁圏域	217	24.4	30.0	11.5	35.0	65.9	53.9	49.3	0.9
	岡崎圏域	123	32.5	35.0	12.2	33.3	74.8	57.7	50.4	0.8
	大平圏域	59	32.2	39.0	11.9	28.8	64.4	54.2	37.3	3.4
	東部圏域	35	22.9	28.6	2.9	28.6	60.0	51.4	45.7	0.0
	岩津圏域	84	35.7	33.3	10.7	36.9	73.8	57.1	41.7	1.2
	矢作圏域	84	39.3	34.5	15.5	33.3	71.4	59.5	47.6	1.2
	六ツ美圏域	81	23.5	21.0	9.9	39.5	64.2	44.4	63.0	0.0
	額田圏域	22	36.4	27.3	27.3	45.5	54.5	45.5	36.4	4.5
	わからない	5	0.0	60.0	0.0	40.0	100.0	40.0	20.0	0.0

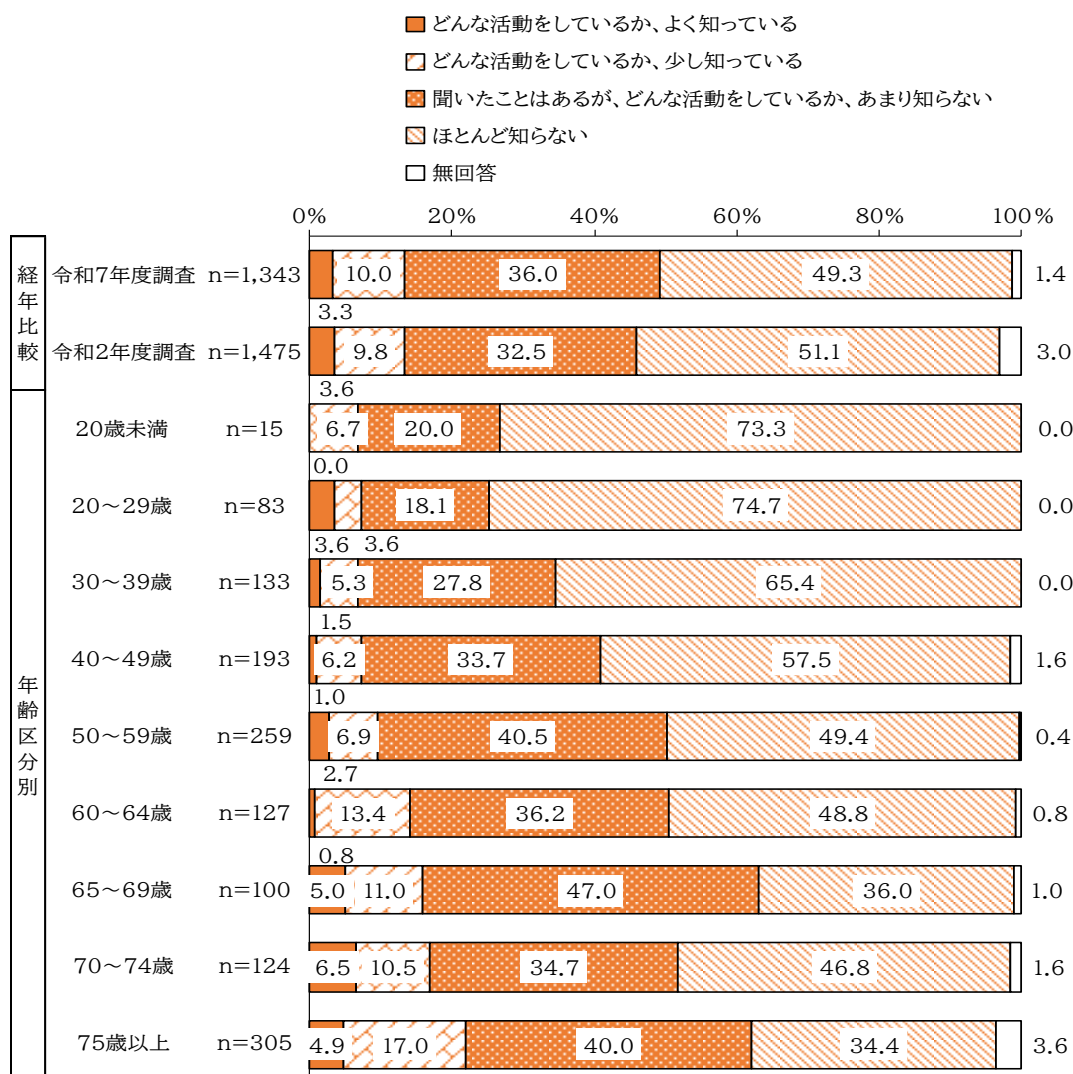
問 45 あなたは、学区福祉委員会を知っていますか。(1つの番号に○)

令和7年度調査では、『知っている』(「どんな活動をしているか、よく知っている」と「どんな活動をしているか、少し知っている」の計)が13.3%、『知らない』(「聞いたことはあるが、どんな活動をしているか、あまり知らない」と「ほとんど知らない」の計)が85.3%となっています。

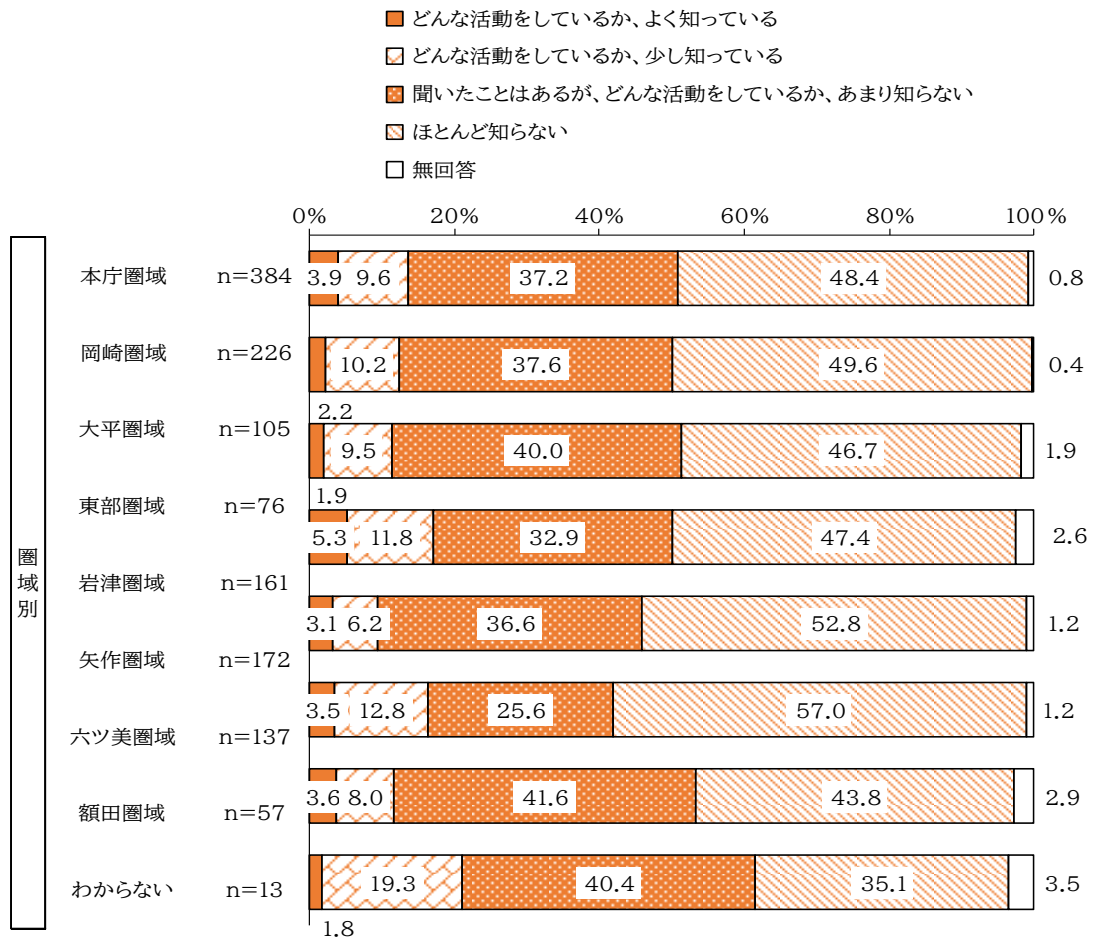
経年比較では、大きな変化はみられません。

年齢区分別では、年齢が高くなるにつれて『知っている』の割合が高くなる傾向がみられます。

圏域別では、額田圏域で『知っている』(21.1%)の割合が高くなっています。



### Ⅲ 調査結果



問 46 地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、今後地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(3つまでの番号に○)

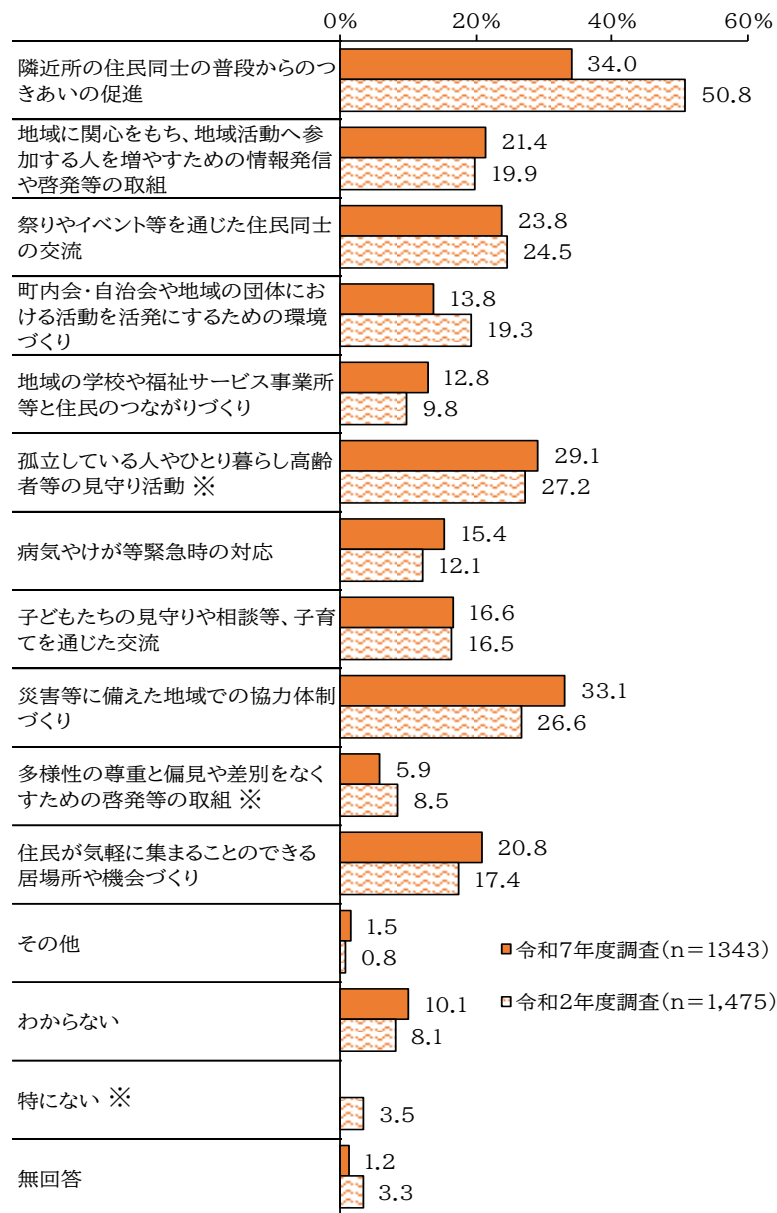
令和7年度調査では、「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」が34.0%で最も高く、次いで「災害等に備えた地域での協力体制づくり」が33.1%、「孤立している人やひとり暮らし高齢者等の見守り活動」が29.1%となっています。

経年比較では、「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」が令和7年度調査で34.0%と、令和2年度調査と比べて16.8ポイント低くなっています。

年齢区分別では、20歳未満、65～69歳、75歳以上で「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」(53.3%、45.0%、47.5%)、20歳未満で「祭りやイベント等を通じた住民同士の交流」(46.7%)、「地域の学校や福祉サービス事業所等と住民のつながりづくり」(26.7%)、30～39歳で「子どもたちの見守りや相談等、子育てを通じた交流」(41.4%)、20～29歳で「災害等に備えた地域での協力体制づくり」(43.4%)、75歳以上で「住民が気軽に集まることのできる居場所や機会づくり」(30.5%)の割合が高くなっています。また、20～29歳、40～49歳、60～64歳で「災害等に備えた地域での協力体制づくり」(43.4%、40.4%、37.0%)の割合が高くなっています。

圏域別では、額田圏域で「隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進」(47.2%)、大平圏域で「祭りやイベント等を通じた住民同士の交流」(35.2%)の割合が高くなっています。

### Ⅲ 調査結果



※選択肢について、令和7年度は「孤立している人やひとり暮らし高齢者等の見守り活動」「多様性の尊重と偏見や差別をなくすための啓発等の取組」となっていますが、令和2年度調査は「ひとり暮らし高齢者の見守り等の活動」「ひとり親家庭、障がい者がいる家庭への偏見や差別をなくすための啓発等の取り組み」となっています。

※選択肢について、「特にない」は令和2年度調査のみの選択肢です。

### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分	全体	隣近所の住民同士の普段からのつきあいの促進	地域に関心をもち、地域活動へ参加する人を増やすための情報発信や啓発等の取組	祭りやイベント等を通じた住民同士の交流	町内会・自治会や地域の団体における活動を活発にするための環境づくり	地域の学校や福祉サービス事業所等と住民のつながりづくり	孤立している人やひとり暮らし高齢者等の見守り活動	病气やけが等緊急時の対応	子どもたちの見守りや相談等、子育てを通じた交流
全体	1,343	34.0	21.4	23.8	13.8	12.8	29.1	15.4	16.6
年齢区分別	20歳未満	15	53.3	20.0	46.7	13.3	26.7	20.0	13.3
	20～29歳	83	28.9	24.1	30.1	14.5	18.1	27.7	25.3
	30～39歳	133	21.8	20.3	38.3	6.8	8.3	15.8	41.4
	40～49歳	193	19.7	21.2	21.8	7.3	17.6	26.4	31.1
	50～59歳	259	29.0	25.1	21.6	12.0	16.6	36.7	15.8
	60～64歳	127	30.7	24.4	15.7	18.1	11.0	33.9	9.4
	65～69歳	100	45.0	19.0	23.0	19.0	13.0	33.0	15.0
	70～74歳	124	41.1	22.6	25.8	12.1	11.3	28.2	4.0
75歳以上	305	47.5	17.0	20.7	19.7	7.5	28.5	3.9	
圏域別	本庁圏域	384	33.6	23.7	26.0	12.0	15.1	29.2	16.7
	岡崎圏域	226	28.8	19.9	21.2	11.1	14.6	31.4	23.0
	大平圏域	105	33.3	21.0	35.2	17.1	9.5	26.7	15.2
	東部圏域	76	30.3	22.4	18.4	15.8	11.8	31.6	17.1
	岩津圏域	161	34.2	19.9	19.9	14.9	14.3	30.4	17.4
	矢作圏域	172	39.0	25.0	23.8	16.9	10.5	25.6	12.8
	六ツ美圏域	137	33.6	21.9	22.6	13.9	10.9	31.4	15.3
	額田圏域	57	47.4	8.8	22.8	17.5	7.0	22.8	7.0
	わからない	13	46.2	7.7	23.1	15.4	15.4	30.8	7.7

### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

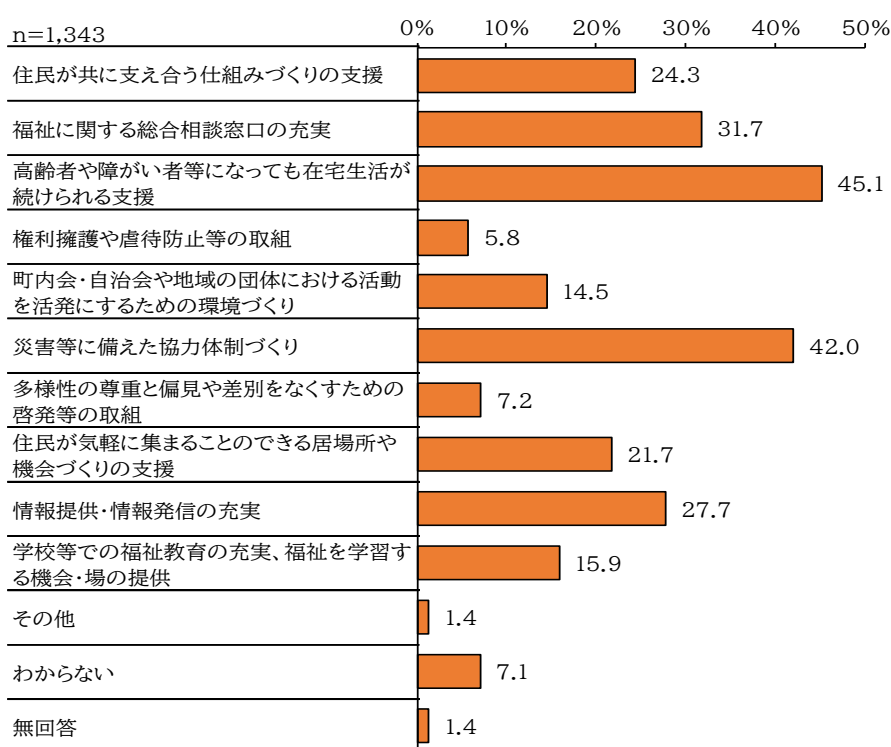
区分	全体	制 づ く り 災 害 等 に 備 え た 地 域 で の 協 力 体	く 多 様 性 の 尊 重 と 偏 見 や 差 別 を な す た め の 啓 発 等 の 取 組	る 住 民 が 気 軽 に 集 ま る こ と の で き る 居 場 所 や 機 会 づ く り	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
全体	1,343	33.1	5.9	20.8	1.5	10.1	1.2	
年 齢 区 分 別	20歳未満	15	33.3	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0
	20～29歳	83	43.4	4.8	10.8	3.6	6.0	0.0
	30～39歳	133	33.1	5.3	19.5	3.8	9.8	0.0
	40～49歳	193	40.4	8.3	18.7	1.6	8.3	0.5
	50～59歳	259	33.6	6.6	18.1	0.8	8.9	0.0
	60～64歳	127	37.0	8.7	12.6	0.0	14.2	0.8
	65～69歳	100	29.0	7.0	20.0	0.0	8.0	1.0
	70～74歳	124	30.6	8.1	25.8	0.8	11.3	1.6
75歳以上	305	26.2	2.0	30.5	1.6	12.1	3.6	
圏 域 別	本庁圏域	384	30.7	6.5	19.8	1.3	8.9	0.8
	岡崎圏域	226	32.3	7.1	19.9	2.7	10.6	0.4
	大平圏域	105	31.4	4.8	22.9	1.0	9.5	0.0
	東部圏域	76	38.2	2.6	25.0	1.3	7.9	5.3
	岩津圏域	161	30.4	5.0	21.1	1.2	9.9	0.6
	矢作圏域	172	35.5	6.4	18.6	1.2	11.0	1.2
	六ツ美圏域	137	35.0	7.3	23.4	0.7	10.2	2.2
	額田圏域	57	38.6	1.8	22.8	0.0	14.0	1.8
	わからない	13	53.8	0.0	15.4	0.0	7.7	0.0

問 47 地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、今後市では、どのような支援を行う必要があると思いますか。（3つまでの番号に○）

令和7年度調査では、「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援」が 45.1%で最も高く、次いで「災害等に備えた協力的体制づくり」が 42.0%、「福祉に関する総合相談窓口の充実」が 31.7%となっています。

年齢区分別では、75 歳以上で「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援」(57.4%)、20 歳未満、20～29 歳、30～39 歳で「権利擁護や虐待防止等の取組」(26.7%、12.0%、12.0%)、20 歳未満で「情報提供・情報発信の充実」(40.0%)、「学校等での福祉教育の充実、福祉を学習する機会・場の提供」(33.3%)の割合が高くなっています。

圏域別では、額田圏域で「住民が気軽に集まることのできる居場所や機会づくりの支援」(31.6%)の割合が高くなっています。



### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分	全体	住民が共に支え合う仕組みづくりの支援	福祉に関する総合相談窓口の充実	高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられる支援	権利擁護や虐待防止等の取組	町内会・自治会や地域の団体における活動を活発にするための環境づくり	災害等に備えた協力的体制づくり	多様性の尊重と偏見や差別をなくすための啓発等の取組	住民が気軽に集まることのできる居場所や機会づくりの支援	情報提供・情報発信の充実	
全体	1,343	24.3	31.7	45.1	5.8	14.5	42.0	7.2	21.7	27.7	
年齢区分別	20歳未満	15	33.3	13.3	20.0	26.7	20.0	46.7	13.3	20.0	40.0
	20～29歳	83	24.1	33.7	34.9	12.0	18.1	51.8	9.6	18.1	28.9
	30～39歳	133	21.8	29.3	30.8	12.0	9.0	46.6	6.8	18.0	31.6
	40～49歳	193	21.2	31.1	34.7	7.8	10.9	47.7	8.8	19.7	35.8
	50～59歳	259	20.8	35.9	47.5	6.2	13.5	44.4	8.5	16.2	30.9
	60～64歳	127	22.8	40.9	47.2	3.1	14.2	41.7	10.2	15.7	31.5
	65～69歳	100	32.0	32.0	44.0	8.0	16.0	42.0	7.0	25.0	20.0
	70～74歳	124	25.0	33.9	50.8	0.8	12.9	40.3	6.5	24.2	27.4
75歳以上	305	27.2	25.6	57.4	1.3	19.0	32.8	3.6	30.2	18.4	
圏域別	本庁圏域	384	26.6	34.1	44.5	6.5	16.9	38.8	7.6	20.6	28.6
	岡崎圏域	226	18.1	32.3	44.7	4.9	8.8	41.6	7.5	19.9	27.9
	大平圏域	105	23.8	29.5	41.9	3.8	12.4	37.1	4.8	28.6	33.3
	東部圏域	76	32.9	31.6	55.3	1.3	15.8	42.1	6.6	22.4	21.1
	岩津圏域	161	23.0	29.8	49.7	6.8	13.7	41.6	8.1	22.4	24.8
	矢作圏域	172	24.4	32.0	47.1	7.0	15.7	48.3	6.4	19.8	30.2
	六ツ美圏域	137	26.3	33.6	38.0	7.3	17.5	46.0	8.8	20.4	32.8
	額田圏域	57	22.8	22.8	47.4	3.5	17.5	49.1	5.3	31.6	14.0
	わからない	13	23.1	15.4	46.2	7.7	0.0	61.5	15.4	15.4	0.0

### Ⅲ 調査結果

(単位：%)

区分		全体	学校等での福祉を学習する機会・場の提供	その他	わからない	無回答
全体		1,343	15.9	1.4	7.1	1.4
年齢区分別	20歳未満	15	33.3	0.0	6.7	0.0
	20～29歳	83	22.9	2.4	3.6	1.2
	30～39歳	133	28.6	2.3	6.8	2.3
	40～49歳	193	28.5	1.0	4.1	1.0
	50～59歳	259	14.3	2.3	5.8	0.8
	60～64歳	127	11.0	0.0	7.9	0.0
	65～69歳	100	12.0	1.0	6.0	1.0
	70～74歳	124	9.7	1.6	8.9	0.0
	75歳以上	305	7.2	0.7	10.8	3.3
圏域別	本庁圏域	384	15.9	1.0	5.2	1.3
	岡崎圏域	226	22.1	2.2	7.1	1.3
	大平圏域	105	15.2	1.0	7.6	1.0
	東部圏域	76	9.2	1.3	5.3	3.9
	岩津圏域	161	13.7	2.5	8.7	1.2
	矢作圏域	172	16.3	0.6	9.3	0.6
	六ツ美圏域	137	16.8	0.7	5.8	0.7
	額田圏域	57	5.3	1.8	10.5	3.5
	わからない	13	15.4	0.0	15.4	0.0

## IV 自由意見

◎地域住民が共に助け合い支え合い、だれもが一生安心して暮らすことができるまちづくりを進めるためにはどうしたらよいかなど、地域福祉に対してご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

年代	自由意見
本庁圏域	
20歳未満	人知れぬ善意を人から人へ伝えて、また、その善意が正しく評価されること。
20歳未満	地域の人と話したり、気軽に行けたりする場所を作ること。
20歳未満	地域の人との連携。地域福祉さんがどのような活動をされているのかわからない点が多い。そのため、知ることができる機会を作る(ショッピングモールでの活動などで)。チラシや知ってもらえるようにする。お金問題が心配。将来、暮らせるお金はあるのか、続けることができるのか、心配をなくすことができるようにしていただきたいです。困ったことがあったら、市役所のどこの場所に連絡したら良いのかわからない。地域関係で困ったことがある時は、どこに質問したら良いですか。福祉施設をもっと知ってもらうため、チラシを作る、SNSで活動したら良い。
20～29歳	法改正による福祉サービスの質の低下は反対。高齢者や障がい者を家で世話をするのは無理。しっかり福祉サービスを使えるようにして、家族の負担を減らしてほしい。隣近所の交流がほとんどないので、助け合うとかなかなか難しい。
20～29歳	防犯カメラや街灯を増やす。
20～29歳	通勤、退勤ラッシュ時の交通渋滞によって、先を急ぐスピードを出し過ぎな運転手や煽り運転等も目につきます。朝は学生さんの通学時間とも被り、危険な目に遭った方も少なくないのではと感じています。岡崎市は車なしでは住むことができない街と聞いたことがあります。どこに出かけても渋滞が目立ちますし、本宿にはアウトレットができたり、他県や他市からの移動も多くなるかと思えます。道路の整備や増設を強く希望します。また、高齢化に伴い、車の免許を早く返納しても良いと思えるようにバス停を増やしたりなど、公共交通機関の改善も期待したいところです。
20～29歳	人々が必要な時に、必要(適切)な制度を利用することができる受け皿(支援体制)の拡大・促進。
20～29歳	低所得者への支援。
20～29歳	私は現在、就職を機に名古屋で一人暮らしをしています(住民票を移していないため、岡崎の実家へ届いてしまい申し訳ありません)。そんな私ですが、岡崎市に対してかなり地元愛を持っています。地元愛というものは良いです。帰るところがあるという心の支えにもなりますし、何より私のように外に出た友人も皆、休みは岡崎に帰ってきます。長くなりましたが、要は地元愛さえあれば必然と経済効果は生まれますし、地域を大切にしたいという心が生まれると思います。私は行政のサービスや活動をよく知っておりません。ですが、心には常に岡崎で何か役に立ちたいという思いがあります。まずは周知だと思います。今後ともよろしく願いいたします。
30～39歳	保育園への預け入れ条件の緩和や、預け入れ数の増加。働き先の制度ではなく、働く人を増やすためにも受け入れ先は必要。

年代	自由意見
30～39 歳	住民同士が支え合うまちづくりについては賛同しますが、実際の町内会活動においては次のような課題があります。①役員の担い手不足。現在は高齢の方々が中心となって役員を務めてくださっていますが、ご本人達からは「若い世代に引き継ぎたい」との声が多く上がっています。ところが、若い世代は子育てや仕事に追われており、新たに役割を担うことが難しい状況です。②町内会費負担の不公平感。私の町内は、町内会費については世帯人数が多い子育て世帯ほど負担額が大きく、子育てと経済的負担の両面で重荷になっています。一方で、人数の少ない世帯の負担は比較的軽く、外国人の方は町内会に未加入のため0円で不公平感が生まれています。今は SNS で町内会費を知ることができるので、知人は町内会費が高い町は住むのを避けていました。こうした現状を踏まえ、以下の点について検討いただきたいです。①町内会の役割や業務の簡素化、分担方法の見直し支援。②会費の公平な負担方法の検討。③市として町内会活動をサポートしたり、デジタル化、効率化を進める仕組みの導入。地域のつながりを守りつつ、無理のない形で持続可能なまちづくりができるよう、市として支援と制度の工夫をお願いします。
30～39 歳	地域福祉についてほとんど無知であることを、今回のアンケートを通じて実感しました。近隣の方とはすれ違った際にあいさつを交わす程度で交流もほとんどないため、災害時にすぐに協力し合える関係となれるかが不安です。子育て世代であるため、まずは地域の子育てをしている方々との交流の場に参加し、輪を広げていくことから始めたいと思います(愛宕学区にはあじさいの会がありますが、何名ほど参加しているのかや活動の詳細がわからず、なかなか一歩を踏み出せずにいます)。
30～39 歳	地域の交流が難しいです。家事に育児、合間にパートへ行く日々、体や心に余裕などありません。生活するので精一杯で地域交流などする余裕がなく、顔を合わせたらあいさつするくらいしかできません。ネット社会ですし、今は職場でも LINE を活用しているところがあります。気軽に意見や質問などができる LINE グループなどあるといいなと思います。
30～39 歳	少子高齢化、核家族化が進む中で、自治体のリソースも限られてくるので、自助、共助が重要になってくると思います。そのための情報提供や場づくりが大切だと思います。
30～39 歳	多様性啓発をする前の方が差別も偏見も少なかった。妙な活動家と社会福祉協議会は離れることも必要です。共助の前の自助をより促進すべき。地域の集会所が老人サロンになっているが、地域交流センターのような気軽に使える利便性(予約など含む)やプレイルーム的な子どもの交流の場としても使えるようにしてほしい。大型災害の際の避難所運営やボランティアセンターの運営など、社会福祉協議会さんが主催して大規模シミュレーションをそろそろ実施してみたいかでしょうか。日頃の活動ご苦労様です。
30～39 歳	仕事もあるので頻繁には参加できないと思いますが、地域で交流できる場があると良いと考えます。自分自身も他県から岡崎市に来て 13 年目になりますが、災害時にどうしたら良いか不安な面はあります。そういった場合に普段から交流があると少し安心感があると思いました。アンケートの内容が役立つと幸いです。
30～39 歳	何かあった時にどこへ相談したらいいかを、項目ごとに明確にわかりやすくしてほしい。
40～49 歳	やはり、近所の方とお付き合いが増えることが重要と思います。町内対抗で、何かイベントとか考えてほしいと思います。
40～49 歳	現在、自分で行動すれば受けられるが、知らないと受けられない補助などが多いと思うので、わかりやすくそういう対象者に積極的介入をしてほしい。あと、入院時の連絡先に配偶者がいないのはなぜなのでしょう。
40～49 歳	手書きのアンケートではなく、例えば Forms など負担の少ない方法を取っていかないと、そもそも地域福祉を考える以前に市民の協力が得にくいと思います。多様な意見を集めることも大切だと思います。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
40～49 歳	労働人口も減少しているので、住民同士で助け合うことがこれまで以上に大切になってくると思います。なるべく税金は使わずに、お互い様の精神で支え合える社会が実現するのが理想ですが、いろいろな価値観の方がいるので難しさも感じています。
40～49 歳	今後重要なのは、①高齢者支援と②外国人の受け入れ。特に②は深刻な人手不足の解消に必要であるが、日本の文化やマナーを守って生活することは最低限必要。また、このようなアンケートの集計のためにネットを活用すべき。常に税金を無駄なく効率的に行う(使用する)ことを考えていただきたい。
40～49 歳	ある程度切り捨てることも必要だと思う。あとは、少しおせっかいなぐらいが、そういった立場の人にはちょうど良いのかも。昔の普通＝今のおせっかいだと思う。
40～49 歳	無駄なことに税金を使わない。
40～49 歳	孤立する世帯をなくしていく工夫が必要ではないかと思う。子どもがいる家庭同士、高齢者の世帯同士ではなく、幅広い年代で関われる機会があることで、足りない部分、サポートが必要な部分を補い合えるのではないかと思うので、そういった仕組みがあると良いと思う。高齢者による地域の子どもの見守り→子どもの虐待やネグレクトを早期に発見したり、逃げ場所を作る。地域の高齢者を学生や主婦などでサポート→空いている時間を利用して、買い物や病院の送迎、付き添い、家の周りの掃除、草取り、話し相手など(有料)。詐欺や孤独死の防止。どんなことでも相談できる窓口(予約制)→LGBTQ、人種等の孤立を防ぐなど。
40～49 歳	アンケート調査に答えられる者ではありませんが、親の立場で書かせてください。1.町内で障がい者であると把握されていないと思う。2.親亡き後、子どもが不安でパニックになるのではと心配しています。3.健常者が利用する施設はたくさんあるように思うが、障がい者が安心して楽しめる施設が少ないと思う(リブラができる前、プールがありました)。いつも笑顔で楽しんでいました。
40～49 歳	当事者にならないと福祉を身近に考えられない人が多いので、情報発信が必要かと思っています。また、SNSなどで地域の福祉の支援状況に困っている方をよく見かけるので、実際に困っている方々の声を集めて対策されるのが一番だと思います。
40～49 歳	税金が高いから安くしてください。
40～49 歳	相談機関やホームヘルパー事業などがパンク状態だと聞く。専門職の担い手不足があり、その部分を地域住民の助け合い支え合いでカバーするのは無理がある。専門機関がきちんと整備され、職員が充足されていることが基本で、そこから住民を巻き込んでいけるといいと思う。専門知識を住民に教えていくこともできる。
40～49 歳	岡崎に住んで4年目。仕事をしている関係で地域では知り合いも増えず友人もいませんが、仕事を引退したら、あるいは子ども達が家を出て時間ができたら、子育て支援(保育園などのお迎えに代わりに行く、短時間子どもを預かるなど)や、英語など自分ができることで地域に貢献したいと思っています。どこにその受け皿があるかまだ探していませんが、ニーズとマッチングしてもらえればありがたいと思います。来年、市内の割と古くからある住宅地に家を建て引っ越しますが、近所の皆さんの力になれることがあったら協力していきたいと思っています。外から来た人も入っていきやすい地域活動や情報提供などあれば嬉しいと思います(例えば、電話番号一つをとっても市外局番から書くとか、それだけでも助かります。携帯で過ごしていると、電話番号がフルで書いていないと使えないのです。やれることは小さいことからあるのだろうと思っています)。兄弟姉妹の急病で病院に行くから他の兄弟姉妹を預かってなど、できそうなことはいろいろあると思っています。

年代	自由意見
40～49 歳	近所の方々と交流するのは難しい時代だと感じています。自分自身、生活にいっぱい いっばいで交流する余裕はありません。どうしたらいいか良い案は浮かびませんが、時 代に合った方法があるといいなと思います。
40～49 歳	共働きしないと生活していけないので、地域の方と話す時間がない。手助けしたくても 自分の生活を守ることで必死です。生活できる余裕ができた上で人のことにも目を向 けることができるのではないかと思いますので、どんな人でも自分に合う職を見つけて、働 けるような場所が必要だと思う。
40～49 歳	あいさつをする。
40～49 歳	うちのマンションでは、町内会に入っていないと市の広報誌が配布されないので情報が 得にくいです。他の市に住んでいた時は町内会未加入でも配布されていたので、市の 相談先がわかりやすかった。自分からネット検索して相談先等の情報を調べないといけ ないのは、年配になりネットに疎くなると困るので、いろいろな方法で情報発信してほし い。
40～49 歳	近所の人がるさく言い過ぎない→反感を買って受け入れてもらえない。
40～49 歳	運転免許返納後の交通手段に困らない体制が充実すると良いと思います。今まで知ら なかった制度や地域の取組について知る機会をいただき、こちらこそありがとうございました。
50～59 歳	高齢者が一人でも安心して暮らせる社会づくり。見守りなどの徹底。高齢になると賃貸 契約を断られるケースが多いと聞くので、高齢になってもアパートの賃貸契約ができる 物件を増やしてほしい。
50～59 歳	何をしたらいいのかわからない人は多いと思います。仕事をしている人は福祉を学習 するにも日にちや時間が合わず、チャンスが少ないです。
50～59 歳	行政が主導して行うべき。
50～59 歳	障がい者の家族を持っています。災害が起きた時に避難所には行けないと思うので、 自宅か車避難となります。その際、食料等が配給されずに孤立しないか心配です。
50～59 歳	今、一番不安なのが南海トラフ地震なのですが、一時避難場所になる三島小学校が坂 を上っていかなくてはならない上に移動に時間がかかるため、高齢者や障がいをお持 ちの方達が困っています。今後、公共で建てられる施設は、全て災害時の避難場所と して活用できるようご検討いただければ幸いです。既存の建物でも、自宅が被災した時 に避難所として開放してもらえるとところが増え、住民の方も安心かと思えます。
50～59 歳	市も地域に任せるのではなく、各地域が今どのような課題があるのか現地で確認する 姿勢を見せる。
50～59 歳	今の岡崎市のやり方では不十分です。倍以上の行動をしてください。
50～59 歳	以前から子ども食堂には少し興味を持っていました。自分自身の子育てが終わり、何か 協力ができたらとは思っていますが、自分自身の生活もありボランティアは難しいで す。仕事として食事作りのお手伝いをする場があればと思っています。知識不足で、そ ういう場があったならすみません。
50～59 歳	おせっかいおばさんもいなくなり、悪いことをしていると怒ってくれる「おやじ」もいなく なり、優しいおばあちゃんやおじいちゃんもいなくなり、近所に誰が住んでいるのかもよ くわからないし、子ども達の集まりもなくなりました。近隣の集まりもない(そも そも仕事、子育て、家事、送迎で、そういう集まりすら行けない)。どうやって交流するの でしょうか。あいさつをしても無視されるのに、どうやって助け合いをするのでしょうか。 子供会もコロナなどでなくなりましたし、学校のクラスの子がどこに住んでいる のかも知らない(個人情報保護で)。こういうところを改善していかないといけないので はないかと思いますが、方法は思いつかないです。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
50～59 歳	地域福祉の取組が、このようになされていることをアンケートで初めて知りました。制度があることでとても安心できますが、「制度があること」を知らなかったことは自分にも責任があるものの、周知が控えめすぎるのではとも思います。市政だよりでプチ知識的なコラムコーナーを作るとか、何かあった時に慌てないよう、平時に知っておきたいです。きっと、何より人手不足なのだと思います。仕事も情報も大勢で共有できたらいいと思っています。取組に感謝しています。
50～59 歳	少子高齢化や貧富の差が拡大する中、住人の善意や良心に期待するのも限界があるように思う。地方自治体の限られた予算の中でのやりくりは厳しいと思うが、福祉の充実、雇用対策、経済活性化につながっていくように、予算を確保して対価を払って支援を行ってもらえるような取組はできないでしょうか。
50～59 歳	地域の住民が気軽に集まれる場所づくり。交流の場。
50～59 歳	窓口を広げる。まずは相談できる窓口を確立する。
50～59 歳	保証人・緊急連絡先などの支援サービスを提供する「高齢者等終身サポート事業者」がありますが、一般の会社ではなく「公務員さん」が公的に助けてくださる制度（有料でも良い）があると、安心できるだろうと思っています。「緊急連絡先」が基本的にないです。本当に最終的にどうしても連絡してほしい人の連絡先を、市役所に預けられたりしたら良いと思います。
50～59 歳	市から町内会・自治会へ、情報発信に必要なスマホレンタル（高齢者向け）をしてほしい。
50～59 歳	日頃から近隣同士のお付き合いや町内の活動に対して、積極的な人とそうでない人との間に温度差があると思います。地域住民同士のお付き合いが苦手な人、あるいはお付き合いを避けがちの人が、少しでも周囲と馴染めるような施策があるといいなと思います。子どもの頃から地域とのつながりが密になると良いと思いますが、例えば子供会も活動しない町内が増え、子どもの頃から地域とのつながりが薄れている気がします。
50～59 歳	地域住民の自主性に任せればいい。市のやることではない。
60～64 歳	中山間に住む者として、地域で未婚者が増えてきている。将来、自分の地域でも一人暮らしの世帯が増えることが予想され、未婚者を減らす対策も必要に思います。
60～64 歳	子ども食堂が孫の学区にあり、2回利用しました。でも、月に1回しかやっていないので、貧困対策や孤食の解消にはならないと思います。せめて、週に1回はやってほしいです。孫が小学校に入って、お母さん達がいまだに旗当番をやっていることにびっくりしました。共働きの家も増えていて、みなさん朝はすごく忙しいと思います。それに、子どもが1人ならいいのですが、2人以上いて下の子が小さかったら連れて行って旗当番をしなければならず、その上、雨が降っていたらとても大変だし危険です。見守り隊の方々もたくさん来てくれているので、そろそろお母さん達はやらなくてもいいのではないのでしょうか。最近、町内会をやめる人が増えています（先月、うちもやめました）。役員をやるのは大変だから、2年に1回の役員決めはいつもすごく時間がかかります。市で、町内の役員の仕事をやってくれるととても助かります。
60～64 歳	地域での助け合いは大事だと思うけど、現実、町内会の役員など引き受ける人が少ない。むしろ、いろいろなことをやらされるのが嫌で、町内会、子供会、ご近所との付き合いを避けている人も多いのでは。年間にしなくても良い行事や町内での仕事が多すぎる。これでは、地域の助け合いなどできない。もっと簡素で簡単であるべき。市政だよりも一軒一軒組長が配っているなんておかしい。もっと市役所で考えて、変えてほしいです。
60～64 歳	町籍簿を毎年見直すようにしてほしい（おぎなりになっている町内が多く感じる）。自分の町内にどんな人が住んでいるのかわからない。交流する場が少ない（行事に参加する人が決まっている）。

年代	自由意見
60～64 歳	公的介護施設の増設。地域医療の十分な確保。小児科、婦人科の確保。
65～69 歳	福祉と言うと、難しいこととってしまいます。困っている人のお手伝いと思えば私にもできます。土日はアルバイトをしていて、地域の行事は全て土日なのでめったに参加できていません。組長の時は時間調整が大変でした。気軽に参加できるものにして下さい。地域交流センター、観光広場、スーパー銭湯、道の駅などを合体したような場所(温水プールはあるので)。年齢関係なく、みんなが気軽に楽しめる場所があれば、興味を持っていろいろ参加できるのでは。
65～69 歳	一人暮らしの高齢者に、できたら1日1回声をかける。
65～69 歳	私の暮らす地域も高齢化が進み、また、若い方の地域離れが進み、今後の町民減少が懸念されると感じています。人がいなくなった住宅は分譲住宅として新しい若い方が入ってきておりますが、子育てに忙しいのか現時点では町行事に協力的ではなく、子育てが終わってからも個人優先で協力参加は見込めないのが現状であります。今後の人と人との結びつきをどうしていけば良いか考える時期に来ているのかもしれない。
65～69 歳	災害時の食糧、飲料水、トイレ等の市民一人ひとりに十分な数の備蓄、十分な避難場所の確保。河川氾濫防止のための川ざらえ。年齢、性別関係なく楽しく使用でき、災害時に避難所として使用できる緑地、公園の拡充。医療機関の充実。車いす、ベビーカーでのスムーズな通行のための整備。子育て世代への補助、保育園待機児童の解消、児童育成センターの充実。希望者全てが入れるように。
65～69 歳	今の生活実態と少しずれたアンケートだと私は思いました。
65～69 歳	当方、70 歳でマンション暮らしです。現在、健康です。子どもは遠方におり、将来、身体が不自由になった時の生活が不安で、今から情報を集めておこうと思っています。市報などで各世代の催し等は目にしますが、年に一度くらい、高齢者向けの特集等を発信されても良いのかなと思います(お金がかかりますかね)。
65～69 歳	助け合い支え合いの中心的人物に、負荷がかからないようなシステムづくりが必要(金銭的、肉体的、精神的)。
70～74 歳	日名南町は大雨のたびに浸水しています。八帖北雨水幹線シールド工事が進んでいますが、これから先、この場所で住むのが不安です。9月5日の台風 15 号の大雨で浸水被害がありました。まだまだ工事は続くようですが、早く工事を終了させていただくようにお願いします。
70～74 歳	今の子ども食堂みたいな形ではなく、垣根とか枠組みがなく、いつでも利用できる場所があると良い(幅広い年齢増)。生活保護を受けている人が全部頼るのではなく、働ける人は1日2～3時間ぐらい働ける仕事、場所があると良い。
70～74 歳	民生委員の対面での安否確認を苦手とする高齢者もいる。また、民生委員のなり手が少ないとも聞く。今後はデジタルツールの活用が有効かと思う。例えば、見守りセンサー、設定した時間での安否自動音声通話、LINE での安否確認等。
70～74 歳	福祉というより、まずは近隣同士の「あいさつ」だ。時々無視もされるが、私も庭の手入れが好きで、見知らぬ人でも極力「あいさつ」をする。また、娘が大府に住んでいるが、小さな子どもさんからお年寄りまで、初めて会う人でもにこやかに「あいさつ」や気さくに声をかけてくれる。岡崎ではないことにびっくり。娘曰く、福祉に関しても充実しているようだ。私自身も居心地の良い市である。余談ではあったが、岡崎市が地域でこんなにも人々のために素晴らしい取組をしていることさえ知らずに今まで過ごしていたことに気づかされました。このアンケートに参加できたことをとても感謝いたします。
70～74 歳	住民の健康、幸福度アップのため、市内のテニスコートを増やしてほしい。南公園の4面が減って、ますます抽選に当たらなくなっている。中総はなかなか当たらず、日常的に運動ができない。ご検討をお願いいたします。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
70～74 歳	現在、夫婦2人で暮らしています。引っ越しをして 12 年、子どもの少ない地域にいますので子どもさんの様子はよくわからないのですが、市民ホームでのサークル等は参加させていただいております。社会福祉協議会にも気になることは相談させてもらい、心強く感じました。以前、名古屋に住んでいたのが、敬老パス等の福祉手段などはとても良いと思っていました。元気なお年寄りが活動しながら、お金を使える楽しさも体験できそうです。ご苦労様です。
70～74 歳	高校の教員の時、社会福祉協議会が主催した岡崎市福祉まつりに、生徒(インターアクト部員)と共に何度も参加しました。まつりを通して多くの方々と知り合いになりましたが、まつりが社会福祉協議会中心になってからは疎遠になってしまいました。今は退職して 70 歳になりましたが、祭りなどのイベントを通じ新しい知人ができれば、岡崎市の福祉に貢献できるかもしれません。何か参加できるイベントがあればと思います。
75 歳以上	市議員の存在価値(活動状況、仕事等)が薄いと思うので、議会活動を含めて市民と共に行動している姿を見せてほしい。選挙の時だけ声を出しても、市民には全く伝わってこない。地域住民が共に助け合い、誰もが一生安心して暮らすことができるまちづくりは、市議員の一人ひとりの日頃の活動が最も大切なこと。議員の責任が問われている。率先して活動してほしい。
75 歳以上	防犯カメラの設置をお願いします。
75 歳以上	高齢者ですが、まだ地域福祉を利用していない(82 歳)。5年ほど前に引っ越してきましたが、近所付き合いがあまりない(市内から市内)。もうそろそろ民生委員と相談したいと思っています。
75 歳以上	①現在住んでいる地域は戦争の災難を免れた地域のため、道中は狭く建物は古いため生活する場所としては不便であるとともに、地震・台風・大火等の時の避難、災害時の不安は大きい。②伊賀川の改修工事が済んで 10 年以上経過した。現在は川の至るところに土砂の堆積により小島ができ、川底は相当浅くなり小島には草木が生い茂っている。少しの雨でも岡崎公園までの遊歩道が水没する。ブルドーザー等で川底をさらって、あの川を改修した当時のように戻してほしい。異常気象の今は今後に大きな不安がある。
75 歳以上	地域の付き合いが段々少なくなり、どこまで手、口出ししていいか垣根がわからなくなり、困った時に相談するところがわからない。町内会、市で対応できる枠組みができればと思う。
75 歳以上	宛名本人は 93 歳男性です。このアンケート調査の内容を本人に噛みくだいて伝える労力は、介護人(本人の娘)としては非常に負担でした。送付時に年齢に見合った内容にさせていただき配慮があったら良いと思いました。高齢者を一括りにして調査すること自体、無理があるのではないのでしょうか。元気な人もいれば、目がよく見えない、耳が聞こえないなど、日常生活に支障がある人もいます。今後、少子高齢化がますます進むことを考えると、従来通りの調査の仕方では本当の姿は見えてこないのではと思いました。
75 歳以上	高齢者の介護施設などに入所されることが多いが、自宅で介護をして保険費用の使用を少なくし、税金の無駄遣いをしないようお願いしたいと思います。
75 歳以上	困りごと等の総合相談所の設置。
75 歳以上	地域でコミュニケーションの場を設ける。年2～3回開催できれば。レクリエーションによって気心を温める。
75 歳以上	地域の年に数回の掃除(草刈り等)の際、この頃入居してきた若い世代の家族に非協力的な人が多く、ほとんどが高齢者の参加で将来が危惧されます。今後、どうなっていくのでしょうか。このような状況では、助け合い支え合い、一生安心して暮らすことができるまちづくりといった気持ちになれないのが正直な気持ちです。

## IV 自由意見

年代	自由意見
75 歳以上	高齢者・身障者が気軽に立ち寄れ、コーヒーが飲めるような“チョットホット”な施設の設置。高齢者・身障者の行動範囲、歩いて立ち寄れる身近なコミュニティの場づくりと言いましょか、古い車庫、ちょっとした倉庫跡などでも構わないので、そういうお茶を飲み、話ができるところがあるといいですね。デイサービスとは違った、その土地、特性に合わせたような所があったらいいなと思います。
75 歳以上	私は大家族で子、孫と暮らしています。あまり他人様の世話になりたくありません。もし、他人様の世話になるなら、その人に財産を譲ります。あくまで、子、孫、または親族の世話になりたいです。孤立する人の心情がわかりません。あくまで、日頃の自助努力が主だと思います。あまり他人様に迷惑はかけないという心づもりが必要です。
75 歳以上	情報発信、福祉サービスの充実。＜別件＞桜の木の植樹に寄付したが、その後の報告が全くない。どうなっているのか広報誌で発表してほしい。
75 歳以上	今年3月より身体障害者手帳を交付され、今まで知らなかったことがいろいろとあり、現在勉強中なため知らないことだらけです。いろいろと助成されることがあり、大変ありがたいと思っています。これからも、より多くの福祉が得られるようお願いします。
75 歳以上	後期高齢者医療保険料が3割負担はおかしい。
75 歳以上	子ども達が集まって遊べる場所が少なく思う。子どもの時からのつながりが大切ではないかと思う。最近、子供会がないのか寂しく思っています。
75 歳以上	自分の家のこともきちんとしていない家の人ばかりです。学校の周りがクシャクシャ、もう少し気を遣ってほしい。
75 歳以上	日頃からご近所同士の声かけ、あいさつ。町内会の行事に進んで参加しやすい環境を作る。
75 歳以上	地区単位(小学校区)で老若男女が集い、全員で準備作業をして交流できる機会を増やし、市はこれを支援すると良い。例として、岡崎で餅つき大会や BBQ の他、ゲームなどを年に2～3回開催するが、役員だけでなく全員が協力して準備作業をすると良い。役員の負担を減らすことが重要。
75 歳以上	今の生活に満足している。
75 歳以上	市役所内に各種相談窓口を設置(生活支援や法律的な窓口)。
75 歳以上	ごく少数だと思いますが、我が家は夫 86 歳(要介護1で認知症あり)、私は 78 歳で今のところまあまあ元気でいますが、3か月ぐらい前に夜中に私がちょっと体がおかしく救急車で市民病院に行った時、主人も連れて行き、私が大したことがなく帰れたので良かったのですが、もしその時に入院することになったら、市民病院は入院するのであれば主人は付き添いとしていられないとのことでしたが、一人でいられない主人が困るのでその時だけ朝まででいいからいられないかと思いました。個人的な意見ですが、他の人に言ったらそれはそうだねとのことでした。
岡崎圏域	
20 歳未満	これからもこの街をより良くできるように頑張ってください。現状で感じる不満や意見は特にはないです。
20～29 歳	箱物にお金を使わずに民生委員に適正な報酬を考えて、民生委員の数を増やした方がよいと思います。
20～29 歳	高齢者やシングルマザー・ファザーやハンディを抱えている家庭に、月1、2回、困っていることがないか等声かけや様子を見る機会があれば、一人で抱え込む人が減ると思います。
20～29 歳	コミュニティセンターや公民館の部屋を借りる時、手順や予約状況がわかりづらかったので、もっと直感的な UI を作っていただけると幸いです。取りやすくすることで、様々な団体が活動しやすくなると思います。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
20～29 歳	日本人の貧困、学生の貧困(奨学金など)を棚に上げ、多様性の尊重や差別をなくすは順番が逆です。学生は困っています。まず、日本人の住環境、学ぶ環境を整えてください。安心して暮らせる日本であったはずが、外国人が増えることで最低限の安心すら守られなくなります。埼玉や群馬、栃木など、ムスリム系に強姦される女性の数は普通ではありません。
20～29 歳	岡崎市は地域のバスが少ないと感じています。高齢者の方はもちろん、障がい者、妊婦さん、誰もが気軽に乗れるバスを増やしていただきたいです。大型のバスではなく小型のバスを増やすと、運転免許証を返納した高齢者の方達の移動手段にもつながり、地域との交流も深められるのではないかと思います。
20～29 歳	助け合いたくない、支え合いたくない人はいないと思います。ただ、他者を助けるだけの時間的、経済的、精神的な余裕がないだけなのだと思います。逆に言えば、時間的、経済的、精神的余裕のある人や関心のある人から地道に巻き込んでいけば、助け合い、支え合うことができると思います。学校の部活動の地域化に便乗して、大人や誰でも参加できるようにしてしまえば、スポーツや文化活動による地域のつながりの形成ができるのではないのでしょうか。複合的な問題、何の問題でも相談できる秘密厳守の窓口と、薄く広いつながりを作る場所があれば良いと思います。少なくとも住民同士の接点を持てる機会があると良いと思います。
30～39 歳	同じ立場の人達で協力することにより一般人に迷惑をかけないようにし、行政がまとめ上げ、助けられるようにするべき。
30～39 歳	情報発信や啓発等の取組(地域や行政等々)を、まずはしっかりやる。
30～39 歳	地区・地域限定の SNS、ポータルサイトなど、ここで困りごとの共有や助け合いなどできるといいなと思いました。
30～39 歳	共働き世帯や核家族が増えており、自分もその一人。現在、地域の役員をしているが、土日の集まりが多く子どもと遊んだりする時間が削られ、もっと遊んであげたいのにと歯痒い思いをしている。地域活動について、削減できるものは削減し、デジタル化へ進むともう少し過ごしやすいなと思う。
30～39 歳	障がいのある子を産んだ時に、どこに相談すればいいのかわからなかった。保健師も全然情報をくれないし、頻繁に担当が変わり、何回も同じ通院歴や症状を伝えた。つながりがなさすぎる。近くに住んでいる同じ特性を持つ子を育てている家族を紹介するくらいしてほしかった。
30～39 歳	他自治体で問題になっているような、国単位での移民受け入れは慎重になっていただきたい。ある程度会社を通してなど、その人々の安全性、善性が保証された状態でないと、小さい子を持つ身としては不安です。
30～39 歳	地域もそうですが、私の場合は習い事での人付き合いがメインとなっています。子どもの部活もなくなると噂を聞くので、習い事に対する支援があってもいいかと思います。
30～39 歳	福祉・介護・保育で働いている方々・企業が、一般企業の平均並みの給与が貰えるようにして、障がい児・高齢者を支えるエッセンシャルワーカーの充実・確保もできるような岡崎市としても取り組み、働きかけていただけたらと思っています。
30～39 歳	情報や支援が必要な人に、いつでも使いやすい仕組みが提供されると良い。
30～39 歳	ある程度強制力のある制度がないと、町内会や自治会など地域団体へ関与しないし、関心を持つ人もいないと思う。
40～49 歳	ご苦労様です。共に良い岡崎にしていきましょう。
40～49 歳	今は心配はないですが、今後、親が亡くなったり周りの人が亡くなった時は不安を感じると思います。今後、岡崎市のまちづくりが充実されていると嬉しいです。

## IV 自由意見

年代	自由意見
40～49 歳	義母が東京で一人暮らしをしているのですが、最近、認知症を発症したようで、地域の包括センターの方にお世話になったり、その後、要介護の認定を受けることなど丁寧に教えていただき助かりました。そのような相談できる場があるというのを知らなかったので、多くの方に認知され活用できると良いなと思います。
40～49 歳	各町内での人と人とのコミュニケーションを充実させる活動が大切だと思います。私の町内でも高齢者が多く、若い人達とはコミュニケーションが少なく思います。また、他の地域から転入してこられた方も、日中は仕事等で忙しく、町内活動に参加できていないことがあると思います。この状況では、災害にあった時に孤立してしまう可能性や、特に高齢になって付き合いが薄くなってしまうと、孤独死ということも増えてくるでしょう。そうならないためには人が集まれる場所を増加させたり、民生委員だけでなくボランティアや企業なども参加してもらうことで良くなっていくと思います。個人的にはマルシェや岡崎特有の二七市は人が多く集まれるコミュニティだと思うので、特定の場所にこだわらず、いろいろな場所で実施してはいかがでしょうか。
40～49 歳	子ども医療費助成の対象年齢を 18 歳まで引き上げてほしいです。
40～49 歳	様々な情報は必要に迫られなければ(自分ごとにならないければ)見落とすこともあるし、残らないと思います。ただ、必要な時にわかりやすく、迅速に対応できるようになっているといいなと思います。
40～49 歳	孤立しないよう、職員や地域施設と連携を取って、切れ目のない支援ができるシステムづくり。職員の離職が多いとサービス低下になるので、給与や休日の見直し、配置を考える。重度知的障がいを受け入れ施設、入居施設を市で持ってほしい。民間に頼っている形になっている。
40～49 歳	同じ地域に住む方と支え合いたいとは思いますが、住民同士のトラブル、陰口、町内会の役職の押し付け合いなど様々なことがあると、なかなか難しいと思います。地域住人ではなく、岡崎市全体での居場所や機会づくり(自由に場所を選べるなど)を検討していただけたらと思います。
40～49 歳	60 歳を過ぎると一人暮らしができないので、そういう人の支援をしてほしい。部屋を借りる際に、月に1回訪問する、毎日の生存確認(LINE、ショートメール)。老人ホームの手軽版を市が行う。1階は子ども保育、子ども食堂、2階から基本1K の住居。1か月3万で全て込み。子ども食堂での食事は無料(住人のみ)。免許返納者はバス無料、タクシー半額。
40～49 歳	お互いが思いやりを持って生きていくことが大切であると思います。幼稚園・保育園、小学校・中学校、子どもの頃から、福祉に関わる体験や施設訪問等があるとより身近に感じるのではと考えます。勉強も大事だと思いますが、子ども達に時間の余裕ができ、心の余裕ができればと思います。大人も時間・心に余裕を持ち、子ども達の話聞く時間を持てると、子どもの心が育まれ、素晴らしい世界が作られるのではと思います。
50～59 歳	自分自身の知識不足の見直しが必要だと思いました。福祉に触れる機会を増やしていくため、アンテナを高くしていこうと思います。
50～59 歳	「支え合い」「助け合い」はとても耳ざわりの良い言葉ですが、実際には制度や仕組みがあまり知られていないと感じます。現実との距離も感じ、まず、声を上げにくい人の存在から目を向けることができると良いかと思います。実際、自分は自分と家族の生活で精一杯で、助けたくてもあまり余裕がないのも現実です。周囲と関わる時間もないです。それでも、誰かが気づけるような関係性や無理なく関われる仕組みがあると良いなと思います。
50～59 歳	ベーシックインカムの導入。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
50～59 歳	私の仕事は福祉とは違っていることから、詳しい内容などの理解はあまりありません。ですが、必要となれば積極的にできることのお手伝いをしたいと考えます。常に他人事ではないと考える福祉への理解を、幼少期から少しずつ子どもの教育の中に取り入れることが大事だと思います。遠いことにならないような考えを作っていく必要があるように感じます。
50～59 歳	「一生安心して暮らす」には、まず、日本の景気対策が一番重要。お金がない毎日は助け合い、支え合い、安心とはほど遠い生活。多様性とは言い方はとても綺麗ですが、外人の方が車を運転されていると怖くて仕方ありません。最近、本当によく見かけるので、すごく嫌な気持ちになります。日本語をしっかり理解し、日本の交通ルールを本当に理解して運転しているのか不安です(息子が日本語を話せない外国人と事故、まっすぐ走っていたら横からぶつけられました)。子ども食堂、これこそが日本の貧困の象徴。子どもが家でご飯をきちんと食べられない状況。日本は恐ろしい国です。
50～59 歳	日本は資本主義国で、最低限の福祉しか必要ない。企業には最低賃金を強いるのに、一方、福祉だ、ボランティアだと奉仕を強いる。また、役所は納税額に関係なく、一人の住民扱いをする。お金のない事業は全て切り捨てるべきで、成果を求めるべきではない。
50～59 歳	例えば、保育園以外で子どもを預けられる場所が町内にあると良いと思います。お時間に余裕のある方(例えば定年を迎えた方)が子育てを助けてくださる、子どもは町内の人みんな育てるという考えがみんなにあると、お母さんの負担も少なくなり良いと思います。
50～59 歳	近所の人にあまり干渉されるのは望まない。困った時に気軽に相談できる場所と、困っていることだけの支援をしてもらえたら嬉しいです。融通が利くシステム。
50～59 歳	過去と比べて地域交流が激減。困ったことがあってもオープンにできない、個人個人で抱えてしまう時代。ボランティア活動参加を促す→ポイント制を取り入れるなど。地域ごとに情報発信強化。
50～59 歳	最近では WEB 回答というアンケートもあるようなので、今回は紙のアンケートということもあり、乱筆ながら回答させていただきました(自分もスマホ依存的なことはありますが)。「必要な情報は HP を見てください」と謳う民間、公共の多いこと。残念に思います。WEB 情報の場合、自分が必要としているページにたどり着けるのか? たどり着けないまま断念することも。見えない情報に不安を感じます。昔ながらの冊子情報でしたら、全体像がわかり、目次から自分の必要なページを見ることができます。
60～64 歳	特に、災害が起きた場合に地域の助け合いが必要となると思う。個々の考えや価値観もあるので、それが押しつけになってもいけないと思う。プライベートを大切にしている人もいると思うので無理に地域との交流をする必要もないと思うが、自然とつながり合える場があると良いと考えます。
60～64 歳	今のままで良いと考えます。
60～64 歳	ごみ収集カレンダーは色がついていてとても見やすく、要項が押さえられていると思う。このように地域福祉についての一覧を、関係性がわかりやすいように連絡先も含めてまとめたものを作ってもらえれば、一家に一枚貼っておけるような気がする。
60～64 歳	家の中だけでなく外に出て活動している人には、人は皆平等で、互いに助け合い尊重していくことの大切さを学ばせる方法は多々あると思います。聞く機会を増やし、意識向上ができるよう学んでもらえばいいかなと。しかし、ほとんどが町に対しても市に対しても非協力的で、「どうでもいい」「自分さえ良ければ」「私には関係ない」等、非現実的な人達ばかりです。関心を持ってきてくれる方々に、いち早く「互いは平等で互いに尊重」の意識を抱けるような仕組みづくりを願います。

## IV 自由意見

年代	自由意見
60～64 歳	税金の使い道として、国民への支援となる適切な方法とすること。
65～69 歳	自立支援、また、自立していくためのサポート、情報提供等が必要。高齢者への介護保険料、健康保険料の負担をもう少し減らしてほしい。
65～69 歳	公園が近ごろ、暑い日が続いているためでもあります。子ども達等が遊ばなくなり早々に草が生えてしまい、皆が集える場所が少なくなってきました。大きな木の下ですが、お年寄りがぽつりと草の中で座られている姿をよく見ます。子ども達の声が聞こえ、お年寄りが集まれる場所があればと思います。
65～69 歳	個人情報と言われると、なかなか近隣の方でも踏み込んでいけない。普段からの付き合いが大切だと思う。
70～74 歳	老人ホームに入居しています。そのため、地域での生活はほとんどありません。元気なうちは近所の付き合いがある方が、できるだけ家で長く住めるので良いと思いました。閉じこもりがちの方もあると思うので、居場所づくり、そこへ行きたいと思える外からの働きかけがあると良いと思います。
70～74 歳	体が不自由なため、自分のことで精一杯です。
70～74 歳	それぞれの得意なことをみんなに教える場所を作る。話をする場所とする。
75 歳以上	あらゆる 75 歳以上、または世帯には、地域の人(支援者)がふれあい(話し相手)する取り決めをしたらと思います。さらに、災害発生時の対応は大切です(高齢者は他人に迷惑をかけないように生活している、支援者がいることをほとんどの人が知らない)。
75 歳以上	町内で組合に入会していますが、町内会で年に総会があり、役員の決め事でなかなか決まらず最近はいくじ引きが採用されますが、高齢者では負担が多くのかかり頭の痛い話です。何か対策でもあれば。
75 歳以上	物価高が早く直してほしい。市民が詐欺被害に遭わないように。
75 歳以上	高齢者が出歩ける足(交通機関)を増やしてほしい。
75 歳以上	身勝手な言動により支援とか福祉の必要性が発生すると思うので、根源をなくしていくこと。私的な利益は避けること。
75 歳以上	高齢のため施設入居しています。家族が聞き取りながら記入しましたが、考えることは無理だと思います。
75 歳以上	住民同士がコミュニケーションを取りやすくするために、近くで集まれる場所があると良い(夕刊を参考)。100 円喫茶店のようなところ等、年金者には安く設定してほしい。健康を確保し医療費を少なくするため、市、県の体育施設に冷房を入れてほしい。卓球台の常設(安城、西尾あり)、グランドゴルフ場の常設(幸田町)。いろいろな人と知り合い、助け合う機会になり得ると考える。南公園の中に作ってほしい(子どもと老人と楽しむ)。
75 歳以上	上地町に住む者ですが、町バスというのか、車に乗れなくなった時、もっと頻繁にバスを走らせていただけるといいと思います。食品の買い物、医院に行く時、運転ができなくなると困ります。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
75 歳以上	高齢者一人住まいで足腰が弱い人、選挙の時も社会の一員として投票に行きたいが行けない人に対して、近所の役員さん達が声をかけて同乗便に乗せてくださったらとの声もありました。バスの回数券とか時間を決めて、バス通りでなく中道を何時通過とか決めて走らせていただくと、老人・若者も認知症にならずに、ショッピングセンターなどの外出の機会を得て、楽しく社会の一員として生き生きとした潤いのある生活が送れると思います。生ごみを指定日になかなか出せない者です。高齢者で2人とも足が悪く、1か月に1回、娘が県外から来て出してくれる日まで待っています。近隣の人には頼めません。こんな人のために届出のあった家庭のみ、玄関前に出す方法を検討していただきたいと思います。お願いします。ごみ出し時間を含むヘルパーさんは見つかりませんでした。
大平圏域	
20～29 歳	丸山町の住人はあいさつをしない。あいさつができるようになると良いですね。大人は手遅れなので、保育園・小学校などであいさつをする習慣をつけるようにすれば良いと思う。あいさつをしない学区で長く暮らしたいと思わない。
20～29 歳	私は元々岡崎出身ではないです。こちらに来て思ったのは、「回覧板」「その市の集まって話すこと」「お祭り」等がないことにびっくりしました。なので、そういうものを増やすべきだと思います。
30～39 歳	高齢の一人暮らしの方は移動も大変なので、病院に行くのも大変だと聞いたことがあるので、市が負担して無料のタクシーなどのサービスがあると良いと思う。
30～39 歳	大雨などで道路の冠水、住宅の浸水の水害が近年多く発生しているので、排水設備や対策をしっかりとしてほしいです。高齢者が増えてきているので、車がなくても暮らせるよう公共交通機関等の利便性の向上を図ってほしいです。
30～39 歳	市における活動に対する周知をもっとすべきと思います。活動を知らない状況ではボランティアに参加する機会すら知らなかったり、良い仕組みを受けられるということすら知らないということになり、機会を損失してしまうことになりかねません。何らかの福祉に対する補助も充実させた方が良いかもしれません。
40～49 歳	多様性は尊重しつつも、犯罪のない安心して暮らせる仕組みづくり。
40～49 歳	一人暮らしの高齢者世帯へのポットや TV スイッチのオン・オフモニターなど、異常検知システムの導入支援。
40～49 歳	本当に困っている方はなかなか気づけないし、支援も行き届かないのだろうと想像します。ご本人も気づいていないこともあるのだと思います。できる人ができる範囲で優しい心遣いのできる社会が、当たり前になっていくことを願います。
40～49 歳	情報発信として、市政だよりの見やすさ改善が必要と考えます。2025 年9月を例に挙げると、まず、色の使い過ぎ。体験イベント(公園など)は緑色、子育ては赤色など、後半も緑色を使ったり、きつと使える色が決まっていたりこんなことになっていると思うが救急医療情報ページが何よりも見やすい。インデックスが左にしかないが、個人的には右にもあると目に入りやすい。今回、アンケートのためにじっくり見たからインデックスの存在に気づいた。市政だより 29 ページの「相談先が分からない福祉相談」の項目が、下から2つ目と気づきにくい。例えば、子育ては産婦人科・定期健診など、市政だよりのここに相談先が書いてありますよと声かけのチャンスはいくらでもあり、気づくチャンスは多々ある気がするが、突然舞い込んだ問題を判断能力が低下した方達が見つけれられるよう、地位向上を頑張してほしいです。5月まで介護を経験した母の様子を見ていて、この場所で相談できるよと言っても行く時間も気力もなく、私が無理やり連れて行ったりした。自分のことのように考えてくれる人でも、なかなか力になれない難しい問題。バーチャル体験できるゲームなどがあったら、自分事として考えられるかもしれない。

年代	自由意見
40～49 歳	<p>エリアごとに特色を出し、そのニーズがある人はそのエリアに住むとか(ex:アメリカの老人エリアみたいな)。老人ばかりが住んでいてコミュニティ内に病院があり、バスがあり、スーパーがある。必要な施設にすぐアクセスできる。スペイン、オランダ、フランス、イタリアに数か月、アメリカ、イギリス、スウェーデンに数年住んでいたが、ホストファミリーや近隣の人も働いているから、そんなに密接なご近所関係はなかった。しかし、教会文化があるのでお互いの家族を知っていて、相談やイベントをそこでしていたように感じる。今、仕事として日本に住んでいる外国人と毎日話をしているが、西洋の人、ブラジルの人は日本に来て教会文化がある人は孤立しておらず、日曜に会う教会の人が日本語を教えたり、仕事を斡旋してくれたりしているように感じる。昔の日本では、教会文化にあたるのが祭り文化だった。老人は知識がある人と敬われ、子ども達も地域貢献をしていた。お葬式や結婚式も同様の役割を果たしていたが、それがなくなった今、どうコミュニティ感を出すのか。防災活動や子育てが鍵な気がする。コミュニティ感があれば人は孤独にならない。制度を整えてもコミュニティ感がなければ孤独は残ると私は思います。孤独をケアしたいのか、それとも制度を整えるのか、それによりアプローチが違いそう。両方大切だと思う。いつもありがとうございます。</p>
40～49 歳	<p>緊急時の対応はするべきと思いますが、普段の生活をお手伝いする時間や余裕はありません。これに関しては行政が関わっていただいた方が、受ける側も安心すると思います。</p>
50～59 歳	<p>仕事があり、協力が難しい。定年になれば協力はさせていただくが、どのように関わっていくかよくわからない。市役所からの発信力に期待したい。</p>
50～59 歳	<p>梁野地区は比較的仲の良い町内だと思います。年1回、町内 BBQ を開催したり、年末にお宮さんで有志のイベントを行ってくれたり、参加しやすい体制ができていると思います。しかし、高齢化は進み、町内の行事に参加する方も年々減り、空家に入られた新しい住人の方々はあいさつはするものの町内活動には不参加だったりするので、課題はあると思います。</p>
60～64 歳	<p>居住する地区は一戸建ての戸数よりも集合住宅の戸数が多く、出入りも頻繁で住人の顔も名前もわからない。集合住宅単位の自治体を設けているところもあるようだが、その枠の中でしか交流が生まれにくい。集合住宅の「壁」をなくすことは大変難しいことだと考えるが、宗教や政治などのデリケートな事柄ではなく、スポーツや趣味などの共通の話題から溶け込めるような環境や場を、町内や地区対抗で楽しめるように設けてほしいと思う。</p>
60～64 歳	<p>岡崎市は家族で出かけられる施設がない。南・東公園以外にも、室内・外で遊べる施設がほしい。</p>
60～64 歳	<p>近年、無差別殺人、ストーカー、虐待等、安心して暮らせない状況がたくさんあります。日頃からの住民同士の付き合いにより防げることもあると思うので、せめて近隣の方、町内の方が気軽に話せる環境づくりをする等、対策を考えてほしい。</p>
60～64 歳	<p>今や共に助け合うなんて無理だと思います。家の周囲は独居、老人ばかりで、若者は共働きで自分の親をみることもままなりません。市がイニシアチブを取って、組織ぐるみで高齢者もみてほしいです。産まれた子、母親を訪問するように、高齢者も保健師さんと介護者で見守り活動をしてほしいです。あと、母が認知症で介護認定を受けてデイサービスに行きたいと思っても、整形のリハビリに行っていると介護認定を受けた段階でリハビリができないというのはおかしいと思います。腰が悪い人で認知症の人は結構みえると思うので、考えていただきたいです。</p>
70～74 歳	<p>私は現在の生活に満足しています。隣近所は古くからの付き合いが続き、お互いを尊重し深く干渉はしないようにしています。地域は平穏に満ちており、毎日が穏やかに過ぎていきます。感謝の気持ちを絶えず忘れないことを心がけています。</p>

#### IV 自由意見

年代	自由意見
75 歳以上	終活活動の一環として、相続対策もあり不動産(家・土地)の処分をして、現在は「サービス付き高齢者住宅」に移り住んでいます。施設の外の町内等の外部と全く交流はありません。災害や介護等の心配もなく、所内での個人同士の交流もあり全く孤独感もなく、まあ快適に過ごしております。本アンケートの質問には必ずしも有益な回答ができなかった点(特に外部交流)があり、申し訳なく思っております。
75 歳以上	奥岡地域(中山間地域)は、人口の減少、空家の増加、過疎化が進み、子どもも労働人口も低下し生活環境も不便になる。免許証の返納により、生活行動範囲も限られる。奥岡地域の高齢住民福祉のための各地区の拠点づくり、情報の提供及び相談ができる場所づくりを急いでほしい。
75 歳以上	バスが通っていないから、バスを通してほしい。
75 歳以上	岡崎は住み良いところと同市から出た人からよく話されます。どうぞ、今後ともよろしくお願いします。
東部圏域	
30～39 歳	保育園を育休を理由に出されるのは辛い。空いていたら入所させてくれたらいいのに。なんで働いていない幼稚園の子は入れて、保育園の子は入れないのか謎。幼稚園も保育園の待機の間に入所はダメと言われた。助けてくれる親がいない中、ワンオペで赤ちゃんとおの子を育てるのがどんなに大変か。ファミリーサポートとかあるけど、前もって面接して予約してって、急に必要、助けてほしいから利用したいのに。そういう孤独を感じている時に、高齢者とかが助けてくれる、誰でもいつでも行ける集いの場がほしい。ちょっと話を聞いてほしいとか、おじいちゃん、おばあちゃんに関わると、いつもとちょっと違う人と話すだけで気分転換になると思う。ママとか子育てサークルとか、逆に「みんなすごいな」とか思って余計に落ち込む。おばあさんの特技とか趣味とか、家事とか料理のこととかアイロンの仕方とか、親がいないママに教えてくれたりしたらお互い交流にも良いかも。裁縫もできない私。野菜の育て方とかも教えてほしい。
30～39 歳	小学校や保育園(年長児)で、年に1回でも福祉に関するお話や授業を受けるようにする。
40～49 歳	何か困ったことがあった時にどこに相談したら良いのか、子どもから大人までわかるようにしてもらえると良いと思います。
40～49 歳	今回のアンケートをいただき、少しでも考えるいいきっかけになりました。ありがとうございます。アパート住まいなので、やはり地域の人達からは「別」と思われている感じがします。少し寂しいです。
50～59 歳	高齢者のみの世帯が一つの場所に集まり、小さな家でもそれぞれ暮らしていける場所がほしいです。施設に入るまでもないが、車の運転が心配、病院への往復ができないなど、困っている高齢者が多いと思います。一つの場所(地区)に集まって生活すれば助け合うこともでき、また、送迎バスなど導入しやすいかと思います。特に、アウトレットの近くにあると歩いて賑やかな場所に行くこともでき、活力が湧くと思います。よろしくお願いします。
50～59 歳	福祉に関する情報の提供と各家庭の状況把握が必要。近所には、高齢の夫婦のみで生活している家庭も多い。生活(買い物・通院)するためには、80代でも車の運転をしています。例えば、そういう家庭がどれくらいあるか、把握しているのでしょうか。いくつまで運転させるのか、しなくちゃいけないのか。必要ならば転居の提案、相談、必要な時に送迎依頼できる仕組みもあったら良いと思っています。もしかしたらあるのかも？だとしたら、情報の提供方法は完全ではないような気がします。今後も、市民のためにご尽力いただけるよう期待しています。よろしくお願いします。

年代	自由意見
50～59 歳	岡崎市に住みたいと思えるようなまちづくりをしてほしい。福祉やいろいろと財政困難はわかりますが、近隣の方がいろいろと制度が整っている。
50～59 歳	問 21(近所で困っている人がいた場合、「日常生活の中で私にもお手伝いできる」と思うことはありますか)であったような小さいボランティア(もしくは少額の有償)が、誰でも気軽に利用できる、気軽にボランティアすることができるような仕組みを作って、広く告知も必要ですが、皆がよく知っていて参加できるのが理想です。
50～59 歳	年々、町内会の役員の負担が増えていると感じる。この負担に加え福祉に関する負担が増えることで、さらに町内会の担い手が減ることが予想される。町内の助け合いによる福祉対応が必要であれば、現状の町内会活動の負担を減らした上で実施すべきである。
60～64 歳	申請しないと得られない福祉サービスなどの情報を、たくさん発信してほしい。
65～69 歳	過疎地、その他中心市街地周辺の利便性の向上は行政でしかできない。移動手段がなくなった高齢者にとっては、住みにくい地域が拡大している。これまでは地域に生鮮食料品店があったが、どんどん減っている。車に乗れなくなると、途端に日常生活に支障をきたす。行政は経年負担が生じる箱物づくりから、住民の生活の利便性向上に向けた取組を行ってほしい。
70～74 歳	昭和世代の私達が平成生まれの人達に対して声かけをするのは、なかなか難しいものがあります。それと、若い方は多くが働いてみえるので。助け合いの前に、隣人の人達との関係をスムーズにしていかななくてはと思います。
70～74 歳	市民センターや公民館を活用して、生涯学習やふれあいの機会をもっと増やし、皆で声をかけ合える街にできたらと思います。
70～74 歳	今日の生活環境(隣近所との付き合い方、人口減＝高齢者宅増・一人暮らし)を考えた場合、きめ細かい福祉環境づくりが必要です。町によっては毎月、高齢者住宅等への訪問を実施しているところもありますが、一方で一人暮らしで要介護者宅への訪問もあり、市全体としては一律でない認識している。福祉活動を実施されている人には頭が下がります。訪問を希望するお宅も重要ですし、訪問する方の高齢化が進んでいる。岡崎市がさらに住み良い市となるように、人材育成&組織づくり・組織へのバックアップ等を期待している。例えば、お茶代・粗品代といった福祉事業に対する補助金増を願う→町の予算会計には差が大きい。
70～74 歳	どのような活動も、財源の裏付けがなければ十分なものにならない。市が地域福祉に力を入れているかどうかは、予算を見ればわかる。このような方面の予算を増やすことを要望します。
70～74 歳	地域福祉とはかけ離れているかもしれないが、現在、72 歳で在宅で生活している。日々、車での生活だが、車なしの生活になった場合の生活を大変心配しています。
75 歳以上	私自身、後期高齢者になっているのでこれから世話になることの方が多くなると思うが、できるだけ周りの人に迷惑をかけないように、普段から健康、特に足腰を鍛えるように心がけていきたいと思っています。それと、周りの人と話ができるように話題を広げていきたい。
75 歳以上	私は今年6月末から7月にかけて右手首を骨折した時、食事の準備に週2回お願いしようと思い頼んだのですが、ヘルパーがいらないと言われ断られました。残念です。それとともに、今後が思いやられると心配になりました。
75 歳以上	高齢になり免許返納をしたいと思っても、医療や買い物等、車がないと生活できない。乗り合いタクシー等、充実を図ってほしい。
75 歳以上	いざとなった時、向こう三軒両隣とお付き合いが大切だと思います。常日頃、話し合っていて仲良くできるような努力が必要だと思います。町内会、老人クラブ、年金友の会等で、友達を広げることも大事だと思う。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
岩津圏域	
20～29 歳	安心して暮らすために、暗い道、怖い道を減らす。街灯をつけたり、防犯カメラをつけたりする。ごみ捨て場のカラス対策、カラス避け。安心して子どもが遊べる公園づくり。日陰を作る、草を刈る、清潔なトイレ、安全な遊具(古くない)。丁寧な保育をしてもらうため、保育士の現場の意見を聞き、ちゃんと反映する。仕事量や内容、質に応じた給料←様々な立場のリアルな意見を聞くために、一人ひとりにこのようなアンケートがあると良いと思う。
20～29 歳	困っていることの相談に対して、町内会、自治会などは個人が特定されるため相談先にはならず、市役所の窓口も相談する選択にはならない。具体的な内容を相談の橋渡しをする業務に徹していただき、相談先の充実をお願いしたい。
30～39 歳	自分のような若い世代が地域社会に助けてもらっていないのに、ハンデを抱えた人や支援を必要とする人を助けるというのはなかなか納得がいかない。現役世代への支援をまず先にし、恩恵を受けた人が他の人を助ける構造を作ってほしい。「助け合い」は絶対に無理だと思う。助けを必要とする人が誰かを助けることができるとは思えない。せめて現役世代にメリットがないと、他の市に転居を考える。
30～39 歳	アンケートを通じて、いかに自分の知らない福祉団体が多いのか、また、福祉に興味を持っていないかがわかりました。学んだり、実際に支援したりなどは、モチベーションとしてその人の経験だったり心の持ちようだったりするのではと感じました。地域内での活動はやはり相手が見えない以上、警戒せざるを得ません。家の前にはいつもごみをポイ捨てする人がみえますし、目の前で煙草を捨てる方も見たことがあります。外国の方に関わらず、近隣には一人暮らしのような(偏見かもですが)、そのような方々が増えているように感じ、温かい心の交流ができるようには現状思いません。悪い意味で都会化してしまったのかなと感じてしまう日々です。
30～39 歳	これからは家族の助け合いでは無理があります。高齢者になり、買い物、病院の通院等で不自由な生活をされている方に対して、町内地域でちょっとしたお手伝いや助け合いをしていただける制度があれば良いと思います。病気や怪我をした時に不安のない生活環境になれば良いと思います。
30～39 歳	若者・現役世代に対する支援が少ないと感じる。恋愛・結婚に関する支援を充実させてほしい。
40～49 歳	耳が聞こえないため、地域の人達は手話ができる人があまりいないため近所の付き合いが全くないし、あいさつできていない。そういう人達がいなくなるように手話ができる人を増やして、情報交換、支え合いがある、そんな地域になれたらと思っています。優しい福祉の市になってくれたらといつも思っています。今後、どのような活動をしていくか楽しみにしています。頑張ってください。
40～49 歳	地域のごみ拾いや防災訓練を通じて住民同士が知ることができる機会を増やし、結果、助け合える関係が構築できると思います。市には、可能な範囲の助成金で活動を援助してほしい。
40～49 歳	地域住民で助け合うことが一番近くて動きやすい案となると思うが、最近の地域環境では近隣と付き合いことはほぼありません。助けられる側も近隣の方に助けてほしいというより、迷惑をかけたくないという思いの方が多いのではないかと思います。今はデイサービス等が多いのは、その理由があるからだと思います。市としては、常に情報提供・発信をしていただきたいです。福祉の窓口で相談した場合、いろいろな連絡先を聞き、たらい回しにされないように明確にしていきたい。少しでも面倒、わからないが発生すると、相談もなくなってしまうのではないかと感じています。

年代	自由意見
40～49 歳	看護師として働いており、地域でも何か協力できることがあればしたいと考えています。しかし、何をしたら良いのかがわからず、結局、何もしていません。地域に住んでいる医療従事者をもっと活用したら良いと思います。何か声をかけていただければ、私は参加できる時はします。
40～49 歳	私自身が障がい者グループホームに住んでおりますが、町内会とグループホームの接点がないように思われます。町内会自体が任意団体ですので権限が乏しいですが、町内会長を岡崎市の非常勤にする等、権限を与える方法はあるかと思えます。また、高齢者見守りのための講習会(市民講座)を開いて、啓発活動を進めていくのも良いかと思えます。問 47(地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、今後市では、どのような支援を行う必要があると思えますか)で、「10.学校等での福祉教育の充実、福祉を学習する機会・場の提供」としたのは、見たことがないものは理解できないという視点からです。岡崎市の公式 LINE 等で福祉をアピールするのも良いと思えます。
40～49 歳	地域福祉が市民にとって強制にならないことを願います。イベントごとなどの企画をして、人数集めを町に任せるのは負担しかない。人数が集まらなくて不参加の場合、出不足金って意味がわからない。
40～49 歳	高齢化になるにつれ車の交通量も多く(トラックも通る)、道路沿いの草刈りも大変です。三河管理課へ電話しガードレール沿いの草刈りをお願いしていますが、年に1回しか来れないと言われたことがあり不便です。道路へ出る際、ガードレール沿いの草がボーボーで車が見えません。隣の高齢者の方も事故をしそうで危ないと怖い。草刈り機の取扱いも高齢者になるにつれ危ないし、怖くてできません。車の通りも多いので年に1回では無理です。すぐ草が生えてきます。どうか高齢者にも優しい岡崎にしてください。
50～59 歳	免許返納の際のメリット・サービス拡充。
50～59 歳	昔のように隣近所のお付き合いがもう少し上手くできるような環境づくりがあれば、高齢者の将来の不安や孤立も軽減できると思えます。老若男女問わず、近隣同士の交流できる機会をもっと増やせるような仕組みをもっと作っていただけたらなと思えます。高齢の父は毎日散歩をするのが日課ですが、公園で子ども達やママ達がたまに声をかけてくれることがとても嬉しいようで、家族に生き生きと話してくれます。
50～59 歳	町内の人々の年齢が高齢化しており、町内会のシステム(組長など)を引き受ける人が年々減っているため、町内会のシステムを現代に相応しいものに変えていく必要があると思えます(回覧板をやめて、スマホや PC で見れるようにするなど)。不在などで家を回って町費の回収も難しいので、負担が大きいです。町内で助け合う仕組みづくりの中に、町内会のあり方の変革も市政の方からお願いしたいです。
50～59 歳	細川地区は特に高齢化が進んでいます。病院などに行くことが簡単にできるよう、地域バスをもっと充実させるべきだと思います。今は名鉄バスしか走っていません。高いです。あと、子どもが遊べる交流館(北斗会館はあるが子どもに特化していない)が一つくらいあると、若い人達が戻ってきて、ここで安心して生活を送れるようになるのではないのでしょうか。
50～59 歳	まずは、どの団体が具体的にどのような活動をしているのかわからない人が多いと思えます。周知活動をしっかり行って知ってもらうことから始めて、少しずつ活動を広げていくことが大切だと思います。期待しています。
50～59 歳	高齢者を抱えているご家族がたくさんいると思えます。その家庭内のことですが、デイサービスに行きたくても行けない人もいます。高齢者が集まったの交流会があってほしいものです。一人暮らしのお年寄りの見守り隊とかがあれば助かります。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
50～59 歳	9月に母親と子どもの無理心中の事件があって、とても悲しい気持ちになりました。困っている人(高齢者・一人暮らし・シングルマザー・外国の方等)が遠慮なく相談できるように、窓口を充実してあげてほしいです。一度、町内で確認のためにも名簿などを作り直して、困っていそうな方がいたら声かけをすとか、市役所の方に連絡を入れるとかできたらいいかと思いました。自分からはなかなか困っているとは言いにくいと思うので、周りの方がそこに気がついて対処していただけたら少しでも良くなるのかなと思いました。
50～59 歳	昨今の生活の多様化、プライベート・プライバシー保護により、昔ながらのやり方が現在の地域福祉の構築につながるか不明。人を集める、参加いただくスタイルは難しいと思うので、困った時の駆け込み寺を充実させていくのが効果的ではないでしょうか。
50～59 歳	高齢になり免許返納などをした時の交通手段の充実があると良いなと思います。各学区でハイエースなどの乗り合いバスのようなものがあると良いと思います。六ツ美地区や北斗台で実験された電気バスのようなバスがあると良いかなと思います。
50～59 歳	困っている人が助けてほしいと気軽に言える場所があり、時間にゆとりがあり、ボランティアをしたいと思っている人が地域で支え合うシステムができればいいと思います。家の中に他人を受け入れることはなかなかハードルが高いと思うので、その辺りが課題もあり、逆の場合もあり、難しいところではあります。車いすの人が出かけやすい環境づくりをこれから望みます(砂利道は通りにくい、段差もきつい)。
60～64 歳	交通手段が自動車しかない場所に住んでいます。市の中心にはバス等があり困らないと思いますが、この辺りは非常に不便です。今はいいのですが、高齢になった場合の不安を感じている。不便な場所ほど、公共の移動手段が必要だと思います。近所には便利な地域への引っ越しを考えている方も多いです。現在、困っている方も増えています。暮らしやすく、サービスの整った岡崎市となればありがたいです。
60～64 歳	ひとり親とか高齢者の方や障がい者の方々に、お声かけとかコミュニケーションを取っていくのが大切ですね。子育てをするにあたってお金の面とか大変だと思うので、市の意見でひとり親の援助とかをもっと増やしてほしいです。
60～64 歳	地方から移住している人が岡崎市は多いと聞いているので、地域福祉はどのように進められているのか。いずれ、頼りにするにはどんな方法なのか。
60～64 歳	家族関係の変化、地域住民の関係の希薄さ、他者に対する無関心等、地域で助け合う意識は低くなっていると思われる。本人や地域住民の努力も必要だが、行政による交流の場(顔の見える関係づくり)の提供が必要だと思う。
60～64 歳	ある程度予算も必要だと思うため、無駄なことに使用せず、本当に必要なところに予算を投入する。
60～64 歳	地域の助け合いや福祉活動の拠点となる場として、小学校をもっと活用できないものかと思います。子どもの居場所や相談、子育てを通じた交流の場としても、小中学校の敷地や空き教室を利用してほしいです。
65～69 歳	もし今、自分が福祉の支援が必要となっても、その相談窓口にたどり着くまでの道(方法)がすぐに思いつくか不安。
65～69 歳	困りごと、相談ごと他、とりあえず近くの支所にて窓口を充実してほしい。
65～69 歳	共働き家庭が当たり前となり、子ども達も0歳から保育園等に預けられ、団地内で子どもや大人が交流する姿はなくなっています。子供会や PTA 行事等も止める傾向にあり、本当にこのままで地域づくりや人と人とのつながりを作っていくのが不安です。「仕事だからやれない」「地域の役員は無理です」との言葉はよく聞きます。コミュニケーションや交流が取れない中、いざという時にどうやって助け合うことができるかを考えるのが大切だと思います。

年代	自由意見
65～69 歳	地域の道役でもう少し綺麗にしてほしい。この夏、市道に草が大量に生えている。道役だけでは取り切れない。市にもう少し生活住民の声を聞いてほしい。特に、高齢者の人の家は管理できない。物価高の中、無料の福祉、ボランティアが気軽に頼める窓口を作ってほしい。福祉を受けるにも、手続きが大変すぎる(時間もかかりすぎ)。
70～74 歳	高齢者社会において、生活支援、医療関係で安心して生活できるような環境づくりを促進してほしい。
70～74 歳	暗い夜道には街灯が必要ですが、全く真っ暗なところがあります。通学道路や一般道路で暗いところには、街灯が必要であると思います。また、一生安心して暮らすために防犯カメラの設置も増やしてほしい。免許返納をするとどこへも行けない。よって、病院、商業施設、役所他、巡回するコミュニティバスがあれば嬉しい。
70～74 歳	地域福祉の問い合わせは市で一つにして、そこから各担当窓口案内して相談できるようにしてほしい。よって、いつでも気軽に相談できると思います。
70～74 歳	地域福祉なので、いかに住民に PR する必要があると思います。
70～74 歳	地域での助け合いがないと思います。時代的に、プライバシーの保護や情報の漏洩防止が強く、気軽に声をかけることが難しくなっています。周りでも、高齢者や子育て世代の孤立を目にします。困っていても相談する人がいないように見受けられます。相談されても、責任もありますので難しいです。気軽に安心して声かけられる場があるといいですね。
70～74 歳	高齢になると家から出ないことが多く、人と関わることが少なくテレビが友達になります。介護の度合いもなくサービスも受けられず、何かできるといいなと思います。
70～74 歳	私達は、子どもが小学生の時までは近所の人達と仲良く付き合っていましたし、互いに相手の家族の生活内容も意外と知っていました。ところが、高校を卒業したぐらいからあいさつをする程度に変化し、それぞれの子ども達との会話もなくなりました(これは、見栄や引け目を感じたくないから当然のことだと思います)。子ども達もそれぞれ家を離れ、一部は同居しますが、できても自分達の子育ての時とは異なり、干渉をし合うこともなくなりました。また、老後のこともそれぞれの生活力の違い等もあり、笑って話し合える状態ではなくなりました。したがって、段々と周りに迷惑をかけたくないという思いが強くなり、それが支え合いを阻害しているのかもしれない。だから、支え合う前に笑って接する機会が増えれば、互いがわかり、支援し合うための基礎ができるのかもしれない。また、笑って接する機会は経済的負担がなくできることが前提で、その回数が増えれば会話をすることが増え、会話をしても心配ないとの安心感が増え、身の上話もできるようになるのかもしれない。また、そのためには一つの例として、1回 50 円ぐらいでコーヒーやお茶を飲めるカフェスペース(仕切りなし)を準備するのも手かもしれません。そのような場所が用意されたら、私も行って時を過ごしたいと思います。
75 歳以上	運転免許を返納したいけど、代わりに足がなくなるのでできません。
75 歳以上	今の日本は情報過多で、しかも犯罪や事故など暗いものも多く、諦めや悲しい気持ちになる。その上、値上げなど経済的基盤にも不安がある。人への思いやりの気持ちは多くの日本人が持っているが、心身ともに不安定な時に他人を思いやる余裕は出てこない。行政への期待は、福祉への活動や支援を力強く推し進めていただくことだと思います。小中高の学校での集団活動(文化祭、体育祭、ボランティア活動)の推進は、身につく福祉の精神につながると思います。
75 歳以上	家の地区(周り)で盆踊りをやっているところがないので、このような行事があると嬉しく思っています。
75 歳以上	高齢者なので個々の問が大変難しく思いました(お世話になる方です)。
75 歳以上	判断力の低下した高齢者に、このアンケート回答は難しいと思われます。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
75 歳以上	個人情報の機密が叫ばれており、近隣の事柄に関心を持つのがタブー化されている昨今、地域住民の団結は著しく難しいと考えられます。この偏重を取り除くことが、助け合いの大きな前進になるのではありませんか。
75 歳以上	市の根本から改革をすべきだ。古くからの住民と新しく越して来た住民の溝。よそ者扱いする古くからの住民が多すぎる。町内会費が高すぎる。老夫婦2人きり、5～6人家族と同一であってはならないと思う。市役所が町内会に丸投げしている。何でもかんでも町内会に押しつけている。市職員がもっと働くべきである。市長がもっと町内会を回って、実態を把握すべきだ。市議員が多すぎる。もっと小さく効率性向上を図るべきだ。
75 歳以上	災害は何時起きるかも、どのくらいの規模で起きるのかもわからないので、対策としては様々な規模に対して対応を考える必要があると思います。また、明るい時と暗い時では全く条件が変わってしまいます。ことさら年寄りにとってはさらに見づらくなってしまい、行動がままならなくなるでしょう。時間帯によっては若い人達が家にいて頼りになるでしょうが、少し時間がずれると会社の規定に縛られている若い人達は地元の活動はしておらず、会社に行かなくてはならないかもしれません(町内の役を割り振られて、町内会の脱退を考える人もいる)。市から会社に対して、災害時の対応についての協力依頼の呼びかけをしておけば、多少若い人が行動しやすくなるのではないのでしょうか。
矢作圏域	
20～29 歳	正直、全ての人々が満足できる行政サービスは不可能と考える。各案件のプライオリティやできないことに対する理由付けなど、何事にも説明できる体制を整えてほしい。今やれる範囲でこんなことをできていますと、もっと市民にアピールした方が良い。地域福祉に対して「何をしてくれているのか」さっぱりわからない。
20～29 歳	現在、町内会での掃除がとても多く、働きだしたり(育休中)した時に参加できるのか、子どもとの時間を割いてまで参加する必要があるのか悩んでいます。しかし、近くに町内会が設置したごみ捨て場がないため、町内会を抜けたらどこに捨てればいいのかもわかりません。そもそも、田んぼを持っていないのにどぶの掃除をさせられたり、不満はありません。市では、そのような掃除等は管理していないのでしょうか。出ないと3,000円払うように強要され困っています。新堀町です。
20～29 歳	外国人が多く住むと治安が悪くなるので、できれば就労している人以外の外国人は住まないでほしい。
30～39 歳	問 38(あなたのお住まいの地域に外国人が増えることについて、どう思いますか)の外国人住居化増量についてですが、中国人は個人的にも世間的にも嫌われていると思うし、転売ヤーに中国人が多いのも事実なので、極力避けていただきたいですね。
30～39 歳	高齢になるにつれて、医療や介護などお金がかかることが多いです。若いうちから、どの程度の蓄えがあればいいのかななどの教育があるといいです。デイサービスや介護用品のレンタルなど、若い人達には不明な料金のもので多いです。また、介護がなるべく必要にならないように、運動する場所(高齢でも行けるような低価格で室内のところ)を遠いと行けないのでげんき館以外にも設けるなど、元気なうちから備えることの大切さを教えてほしいです。
40～49 歳	自治会・町内会を担う長になる方の高齢化が、各町内会毎の情報配信量の格差を生んでいる。発信方法によっては世代により取り入れにくいやり方、受け方となり、正しく伝わっていない。活動が見えにくいと、誤解を招いたり伝わらないことが問題。協力を促すのであれば、小さな組織から変えることが必要と考える。
40～49 歳	知っている人達だけにならず、市民への周知の仕方を工夫すると良いと思う。

年代	自由意見
40～49 歳	物価高騰や税金の負担が多く、子育て世代で共働きとなると地域のためとか他人のことまで気が回りません。助け合いというより、仕事としてヘルパーの派遣や災害時の対策や周知を深めていくべき。
40～49 歳	このアンケートを読む限り、高齢者や障がい者を地域で支える方向に行こうとしていると思いますが、そうすることが大きな負担になる場合でも、一応は健全者である私は支援をしなきゃいけないということでしょうか。誰でもいずれは高齢者になる、そして障がい者になる可能性もあるから支援してくださいということですか。それは今の私には無理です。あなたは自分の今や大切な人が脅かされてでも、外国人や障がい者、高齢者を助けられるんですか。
40～49 歳	外で何かあった時に誰かが助けることができるよう、人通りを多くするまちづくり。見守り、パトロールの強化。子どもやシニアカーなどのお年寄りが、安心して歩いたり走ることができる道を作る。信号がない車通りが多い横断歩道などを、誰もが安心して渡れるような仕組みづくり。公園を増やす。未成年、お年寄りが歩く歩道や空間、施設、何でも良いので、車がない道やスペースがほしいです。徒歩圏内にスーパーがない地域へのサポートがほしい。
40～49 歳	ふくし相談課、ほっとサポートおかぎきの人員と予算の拡充を要望します。ほっとサポートおかぎきでは人員と予算不足のため、担当者に大きな負担がかかっているからです。人員と予算が充実すれば管理者と実務者を分けられるため、担当者の負担が減ります。担当者の負担が減れば仕事の効率が上がるので、より多くの困窮者を助けることができるでしょう。上述の理由から、ふくし相談課、ほっとサポートおかぎきの人員と予算の拡充を要望します。この意見が調査に役立てば幸いです。
40～49 歳	子ども医療費を 18 歳まで無償化していただきたい。
40～49 歳	市中心部は施設を新しくしたりしていますが、矢作地区は中高生が過ごせる場所がとても少なく疎外感を感じています。
50～59 歳	アンケート途中にも記載しましたが、助けや支えが必要な人を把握するのはどこでしょうか？その活動は？組長や班長などの役割がないと、地域活動に参加している気になれないです。全員参加という意識が必要と考えます。ただ、その役割が負担にならないようにすることも必要です。
50～59 歳	特性のある児童(例えば自閉症など)が増えていると思います。その児童の育児への手厚い支援をお願いします。また、給食費を無償化にするなど、子育て世代の支援をお願いします。
50～59 歳	コミュニケーションを取る方法が SNS が主流となり、心と心が通い合う交流の場や機会が減り、人間関係が希薄になったと感じています。社会的孤立をしている独居老人や子どもの貧困問題などが現実になっているが、どのような対策をするべきなのか、そして自分はその問題に対して何ができるのか模索し続けています。きっと私のように地域福祉課題に対して何か協力をしたいけど、何をすれば良いのかわからない人達もたくさんいらっしゃると思います。small change、小さいことからでも何か協力できることが見つかるといいなと思っております。このようなアンケートを実施していただけることに感謝いたします。
50～59 歳	情報。どこで、どんな相談ができるのかわからない。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
50～59 歳	どんな箱物を作っても、中身が大切だと思います。子どもの時からの教育がとても大切だと思うので、本来でしたら昔の家庭環境が一番だと思いますが、今の個の考え方が染みついている現代では受け入れられないと思う。福祉の問題はとても難しい。今までいろいろなことに携わってきましたが、やはり個人個人の教育が大切というところに行きついてしまう。幼稚園、小学校、老人施設、障がい者等、みんなが一緒に学べるのが手っ取り早いと思います。子どもは簡単に受け入れるから、子どものうちから高齢者や障がい者とふれあうことが大切。
50～59 歳	交通機関の充実(街の方だけでなく、巡回バスがあると助かる)。提出物などの相談窓口が遠すぎるので、支所でもできるようにしてほしい。
50～59 歳	私の住む地域は田畑が潰れ、新築の家が建ち、人口が増えています。でも、総代役員さんの数は変わらず、活動が大変そうです。もっと町内でもコンパクトに区分けして、多くの方が町内活動ができると良いと思います。市の仕事も“人”が動くものです。余裕を見ることができる活動が希望です。
60～64 歳	普段から、向こう三軒両隣だけでも声をかけ合えるようあいさつから始める。在宅生活が継続できるよう、何かあった時に相談できる人を何人か作れるよう地域の民生委員や自治会活動を PR して、参加できる体制を各自心がける。ちなみに、居住地の民生委員を知らない。転居、転入して1年足らずと、日中、仕事で不在のため？将来は同居。息子に世話になるため同居を決めた。
60～64 歳	町内の組単位で見ても、明らかに高齢化による不安はある。このまま組長を回していけるのかなど、喫緊の問題だと思う。若い人だけに負担がかかるようではいけない。高齢者でも、できる限り助け合いの助ける側にいたいと思う。1年に1回、2回の行事に参加を募るのではなく、日頃から町内に住んでいる人と顔を合わせたい。ラジオ体操の声が上がらないかと密かに期待しています。ぜひ参加したい。
65～69 歳	プライバシーの問題が壁となっているので、ろう者の手伝いをしたくてもできない。困っている人の発信の場、交流の場がもっとあればと思います。
65～69 歳	趣味、スポーツ等の活動をしている場所を知ってもらうための PR。
65～69 歳	岡崎市は社会福祉に関し、周辺の自治体よりも早くから取り組み、施設や仕組みも作られていたように感じます。しかし、そのために老朽化、利用者の減少、固定化も進んでいるようです。名称(通称)も知っている人には伝わるが、何の施設かどんな人を対象にしているのかわかりにくいです。活動内容は同じ名称の施設でもスタッフによりかなりの差があり、そのスタッフが移動すると持続が難しいようです。予算も関係し、岡崎市の地域福祉が周辺の自治体と比べ選ばれる対象となるのか疑問もあります。やや閉鎖的な印象です。
70～74 歳	最近、こんな現実が。目の治療中で、しかも腰の手術もして車の運転ができない同じマンションに住む知人。病院に行きたいのに、普通のタクシーも福祉タクシー(介護タクシー)も予約ができないので、車の運転の依頼を私にしてみました。タクシーの件は人材不足とか他の理由があるようですので、それは理解できます。その方は私や他の知人(岡崎市以外)にヘルプを得て何とか通院できていますが、車の手配にとっても苦勞されています。このような方は他にもたくさんいらっしゃるかと思います。何か良い策はありませんか。私や他の知人も、他人のための車の運転には全てに責任を持ってないのが本音です。
70～74 歳	障がいのある子どもがいるので、将来、親がいなくても安心して暮らせるか心配です。

年代	自由意見
70～74 歳	私はマンションにおり、他市から転入してきましたが、近所を歩いている時、なかなかあいさつの返事がないように感じます。以前住んでいたところでは普通にあいさつをしていたので、知らない人もあいさつができる地域社会であってほしいです。不審者の問題もあり難しいのかもしれませんが、防犯の一番の対策は知らない人でも声をかけ合う地域の雰囲気づくりだと思っています。
75 歳以上	地域で困っている方に手を差し伸べることができる声かけ運動。
75 歳以上	住み良い街、充実した福祉等は、やはり地域を中心とした狭い範囲での活動でなければ、心通った福祉は難しい。市としては、方向、情報の発信・提供。そして、何としても予算の交付。地域での活用は、場所、設備など不足。そういったところで、町内会の充実。町内会を通して活動する。
75 歳以上	町内で年寄り若い人達と一緒に参加できること(楽しいこと)を日頃からやっておくことで、何か災害があった時も助け合うことができるのではと考えます。
六ツ美圏域	
20 歳未満	助け合い、支え合いができるまちづくりを実現させるには、高齢者や障がい者ばかりに焦点を当てるのではなく、健康に暮らせている支える側(労働者)にいる人達への支援がまずは必要なのではないかと思います。全員が自分の家庭や仕事・心身のことで精一杯な今の社会で、他の人の生活にまで目を向けるのは正直難しいのではないかと思います。人はある程度の生活・心の余裕がないと視野も狭くなるので、自身の環境・社会への関心も持っていない人が今は多いのだと思う。カウンセリングを行う相談機関の知名度を上げ、また、相談のハードルを下げる取組があれば、一人ひとりの心の余裕も出てくるのではないかと感じた。この街に住む人の心の豊かさを守ることが、助け合い、支え合いができるまちづくりへの一番の近道なのではないかと思う。
20 歳未満	自分は比較的小年をお召した方が多い町に住んでいますが、今回のアンケートで聞かれて初めて気づくことが多く、例えば、災害時に近隣の方の中で避難するのに手助けがいる方がいるかなど、普段あまり考えることがありません。災害時に避難をするというのは一刻を争うことなので、近隣の人の手助けをすることは急な事態の中でパッとできることではありません。そのために「災害時避難行動要支援者支援制度」や「個別避難計画」があるのですが、自分は全く知りませんでした。漠然とそのようなものがあるのではと思ってはいましたが、それでも知らず、足の悪い祖父母からもあまりその制度や計画を知っているような言葉は聞いたことがありません。せっかく有用なものがあるのだから、それを多くの市民に知らせるべく、大々的に宣伝すべきだと思います。自分が関心がなかったために知らなかっただけかもしれませんが、そういうことに関心がない人にも知らせてほしいです。
20 歳未満	防犯パトロールの強化で助け合い、見守り合いを行う。
20～29 歳	現状、どのような取組をしているかあまりわからないが、地域住民が気軽に集まれるような憩いの場を作ることは有意義かと思う。
20～29 歳	バスを利用する時、療育手帳を運転手の人達に見せると、運転手の人によって料金が変わるから統一してほしいです。
20～29 歳	今回アンケートに答えてみて、地域福祉について知らないことがたくさんあることがわかりました。日々、仕事に行って帰ってくるだけのことが多く、知ろうとしていないことが原因だと思います。そのため、普段意識しなくても情報が得られるような広報をしてくださると嬉しいなと思います(例えば、駅のポスターとか、駅西小町に CM が流れていますが、そこに市の広報も流すとか)。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
30～39 歳	町内会費は支払っていますが、賃貸住宅のためか町内の情報は一切回ってきません。そのため、近隣に支援の必要な方がいらっしゃるかどうかの把握もできていないため、ある程度情報提供をしていただければ動ける時に動きやすいかと思います。
30～39 歳	岡崎市民であること、1回のみ縛るのは難しいとは思いますが、このアンケートを紙ではなく、Microsoft フォームなど電子でやってはどうか。
30～39 歳	子育て世帯としては、18 歳までの子ども達が安心して過ごすことのできる居場所づくりに力を入れていただきたいと思います。例えば、名古屋市の港児童館では、通常 8:45 から 17:00 まで開館ですが、週3回、17:00 から 20:00 を中高生フリータイムとしています。また、館内は冷暖房完備のため、熱中症の心配もありません。世代間交流や異文化交流、企業との交流も月1回行われています。子どもと地域がつながる場所があることで、自然と地域のつながりも多くなっていくと思います。新しく児童館を作るのではなく、現在ある学区子どもの家を改修するなどして、居場所づくり、地域のつながりを増やすことに力を入れていただきたいです。
30～39 歳	介護士や看護師等の賃金向上。高齢者やママさん世代の交流の場の設置、情報の拡散。
30～39 歳	交通機関の充実。中心以外の地区は車での移動しか手がなく、一人の高齢者は不安で施設に移っている。最低限の駅や病院は、公共機関で移動できるようにしてほしい。
40～49 歳	子ども達の遊び場をとにかく作る。室内で遊べる楽しいところがあれば、スマホやゲームばかり見ずに済む。現状、行くところがなさすぎて、結局家でも外でもスマホばかり。子ども達の遊び場があって見守ってくれる人達がいたら、ママも働けると思います。
40～49 歳	行政に頼り過ぎの福祉になればその分税金も必要になるので、地域住民の協力と行政が一緒になって助け合い、支え合う形が理想です。私は今まで地域福祉活動に積極的に参加はできておりません。気持ちの部分では、大きな負担にならないければ協力できるのではと思います。多くの方が少しの協力をしていくことで、助けを必要としている方々の負担が少しでも緩和される社会が形成されるよう、行政・地域住民だけでなく企業・学校にも積極的に福祉活動への参加を呼びかけてください。
40～49 歳	市民の多数が「行動しても何も変わらない」「1人の意見では意味がない」と感じているよう。1人の声で「変化」があることを知る、経験すると、行動が活発になると考える。小さな町の小さな意見をぜひ聞いてほしい、耳を傾けてほしい、直接感じてほしい。岡崎市が好きな子ども達が、どんな考えを持っているかを大きく広く共有してほしい。
40～49 歳	事例(上手く事が進められた等)を市政だより等で展開いただくことは元より、ボランティアでも取り組みやすくなる環境が必要だと思う。
40～49 歳	相談先を明確にいただき、その情報を市民へ周知していただく。
40～49 歳	福祉支援の充実、金銭的補助、コミュニティバス、食事補助。
40～49 歳	私は小学校1年生と2歳の母です。コロナや自分の性格もあり、あまり新しい人付き合いは苦手です。自然にママ友が増えるかなと思うこともありますが、なかなか難しいです。仕事もしているので難しいかもしれませんが、気軽に集まれる場所があるといいと思います。
40～49 歳	町内会などでよく聞く言葉が、「前から〇〇だった」「昔からこういうルールでやっている」という一言です。なぜやらないといけないのか、なぜこうなったのか。わかる人すらいない中、活動している意味は何でしょうか。強制に近い活動で、近所の目を気にして嫌々やっている人が現状の実態に感じます。現状は情報をネットで誰でも得ることができるので、活動のあり方を見直していただきたい。皆さん、仕事と町内活動で疲弊しています。

年代	自由意見
40～49 歳	このアンケートの集計が非常に大変そうです。マークシートや回答欄を見やすくするなど、作業をする職員の方の負担を減らす工夫をし、まずは生産性を上げてください。無駄な労働力を他に注力してください。
50～59 歳	各家庭で状況、経済面が違うので、相談窓口の充実。相談員が多い方が、それぞれの家庭に合ったサービスを受けられると思います。一人暮らし相談窓口もあるといい。または、市政だよりで今後の高齢者生活準備特集を発送する。50 代、60 代で今は自分で身の回りのことができるが、何をどう準備したらいいかわからない。周りに迷惑をかけたくないと思っているが、高齢になれば誰かの世話にならなければならない。実際にヘルパーや介護の仕事をしている人が「こんな老人は困った」とか意見も聞きたい。私は可愛い老人になりたい。
50～59 歳	今年度、息子が晴れて小学生となったが、私の住む町では少子化・多様化・近隣住民との付き合い等により、「子供会に入らない・入る必要がない」「通学団は町内ではなく、隣町の気の合う友人と通学する」他、「町内会に入らないから、災害時には助ける必要がない」等、当たり前だと思っていたことがそうではなくなってきている。そうした中で、いざ災害や生活に支障がきた中でどうして良いのかがわからない。窓口があったところで解決できるのかは疑問。市からは、もっと困っている人達に対してどう対応していけば良いのか最善策を教えていただきたいし、何とかしてほしい。
50～59 歳	今年の夏、朝のウォーキング中に道端で台車に載せたカゴの中にはまっている高齢女性がいました。「どうされましたか」と声をかけたところ、道路にはみ出した木の枝を切ろうとして、誤ってカゴにはまってしまったとわかり、救出しました。腰がかなり曲がっていて届かないのに、とても硬い木の枝を自分で切ろうとしていたようです。「どこに頼んで良いかわからない」と言われていました。高齢で一人暮らしの方は、日々の生活の中で困っていることが少なからずあるかもしれません。でも、親しくないとなかなかこちらから声をかけることが難しい現状があります。民生委員さんとか訪問可能な方が、定期的に現況確認として行政等につないでいってくださるとありがたいです。
50～59 歳	自分の生活、親のこと、子どものこと、経済的なことなど余裕がなく、他人のことまで考えていられないです。
50～59 歳	日本は世界に例を見ない超高齢化社会を迎えようとしています。地域包括ケアシステムの中で、地域住民の参加が鍵となると思います。住民や NPO、民間企業等のサービス提供(例えば、地域サロンや見守り、外出支援)。そして、老人クラブや子供会、ボランティアや自治会など、いつまでも元気に暮らすために趣味や健康づくり活動への参加。また、公的な関係機関が協働して、課題の解決にあたる必要があると思います。
50～59 歳	核家族になると自由ではあるが、いずれ一人になってしまうから誰かが見に来ないといけない。現状難しいから、昔のような助け合いが必要。近所の人を知ることが大切なかも。
50～59 歳	最近、若い人達の地域活動の無関心さが目立ちます(寄付金の支払い拒否や地域活動の不参加等)。他人との関わりが希薄な今、福祉に関心を持ってもらう取組が必要だと思います。
60～64 歳	将来、高齢者が増えていくと思われるので、高齢者に優しいまちづくりを行ってほしいです。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
60～64 歳	年齢によって考え方が違うので、「良かれ」と思ってした行動が「おせっかい」につながったりして、上手く近所付き合いができないのも現実かと。長く続けられてきた行事や町内の規律にしても、時代を見て考え方などを変えていかなければいけないこともある。でも、年配者にとっては、なかなかすぐにというわけにはいかない。また、町内行事に関心のない方が多く、コミュニケーションも取りにくい。若い人に支えていってもらうためにも少しずつ切り替えが大切。関心を持ってもらうことが、まず大切なのではないのでしょうか。お疲れ様です。
60～64 歳	町内に怪しい人が来ていないか、町内会の見回り強化、防犯。定期的に高齢者や障がい者宅に行き、地域住民の安否確認の声かけをする。
60～64 歳	地域福祉の難しい面は、近所の場合、親世代が町内活動に積極的に関わっている場合は子世代は町内活動には無関心になりやすく、また、仕事の関係で地域を長く離れていた場合、なかなか馴染めない。もう一面として、その人その人の性格によるところがある。地域福祉に対して関与したい人もいればその反対の方もいて、年齢を重ねるほど頑固になりやすく、関わり方がわからないし難しい。
60～64 歳	まずは、災害に備えた体制づくり。
60～64 歳	県営住宅、市営住宅に高齢者が入れるようにしてほしいです。
65～69 歳	高齢者の免許返納と言われるが、岡崎は陸の孤島、自分で運転しないとバスは不便。高齢者のタクシー割引などがあると良い。夜間、JR 岡崎からの帰宅のための移動手段がない。自分が高齢者と言われる歳になったが、福祉関連の案内など見ることもなく今までは捨ててきた。突然配偶者が亡くなったらどこへ連絡するか、葬儀、火葬などどうするか、市ではどんな施設があるかなど、60 歳の人への案内、65 歳の人への案内、70 歳の人への案内など、案内パンフレットの DM が届くと良いと思う。
65～69 歳	気軽に相談できる窓口の拡充。
65～69 歳	用水路、田んぼが集中豪雨で危険です。ボランティアも良いのですが、危険箇所を整備していただきたいです。
70～74 歳	子どもから大人までいつでもフラッと寄れる、くつろげる施設があれば良い。
70～74 歳	市内を買い物・病院などで安く利用できるバス、タクシー他。
70～74 歳	高齢者夫婦と障がい者(子)と3人で生活しています。今後の生活をどうしたら良いか不安です。行政の支援はどれだけ受けることができるのか、家族でどのようにしていくのが良いか、細やかな情報をいただければ幸いです。親亡き後の子が、安心して生活できるよう願うばかりです。
70～74 歳	私は 70 歳前から市民住宅(土井町)の申し込みをしますが入れません。住めないので入りたいです。
70～74 歳	地域住民というより、まず今、現実に見られる「向こう三軒両隣」の希薄さをどう解消・充実させていくかではないだろうか。
75 歳以上	岡崎市は福祉が充実していて、住み良いところだとありがたく思っています。80 代になり、町内会のことは息子の代となりました。やはり、子どもの頃から福祉のことを知っていると思うので、教育の充実、福祉を学習する機会などを増やしていただきたいと思えます。思いやりの心を育てていただきたいです。
75 歳以上	①各町内に、以前から住んでいる者と新たに移住してきた者との交流の場所を作ることが大切。②親の家へ移住してくる人が最近多くなっている。親は移住してきた子ども達に町の以前からの行事等を理解させて、協力して地域取組を活発に。③地域支援の乗り物の充実。例として、学区が隣接していても、区外と言ってバスが来ない。学区の大半が市街で、その中に農業等、昔からの集落があるので、福祉バスを通すようにする等の支援を。

年代	自由意見
75 歳以上	地域の行事に常に参加し、地域住民とのコミュニケーションを積極的に図る。
75 歳以上	何しろ、よく動くことと困ったことがあったら、あまり人様に頼らずできることは自分です。福祉に関する総合相談窓口の充実。
75 歳以上	転居してきて一番感動したのが、すれ違った見知らぬ児童達が「こんにちは」とあいさつしてくれることです。お年寄りも会釈してくれる人が多いです。関東では防犯上知らない人と口をきくなど教育されています。賛否はあると思いますが、これには心が癒されました。偏見で言うのではないですが、関東人から見ると歴史の成り立ち上、愛知県民は独特の県民性があるとか。小生、岡崎市正名町に転居してきて身に沁みて感じました。決して良し悪しではなく、育った環境・地域性・県民性の違いでしょう。未だ当地に心を開く友人もできず、馴染めずにおります。もっと地域の交流が活発であれば打ち解けることができると思うのですが、場所も機会もないのが現状です。
額田圏域	
30～39 歳	地域住民との付き合いが大切だと思います。
30～39 歳	田舎に住んでいるので良くも悪くもつながりはある方だが、家主の父に任せている。自分の代になった時に、こんな面倒な行事や回覧にある内容の共有や募金のお知らせという名の強制があると思うと辟易する。災害時などの緊急時だけで良いのではないか。自身の生活が子育て中で、他のところに割きたくない。
50～59 歳	助け合うためには、個々の生活が安全安心して余裕がないと他者は助けられないし、強制すれば重荷や他者批判につながってしまうので、「助け合い」を美德とするのではなく「余裕があればやっていきたいね」「やれるといいね」という共通意識があると、気軽に参加してみようと思えるのではないかと思います。
50～59 歳	人は皆歳を取り、いろいろな部分で不安になります。高齢者だけでなく、介護や体の不自由な人など差別するのではなく、もっと市民に耳を傾ける努力をしていただきたいと思います。
50～59 歳	①行政に頼るばかりではダメかと。個々の考えや行動が大切。②市の中でも地域差がある気がします。田舎地域の方が高齢者が多く、交通・買い物など苦勞が多い。
50～59 歳	私の住んでいる地区は、災害に遭ったらまず2週間は助けが来ないと言われていました。そういう情報をもっと発信してほしいです。1年に数回、防災訓練はしていますが、防災グッズなど身近にある物で代用できる物とか教えてほしいです。よろしくお願いします(LINE での情報はよく見えています)。
60～64 歳	民生委員をやっていただいている人のため、ボランティアではなく、もう少し手当を出しては。今やっている人はいいが、これから今後してくれる人がいなくなるのでは。
65～69 歳	法律を守ること、市民と同じ価値観を持ち、平和を作る人だけでないと安心して暮らせなくなるから、海外の移民が入ることを止めてほしい。日本人の常識や正しい規律ある生活を乱されたり、安心な街(町)が壊されたりしていく心配がある。
65～69 歳	町内会の下部組織として、有償の支援作業(買い物、通院の送迎、庭木の手入れ、電球の交換、草刈りなど)を有志で活動できるように、支援や助言をお願いしたい。
65～69 歳	困ったことに対し、気楽に相談ができる場、その人に寄り添って話を聞いてくれる場が大切。高齢になり、車の運転ができなくなった人への援助(病院、買い物)。
70～74 歳	通院、買い物等の交通手段の確保。民生委員の充実。
75 歳以上	岡崎市ふれあいデイサービスセンターが令和7年度でなくなるとお聞きしました。行ってみえる方がとても残念がって見えます。これから、こういったセンターが継続できることを願っています。
75 歳以上	若い世代の方が、今までの地域に住む人間同士の助け合い、支え合える地域づくりから離れる傾向にあることが心配です。

#### IV 自由意見

年代	自由意見
75 歳以上	高齢夫婦世帯につき僻地に居住していると、どちらかが運転できなくなった場合の交通手段に心配がある。
圏域不明	
70～74 歳	こんなものは送って来ないでほしい。
75 歳以上	渡上公園の充実。①雑草が酷いので、公園内の外周を草が生えないように広い歩道を作って、散歩ができるようにしてほしい。②子どもの通学の集合場所になっているが草だらけなので、例えば、子ども達の親や地域の人達で決まりを作り、草取りをした方がよいと思います。③小さな子どもが遊ぶ遊具のある場所も草だらけでみっともないので綺麗にしてほしい。④大きな木の剪定がされていないのでしてほしい。



岡崎市地域福祉に関する市民アンケート調査  
＜調査結果報告書＞

発 行：岡崎市  
編 集：岡崎市 福祉部 ふくし相談課  
住 所：〒444-8601  
愛知県岡崎市十王町2丁目9番地  
電話：0564-23-7636  
発行年月：令和8年1月